

Ⅱ. 評定尺度調査の分析結果

【評定尺度調査の分析にあたって】

今回用いた評定尺度は、「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」による 4 段階評価である。

本報告書においては、データの理解や分析のしやすさを考慮し、便宜的に 4 段階のカテゴリーに 4～1 の点数を振り、その平均値を算出することによって、データの代表値とした。

ただし評定尺度の各カテゴリーに振られた「数字」を「数値」として加減乗除の演算をすることは、厳密に言えば統計処理として適切でない。

3 が 2 よりもあてはまる程度が大きいことは言えても、4 と 3 の間と 3 と 2 の間が等距離（つまり 1 の間隔）だという保証はどこにもないからである。

しかし 4 つのカテゴリーごとの相対度数（パーセント）から何らかの傾向を掴み取ることは容易ではないため、平均値を回答の傾向を推察する目安の 1 つとして用いたい。

また、ここでの平均値は何らかの単位を持つものではないので、データ同士の相対比較でのみ、その傾向を読み取ることになる。仮にある項目の平均値が、他の項目より低かったとしても、大部分の回答者がその項目に対して肯定的な評価をしていれば、その項目の評価は低いと簡単に断言できるものではないからである。つまり絶対的な評価が把握しにくいと言える。そこで、「あてはまる」もしくは「ややあてはまる」と回答した対象者の割合を合計して提示した。

これによって、その評価項目に対し肯定的評価をしている学生がいかなどの割合で存在するかを推測する目安とする。

さらに回答者の属性ごとの回答者数について、本来ならば、グラフ等のデータごとに回答者数を示すべきであるが、全てのデータに回答者数を掲載すると極めて煩雑になるため、ここに一括して掲載することにした（次頁表 2－1）。

以下、本章においては、常に次頁の回答者数に基づいてデータを見る必要がある。特に回答者数の少ない層ほど誤差が大きくなり、%表記がそぐわないため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。

例えば、大学院では職業別の「パート・アルバイト」（1 人）、「農業等」、「他大学等の学生」は 0 人）で、年齢階層別では、「20～29 歳」（1 人）（70 歳以上は 0 人）が挙げられる。

表 2－1 回答者数一覧

【学部】				【大学院】			
全体		2,772		(単位:人)		全体	
メディア		51		(単位:人)		メディア	
		年齢階層				年齢階層	
テレビ科目(TV)	1,606	19歳以下	61	テレビ科目(TV)	0	20～29歳	1
ラジオ科目(R)	1,166	20～29歳	274	ラジオ科目(R)	51	30～39歳	6
職業		30～39歳	268	職業		40～49歳	19
公務員等	176	40～49歳	483	公務員等	8	50～59歳	14
教員	84	50～59歳	786	教員	22	60～69歳	11
会社員	663	60～69歳	634	会社員	4	70歳以上	0
個人営業・自営業	200	70歳以上	266	個人営業・自営業	3	プログラム	
農業等	10	コース		農業等	0	人間発達科学	41
看護師等	299	基盤科目	326	看護師等	3	情報学	10
家事専業	176	基盤科目(外国語)	49	家事専業	2		
パート・アルバイト	410	生活と福祉	675	パート・アルバイト	1		
他大学等の学生	14	心理と教育	185	他大学等の学生	0		
無職	531	社会と産業	237	無職	6		
その他	209	人間と文化	520	その他	2		
		情報	166				
		自然と環境	330				

Ⅱ－１．学部の実績

Ⅱ－１－１．項目平均から見た全体的傾向

ここからは、A-1～B-21 の評価項目（14～16 頁の提供資料サンプルを参照）ごとに、平均値と肯定的評価のグラフを基に、そのデータから目立つ点や、特徴的傾向を記述していくことにする。

平均値は、評価項目の選択肢である「あてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」に対して順に 4 点、3 点、2 点、1 点の得点を与え、その得点合計を回答者数で割った値である。全員が「あてはまる」とした場合、平均値は 4.00 で最も高くなり、全員が「あてはまらない」とすると最低の 1.00 となる。

また、肯定的評価は文字通り「あてはまる」と「ややあてはまる」の比率の合計である。

平均値より肯定的な評価の方が（例えば回答者の 80 % と）イメージしやすく、平均値と肯定的評価に齟齬が出た場合、どちらを採るか合理的な判断ができないので、記述については肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

図 2－1 の肯定的評価では各項目とも 80 % 以上で、『通信指導・単位認定試験』（B-14～B-16）が 91 % と最も高く、逆に『放送授業』（84 %）が最も低い評価であった。

図 2－1 【学部】項目平均による全体的傾向

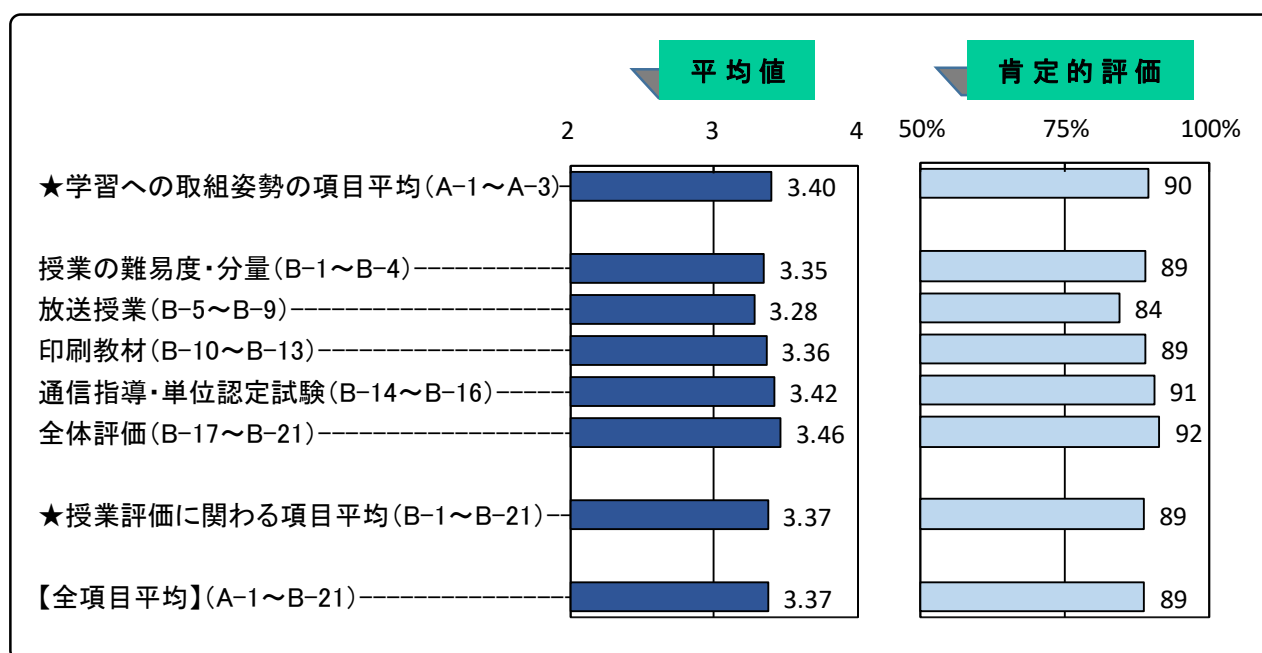
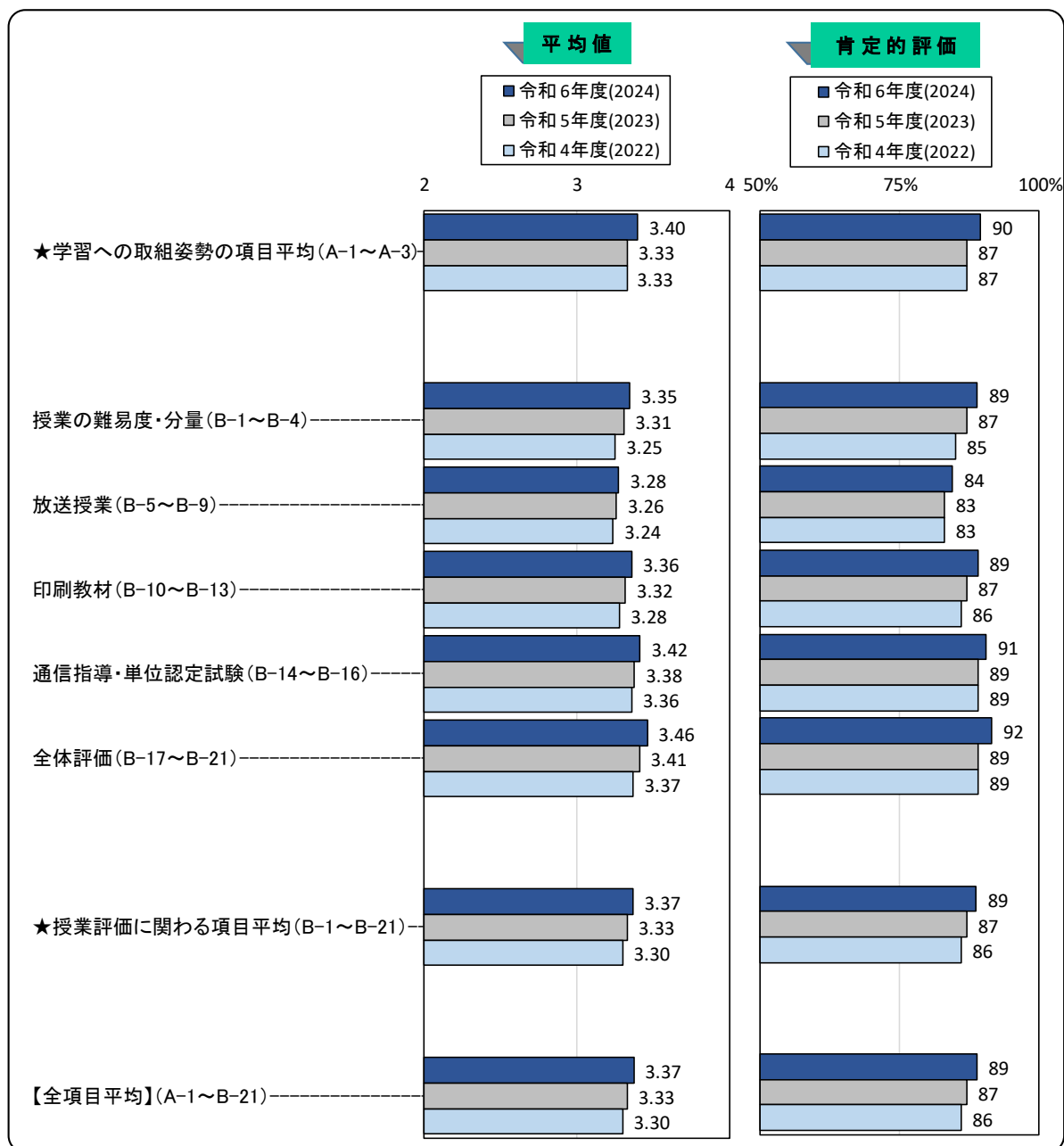


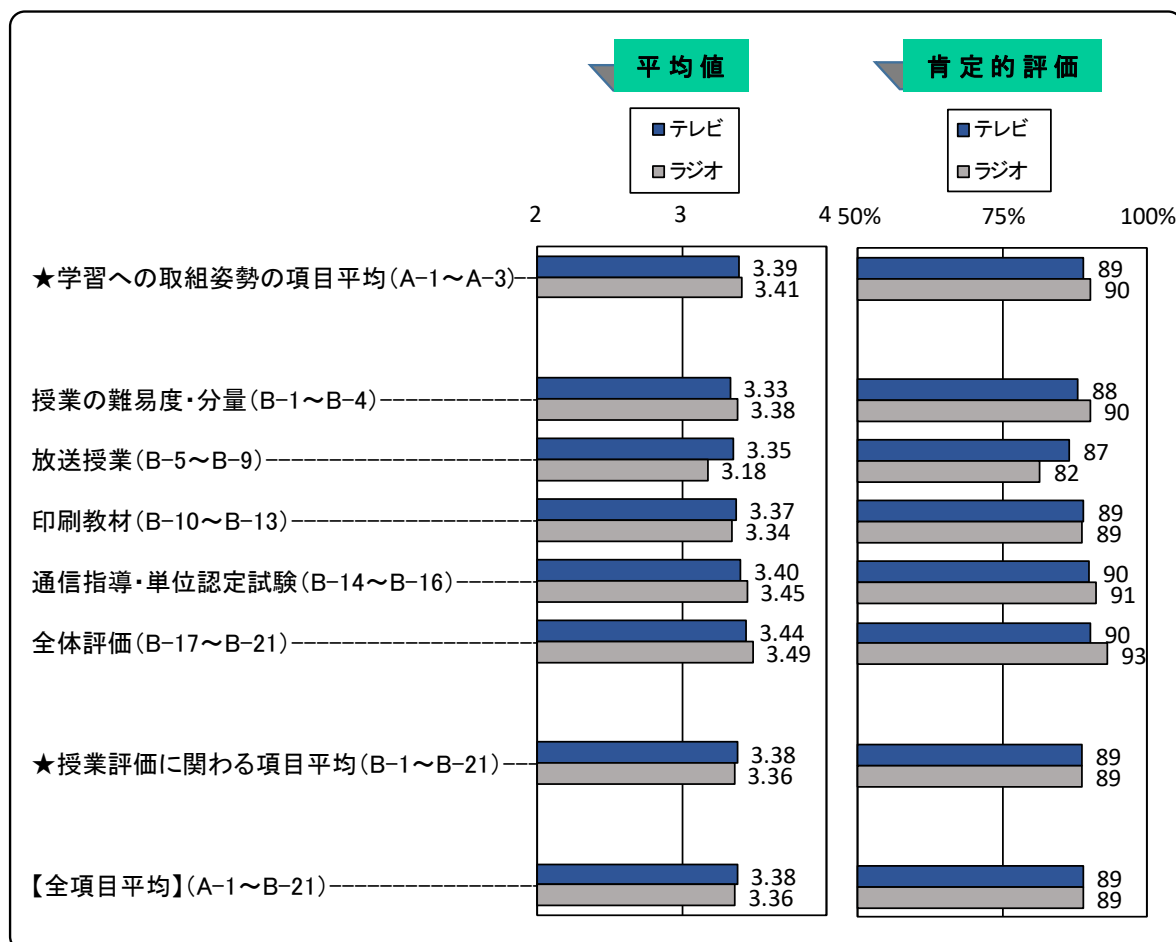
図2-2の項目平均による全体的傾向では、肯定的評価が本年度は、いずれの項目も昨年度より1～3ポイント増となっていた。

図2-2【学部】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



メディア別では（図２－３）、テレビ科目とラジオ科目のメディア間では、『放送授業』以外においては横ばいかラジオが１～３ポイント上回る結果となったが、『放送授業』については逆であり、テレビの方が５ポイント高くなっていた。

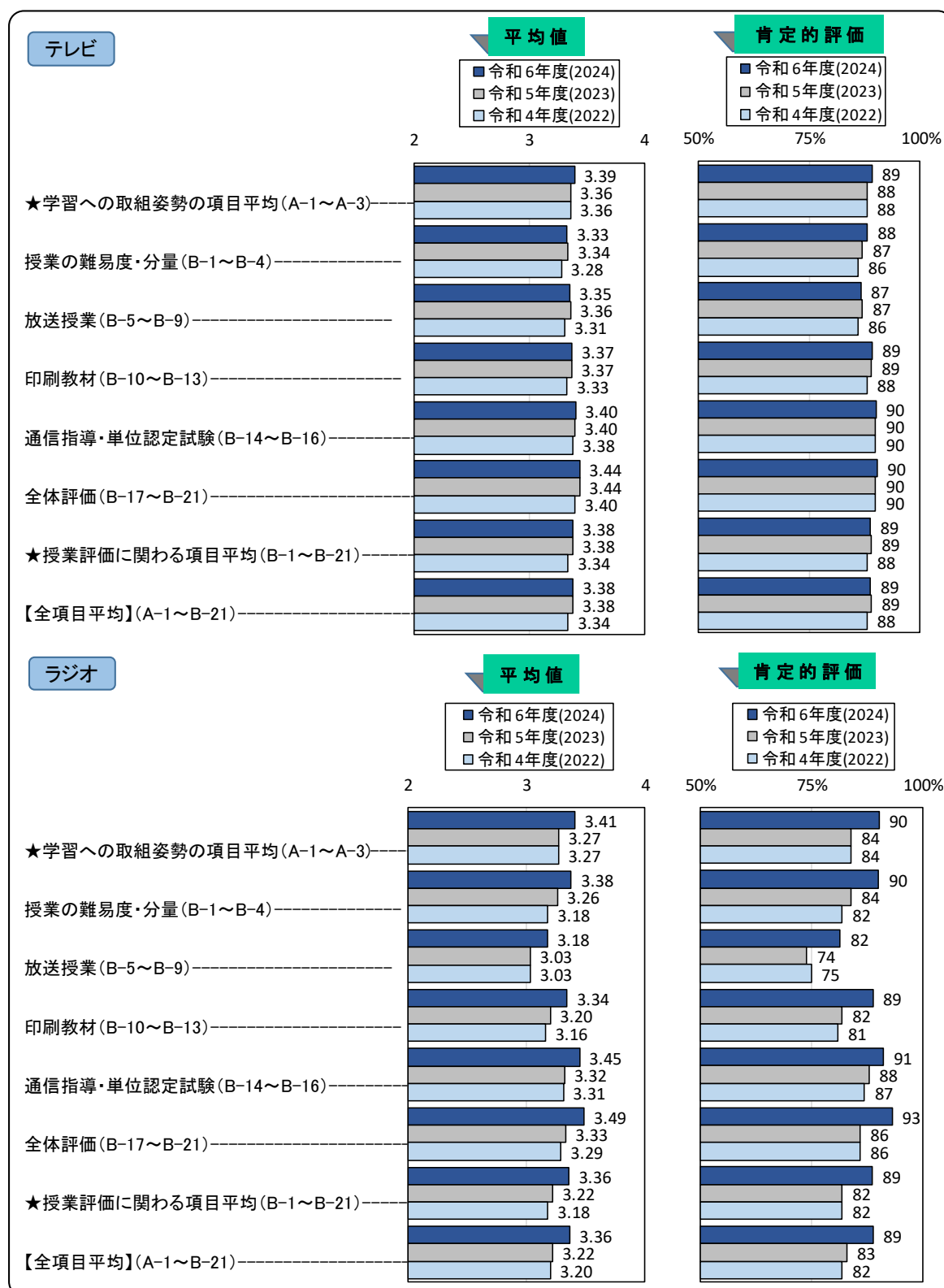
図２－３ 【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向



メディア別の項目平均を時系列で比較してみると（図2-4）、テレビ科目では、ほぼ横ばいであった。

一方、ラジオ科目では、全項目で評価が昨年度を上回っており、中でも『放送授業』は肯定的評価が8ポイントのプラスであった。

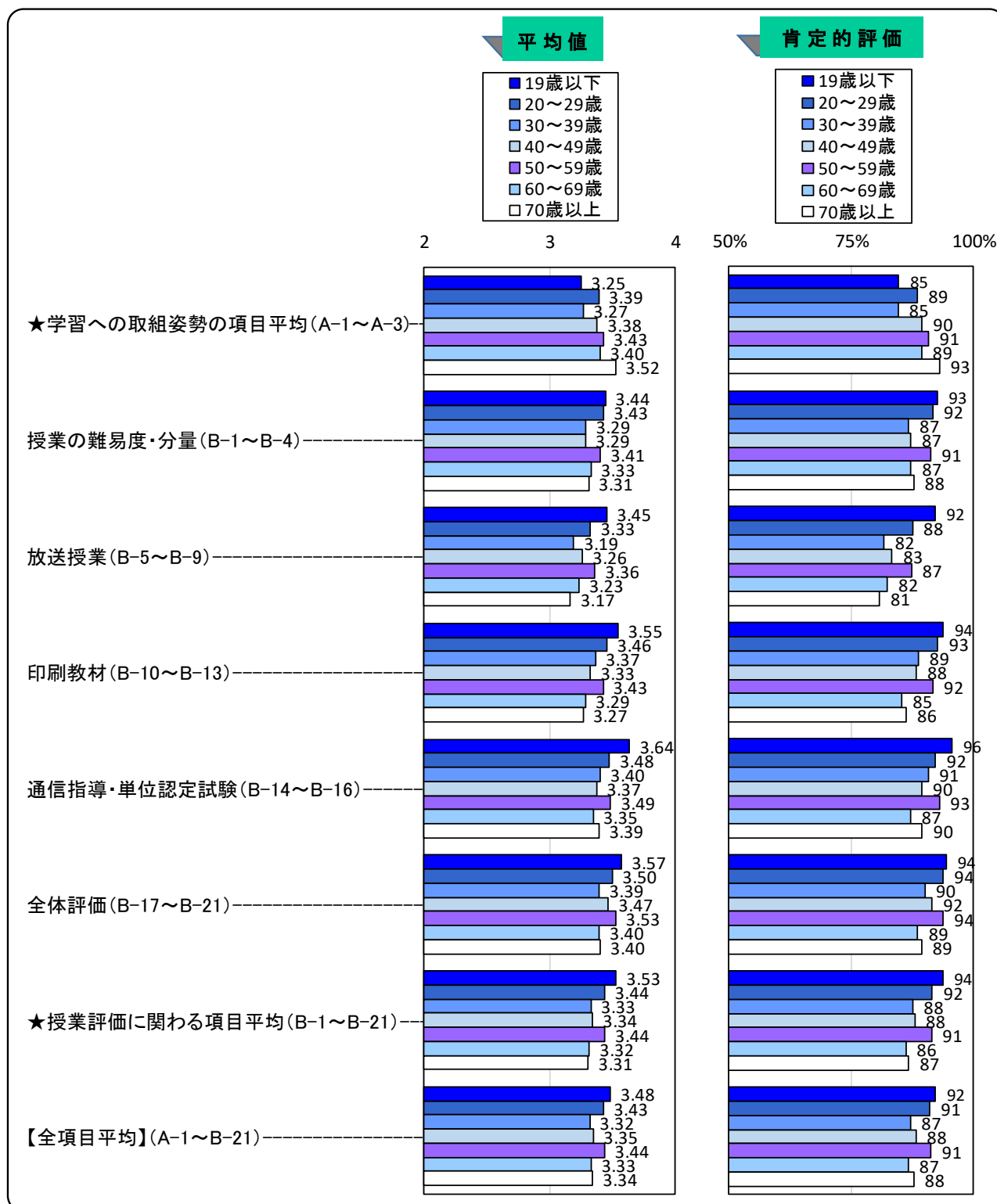
図2-4【学部】項目平均によるメディア別全体的傾向（開設年度比較）



年齢階層別（図2-5）では、50歳代は、全項目で肯定評価が高くなっていた。『学習への取組姿勢の項目平均』以外においては19歳以下も評価が高かった。

逆に全般的に評価が低かったのは30歳代と40歳代で、特に『放送授業』の評価が82～83%と低かった。

図2-5 【学部】 項目平均による年齢階層別全体的傾向

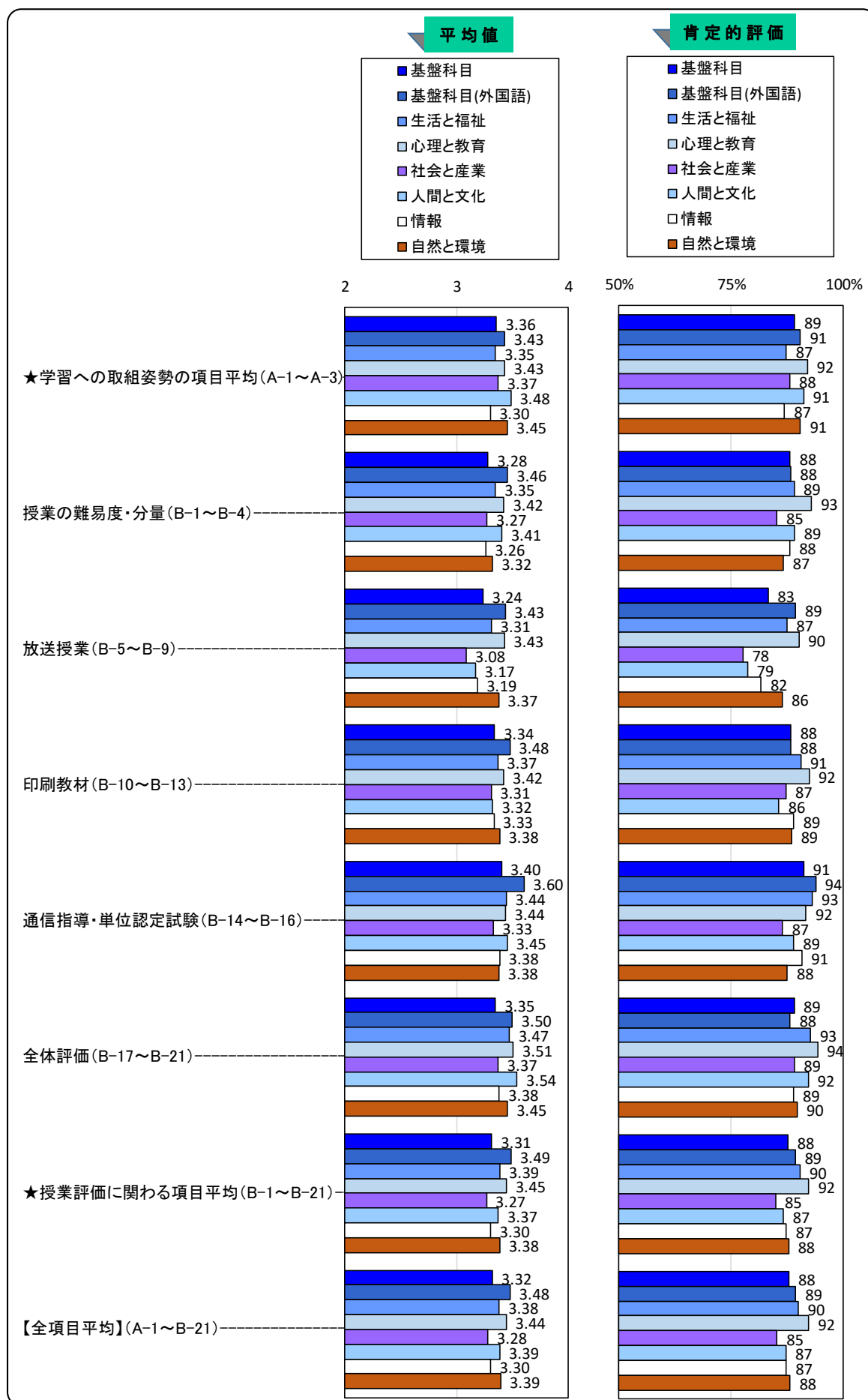


所属コース別に項目平均を見ると（次頁図 2－6）、『通信指導・単位認定試験』以外の項目で「心理と教育」の肯定評価が最も高かった。また、「心理と教育」は、全ての項目において、肯定評価が高く 90%～94%であった。

逆に「社会と産業」は『学習への取組姿勢の項目平均』以外の項目で、他の所属コースより肯定的評価が低く、最も評価の低い『放送授業』は 78%と他の所属コースに比べ大きな差が見られた。

その結果、『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』において、「心理と教育」の肯定的評価が最も高く、「社会と産業」が最も低かった。

図2-6 【学部】 項目平均による所属コース別全体的傾向

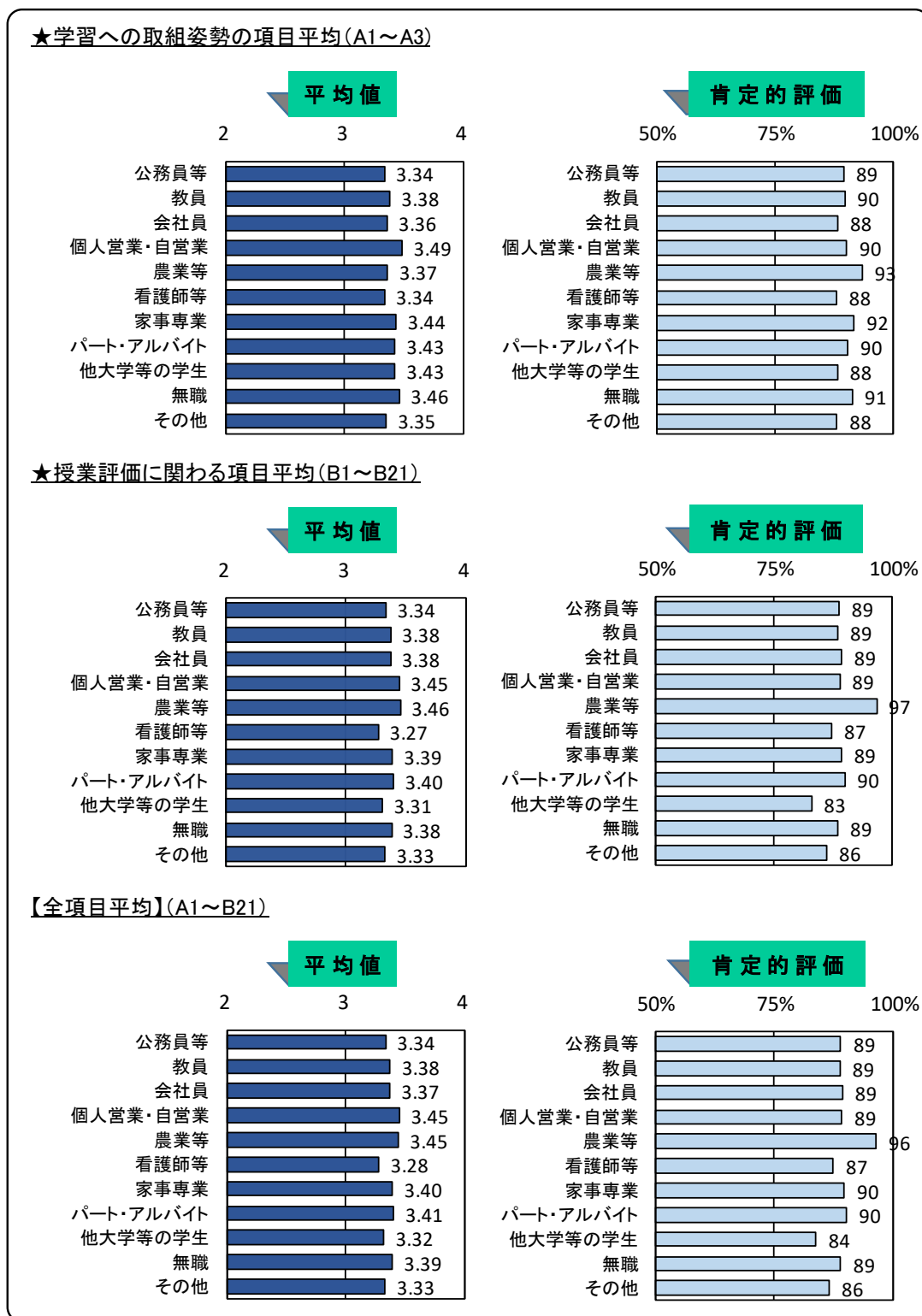


職業別の（図2-7）肯定的評価は「農業等」が91%と最も多く、続いて「家事専業」と「パート・アルバイト」が90%であった。

反対に「他大学等の学生」は『授業評価に関わる項目平均』で最も評価が低く、上位1～3位に比べ7ポイント以上の差が見られた。

他に「その他」も『授業評価に関わる項目平均』では、86%と低くなっていた。

図2-7【学部】項目平均による職業別全体的傾向



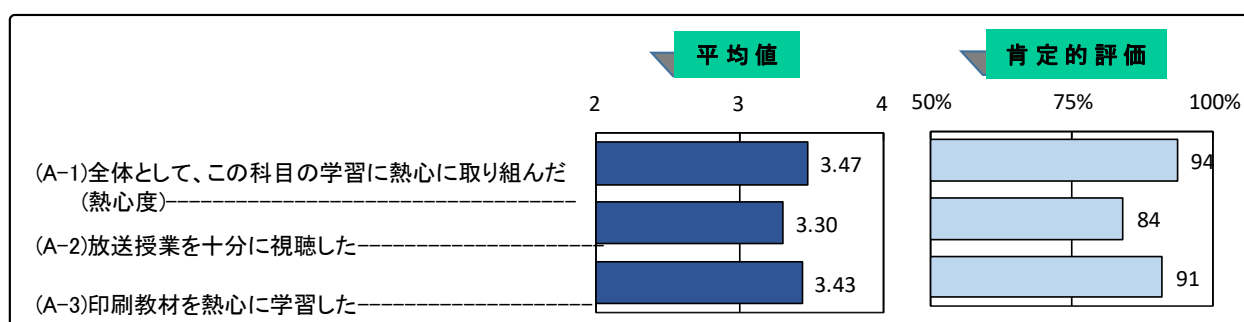
Ⅱ－１－２．学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれの評価項目ごとに調査結果を見ていく。

全回答者の学習への取組み姿勢（図２－８）は、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」が94％と、その熱心度は高かった。

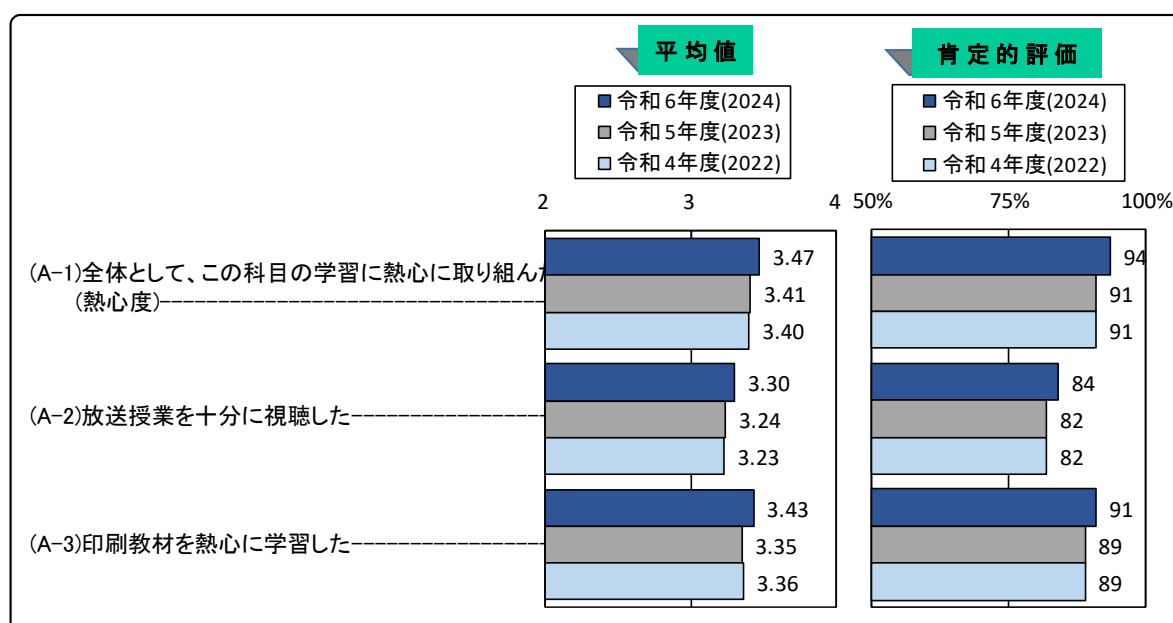
(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は84％と、他の２項目に比べ低く、印刷教材での学習のウエイトの方が高かった。

図２－８【学部】回答者全体の取組姿勢



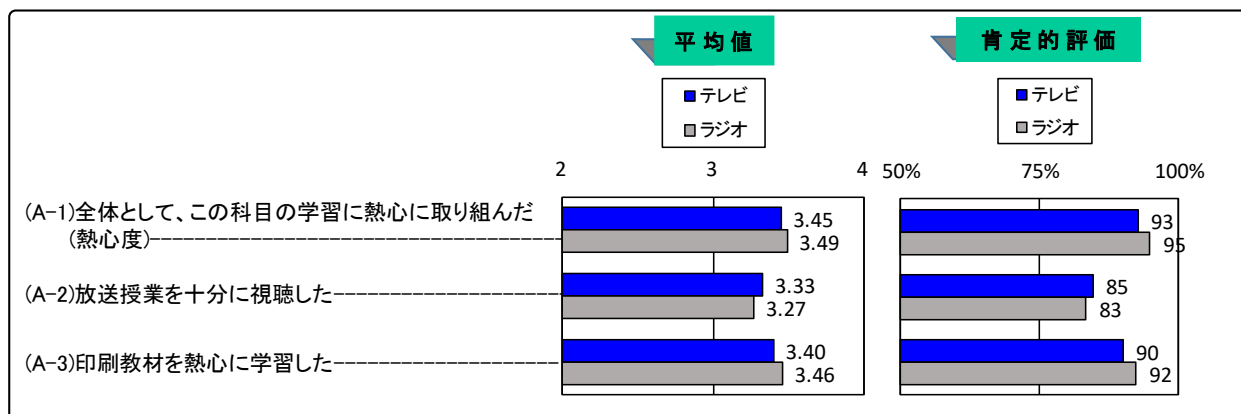
取組姿勢を時系列で見ると（図２－９）、全ての項目で本年度の結果が、大きな差ではないものの、昨年度、一昨年度と同水準か上回っていた。

図２－９【学部】回答者全体の取組姿勢（時系列）



次にメディア別の取組姿勢では（図２－１０）、テレビ科目とラジオ科目を比べると、ラジオ科目の方が印刷教材の学習や全体的な熱心度においてわずかながら優れている一方で、放送授業の視聴に関してはテレビ科目の方が若干優位に立っていた。

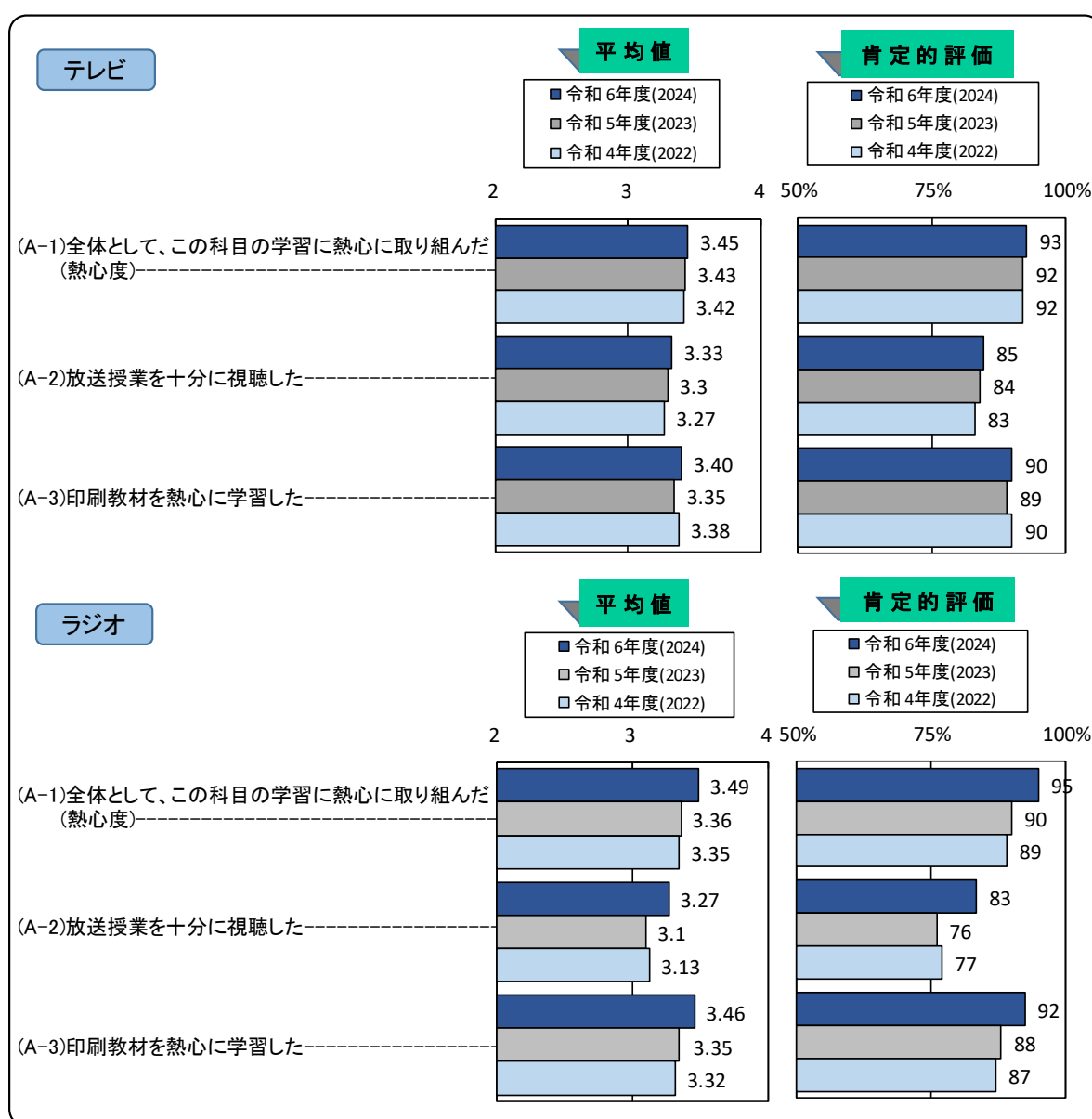
図２－１０【学部】メディア別の取組姿勢



メディア別の取組姿勢を時系列で見ると（図2－11）、テレビ科目は、昨年度と比べ3項目とも1ポイント前後の増減となっており、大きな変化は見られなかった。

ラジオ科目については、昨年度と比べ3項目とも評価が上昇しており、中でも（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は7ポイント増となっていた。また、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」、（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」ことについては、連続して評価が上昇していた。

図2－11 【学部】メディア別の取組姿勢（時系列）

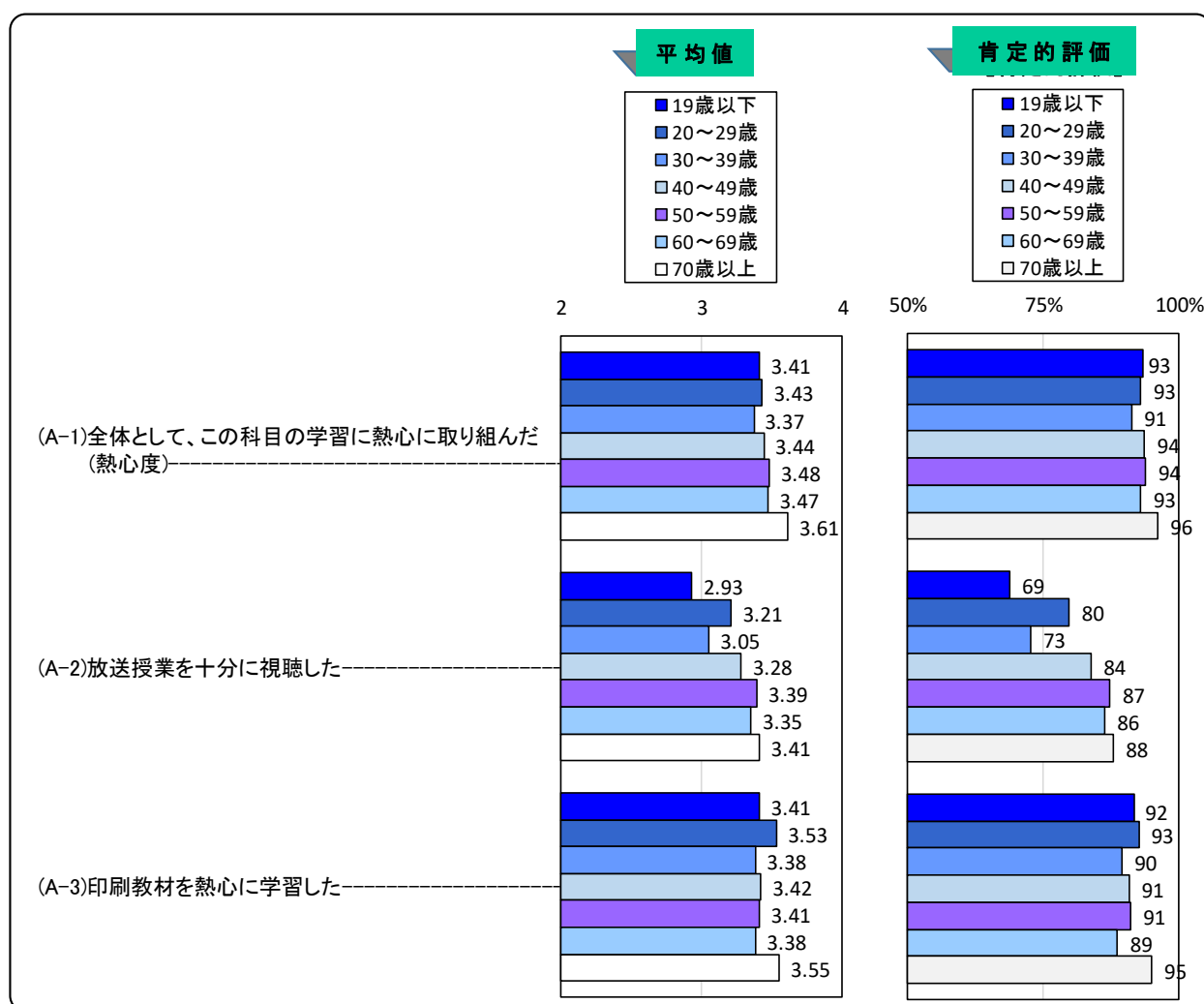


年齢階層別に取り組姿勢を見ると（図2－12）、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は各年代とも91～96%と大きな差は見られなかった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」については19歳以下が69%と最も低く、20～30歳代も8割以下となっていた。

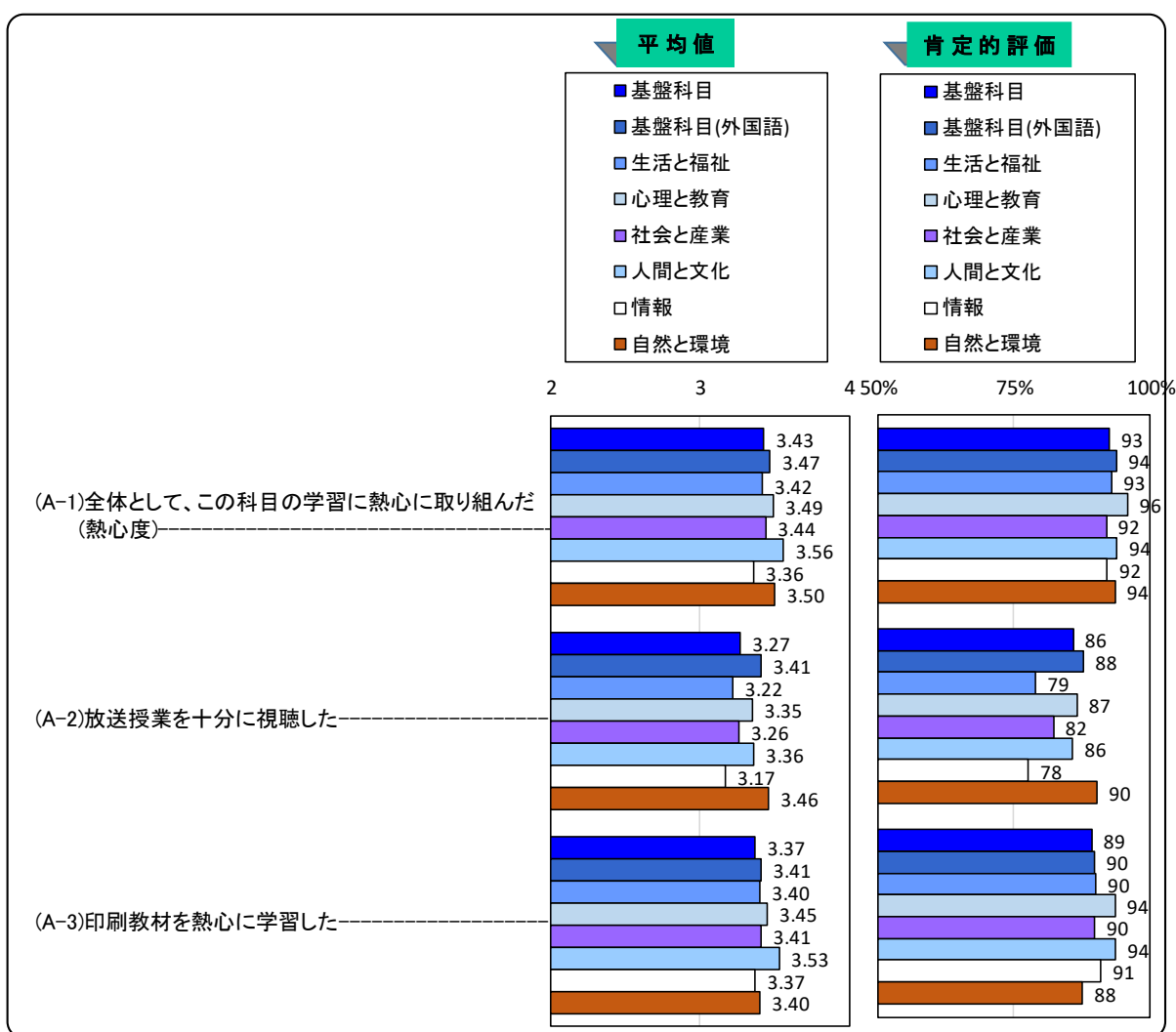
（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」については、70歳代が95%と最も熱心度が高かった。

図2－12 【学部】年齢階層別に取り組姿勢



所属コース別に取り組姿勢を見ると（図2－13）、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」（A-3）、「印刷教材を熱心に学習した」については「心理と教育」および「人間と文化」が最も高く、全項目においても88～96％と高水準であったが、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」については「生活と福祉」が79％、「情報」が78％と、最下位で極端な傾向が見られた。

図2－13 【学部】所属コース別の取り組姿勢



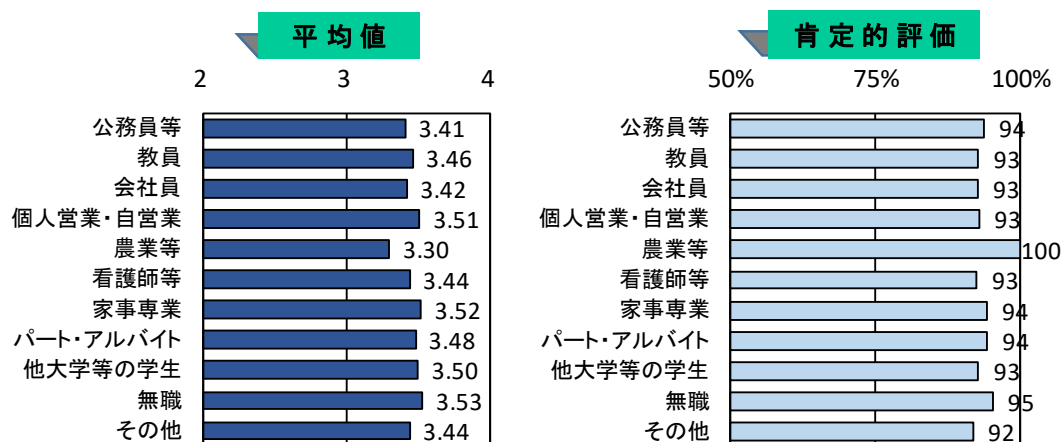
職業別に取り組姿勢を見ると（次頁図 2－14）、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」は「農業等」が 100%と他の職業と比べ、その割合が高かった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」については「他大学等の学生」が 93%であったが、「看護師等」が 81%と最も低い等、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ」や（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」と比較して全体的に低い評価傾向が見られた。

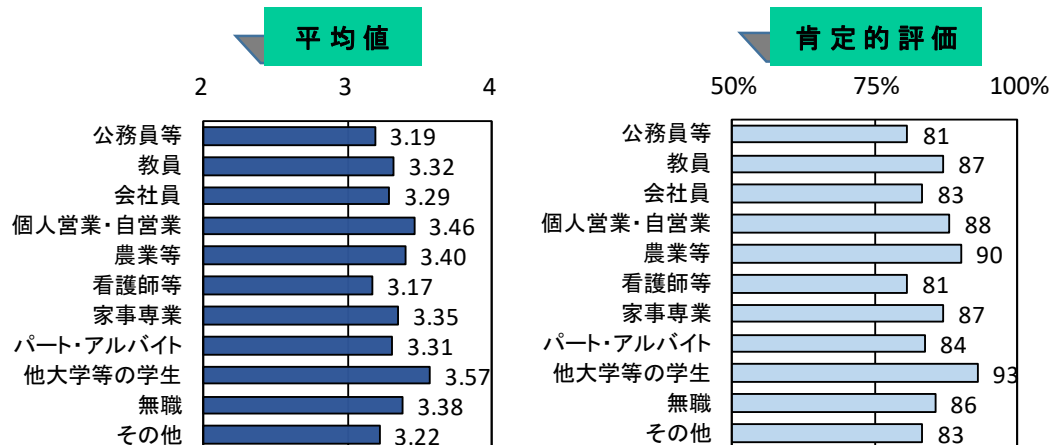
（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」では「公務員等」と「家事専業」が 99%と最も高かった。各項目とも熱心度が最も低かったのは「他大学等の学生」の 79%であった。

図2-14【学部】職業別の取組姿勢

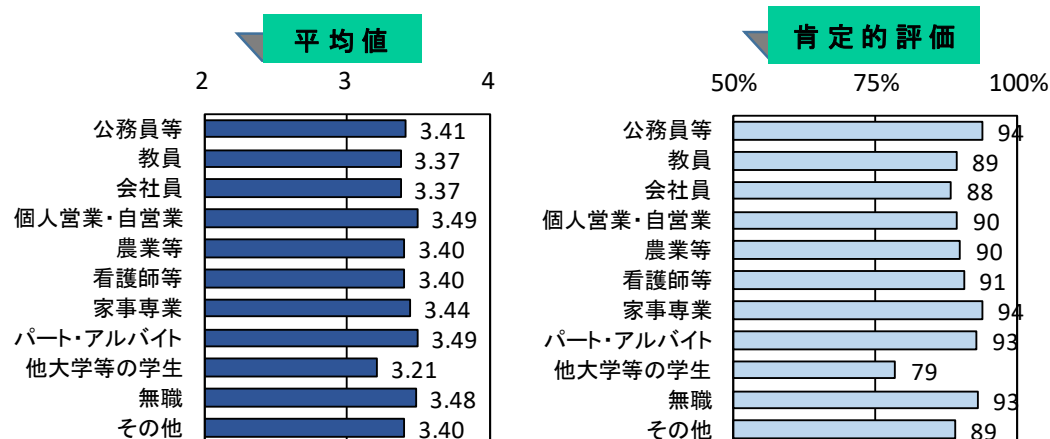
(A-1)全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ(熱心度)



(A-2)放送授業を十分に視聴した



(A-3)印刷教材を熱心に学習した



単位認定のための学習方法（次頁図 2－15）では、全体は『放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ』が 74%と多く、『ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ』が 19%、『ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ』は 7%にしか過ぎず、「印刷教材の学習」で見ると、その利用は 93%であった。

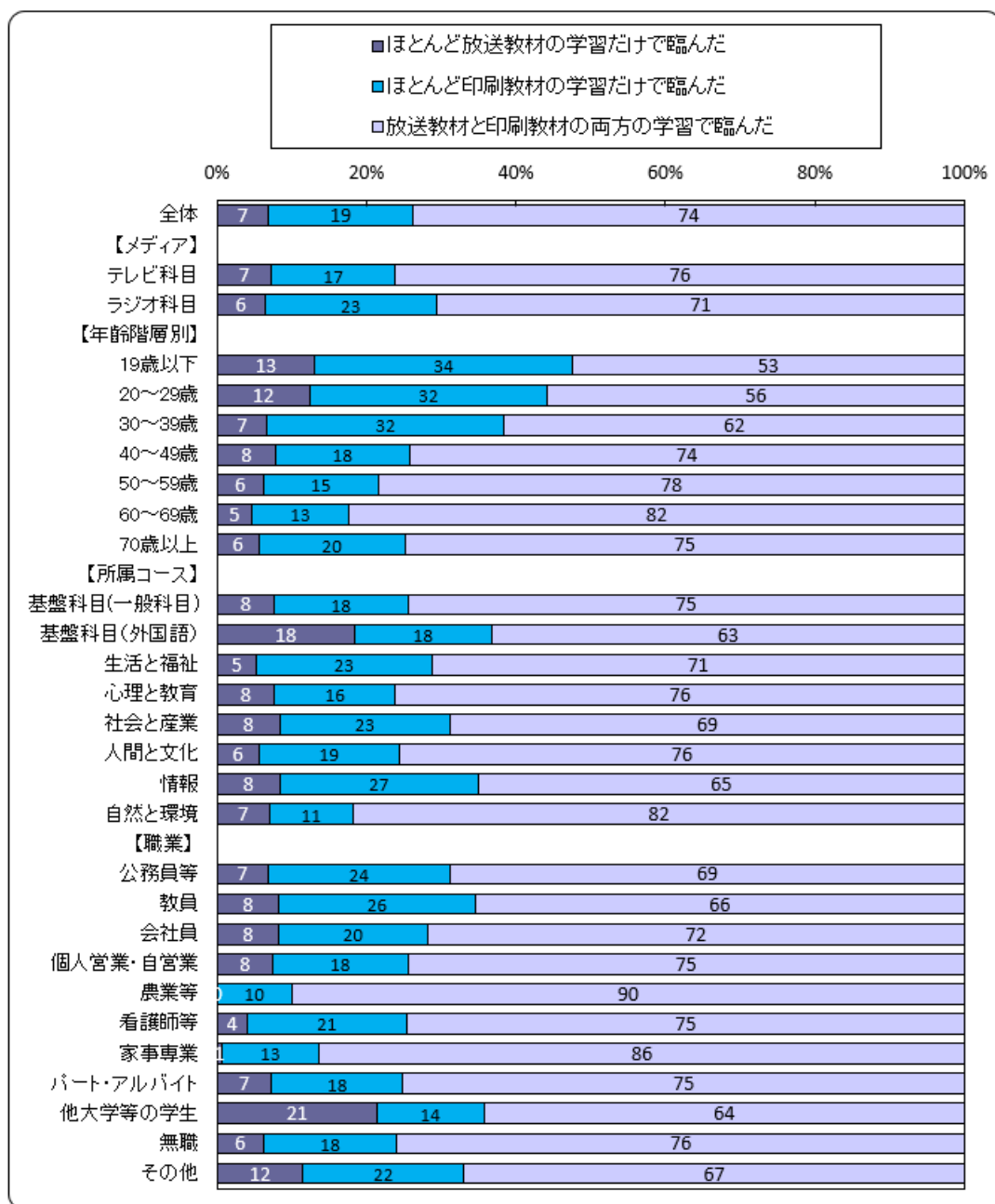
メディア別では「テレビ科目」は『放送教材と印刷教材の両方』が「ラジオ科目」より多く、「ラジオ科目」は『ほとんど印刷教材の学習だけ』が「テレビ科目」より多かった。

年齢階層別では、若い世代になるほど『ほとんど印刷教材の学習だけ』が多くなる傾向が見られた。

所属コース別では「情報」は、『ほとんど印刷教材の学習だけ』が他の所属コースと比べ高く、27%であった。

職業別では、「公務員等」「教員」「会社員」「看護師等」「その他」については、『ほとんど印刷教材の学習だけ』がそれぞれ 20%以上と高かった。

図2-15 【学部】単位認定のための学習方法



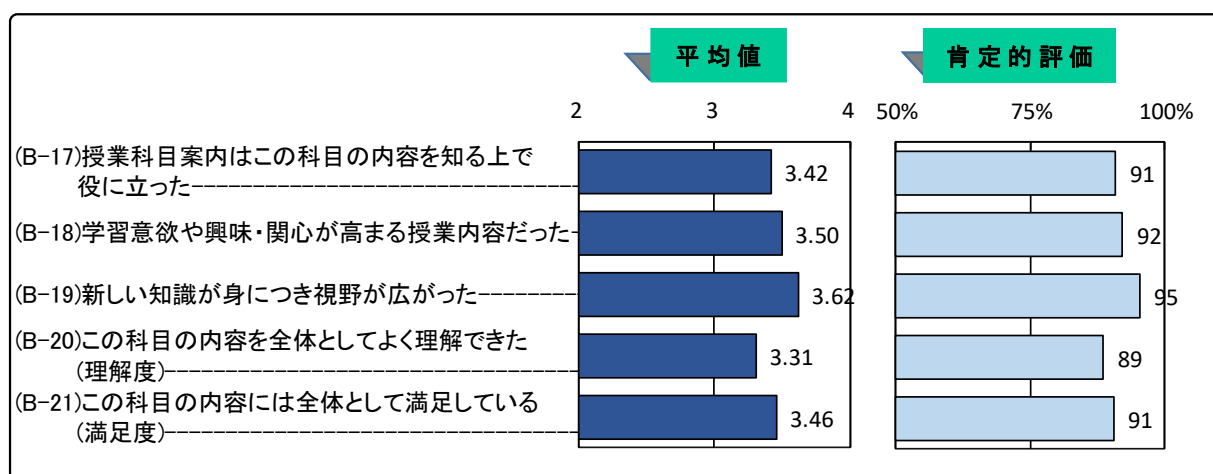
Ⅱ－１－３．学部の授業評価

（１）全体評価

次に学部の授業評価について、評価項目ごとに見ていく。

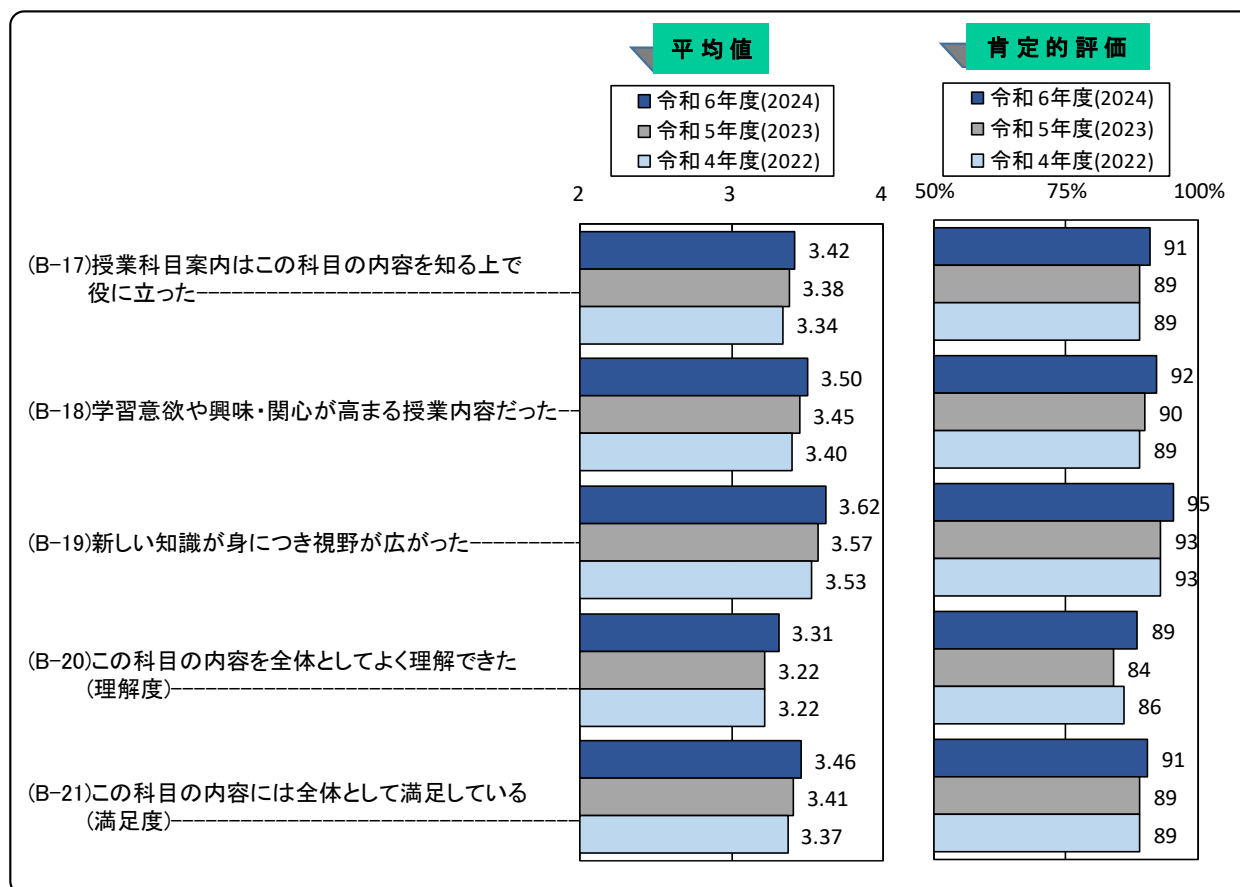
全体評価の各項目（図２－１６）については、（B-18）「新しい知識が身につき視野が広がった」が 95％と最も高かった。それ以外の項目については 89～92％の評価であった。

図２－１６【学部】回答者全体の全体評価



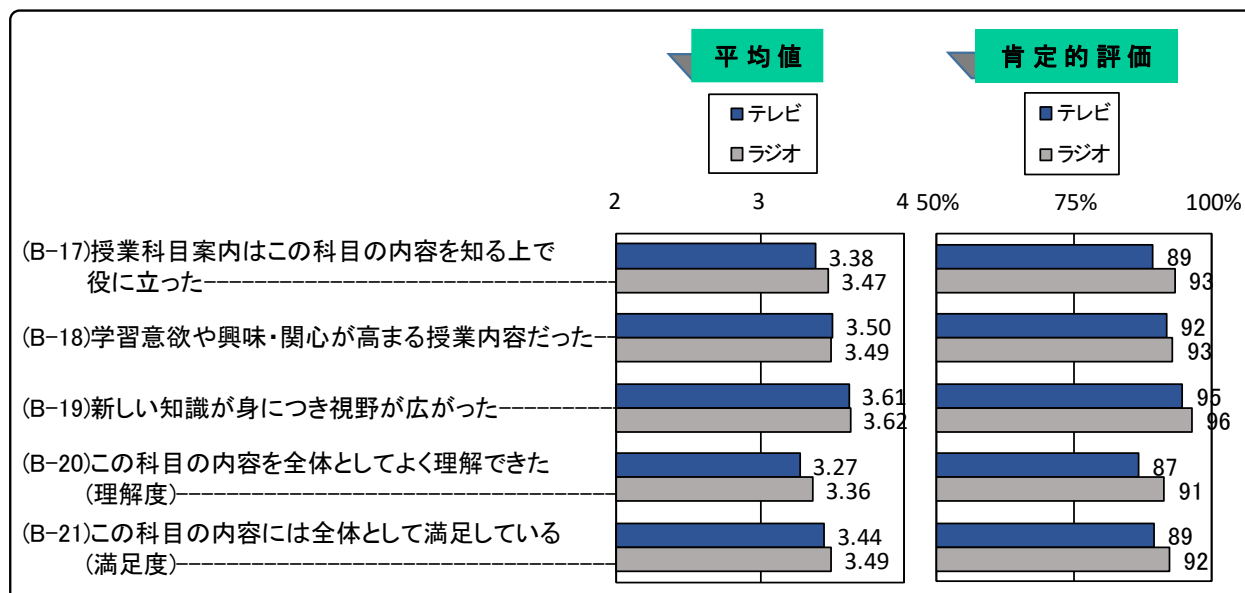
全体評価を時系列で見ると（図２－１７）、本年度は下記全ての項目で、昨年度より横ばいないし評価が上昇しており、中でも（B-19）「新しい知識が身につく視野が広がった」は最も高く 95%に達していた。

図２－１７ 【学部】 回答者全体の全体評価（時系列）



メディア別に全体評価を見ると（図２－１８）、下記全項目でラジオ科目の評価の方が高かった。

図２－１８【学部】メディア別の全体評価

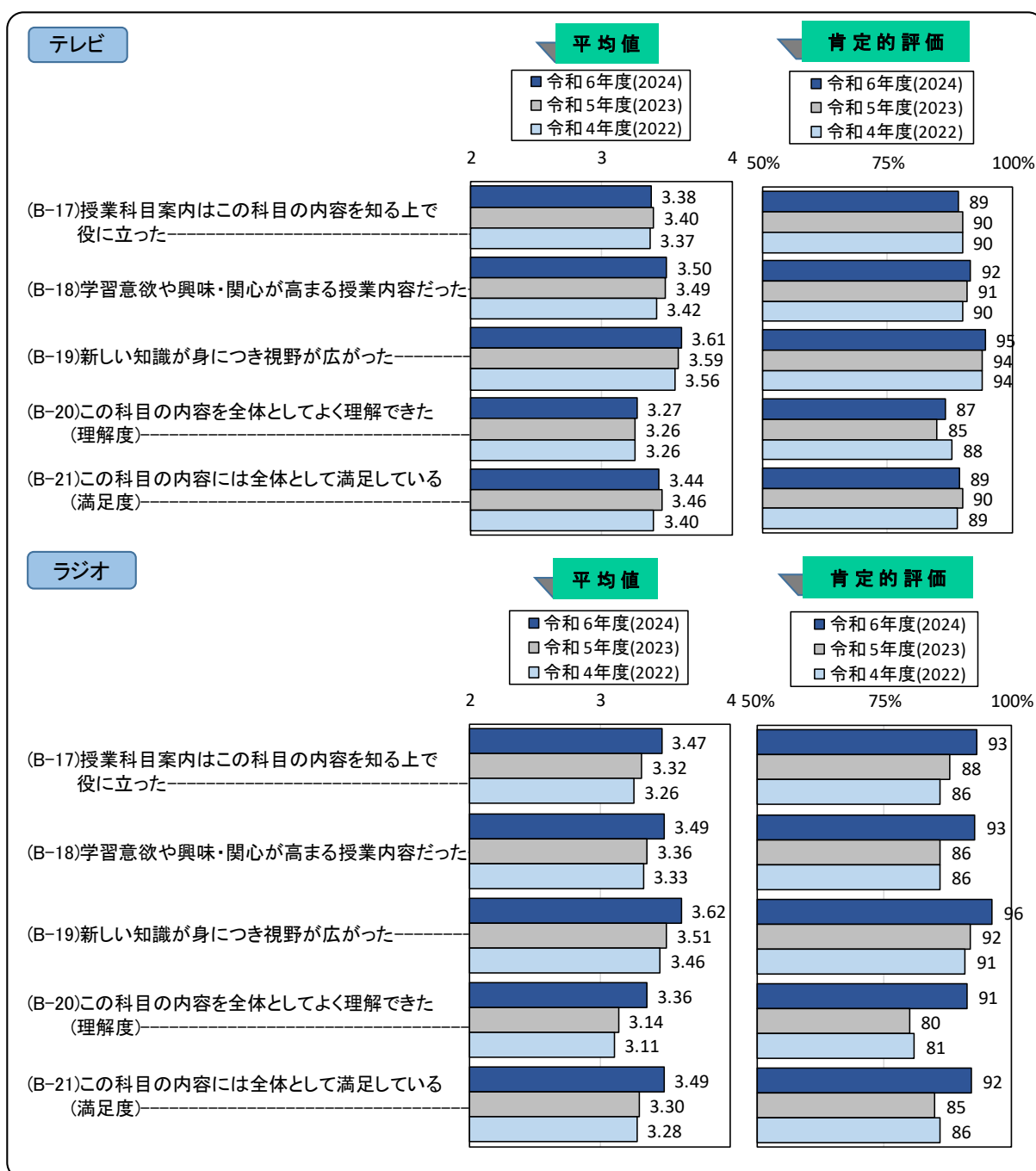


メディア別の全体評価を時系列で見ると（図2-19）、ラジオ科目の評価は、下記全ての項目において、昨年度から上昇しており、中でも(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」が96%と最も高かった。

ラジオ科目の昨年度からの上昇幅は、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」が最も大きく、11ポイントであった。

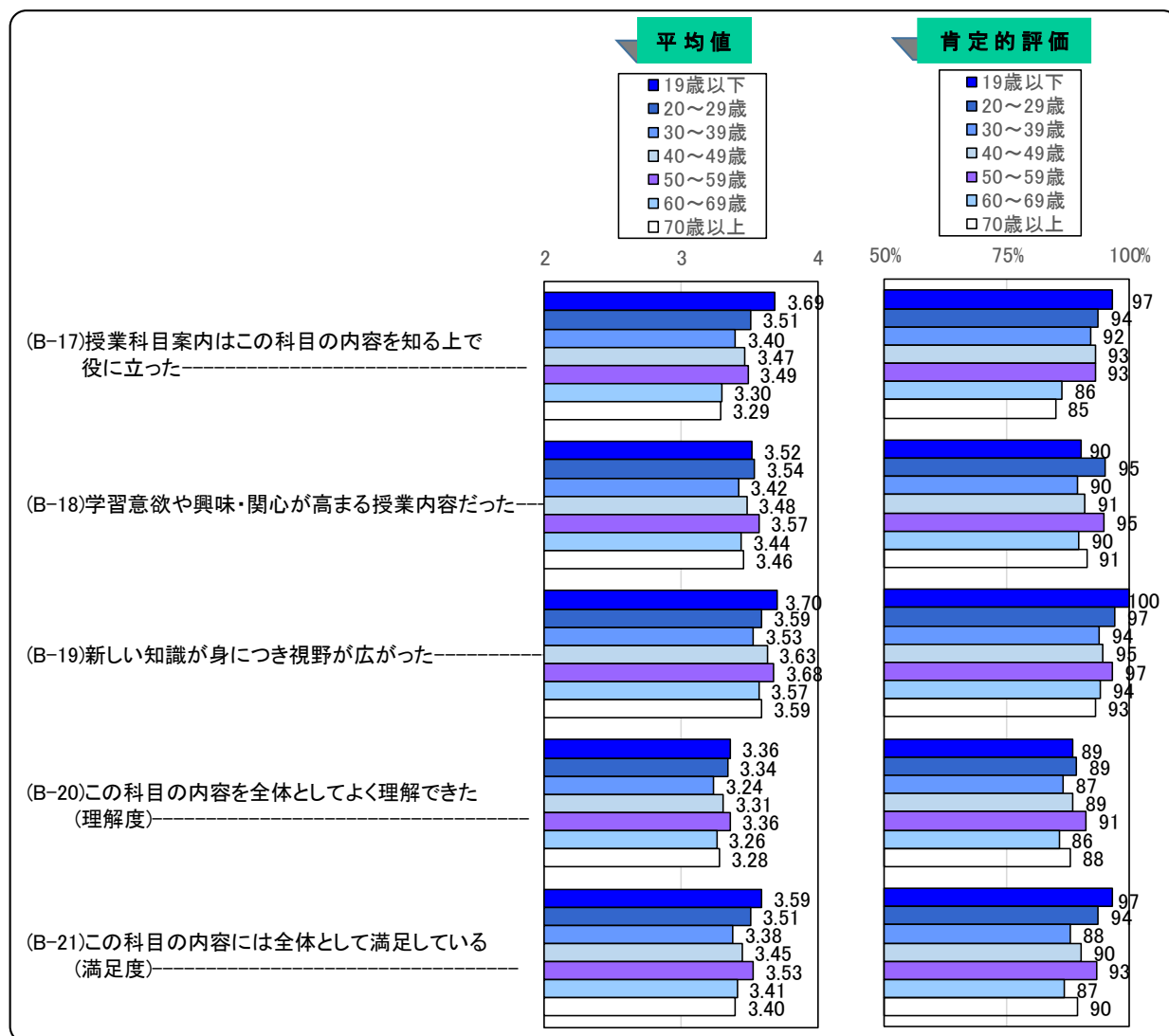
一方、テレビ科目の評価については、下記全ての項目が1～2ポイントの増減で、横ばいとなった。

図2-19【学部】メディア別の全体評価



年齢階層別に全体評価（図2-20）を見ると、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」以外の各項目で19歳以下の評価が最も高くなっていた。反対に他の年代と比べ評価が全般的に低かったのは、60歳代と70歳以上であった。

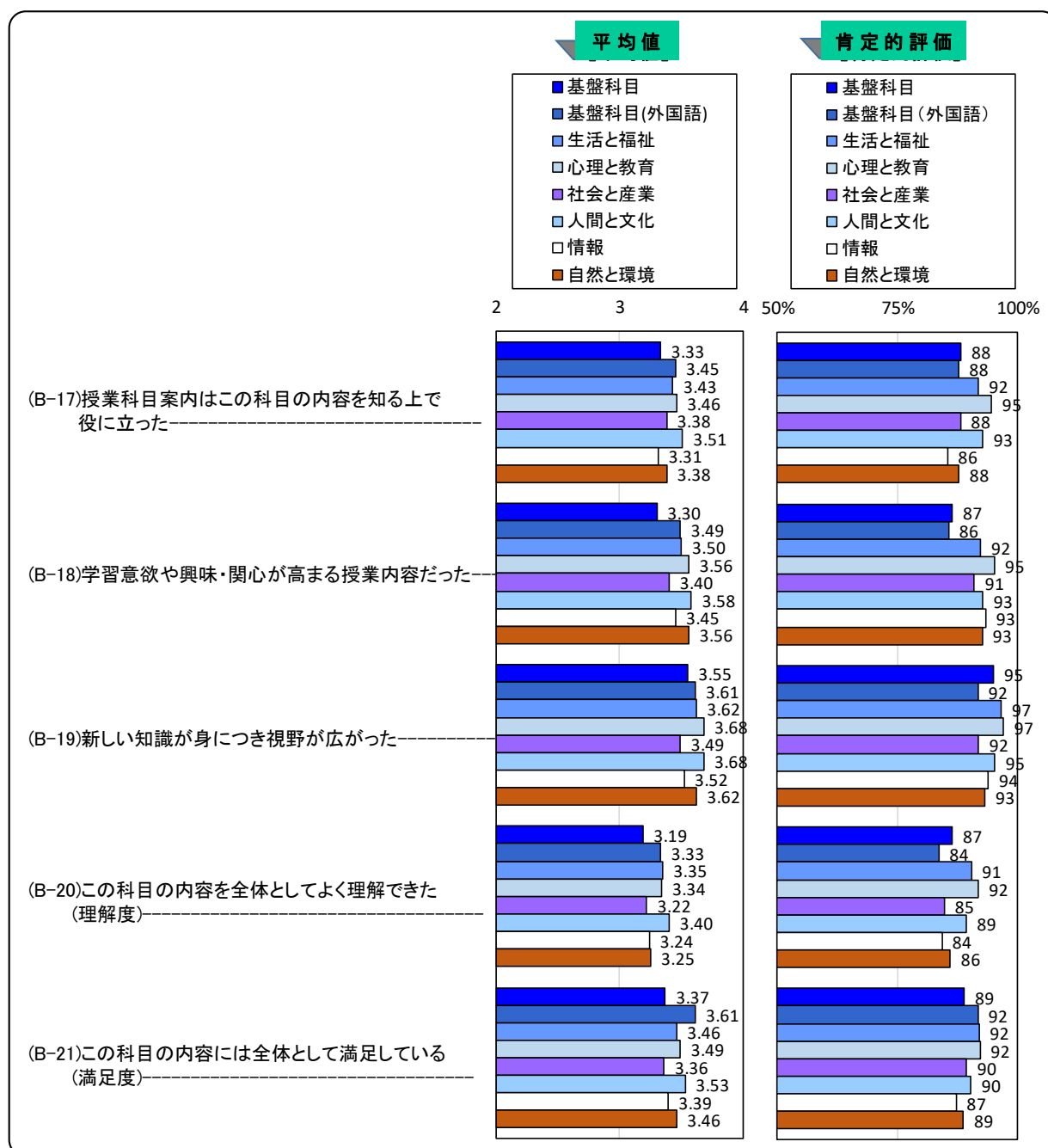
図2-20【学部】年齢階層別の全体評価



所属コース別の全体評価では（図２－２１）、下記各項目いずれも「心理と教育」の評価が高かった。（B-19）「新しい知識が身につく視野が広がった」に対する評価は、どの所属コースも 92% を上回った。

（B-20）この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）については、「基盤科目（外国語）」と「情報」において 84% と低い傾向が見られた。

図２－２１ 【学部】所属コース別の全体評価

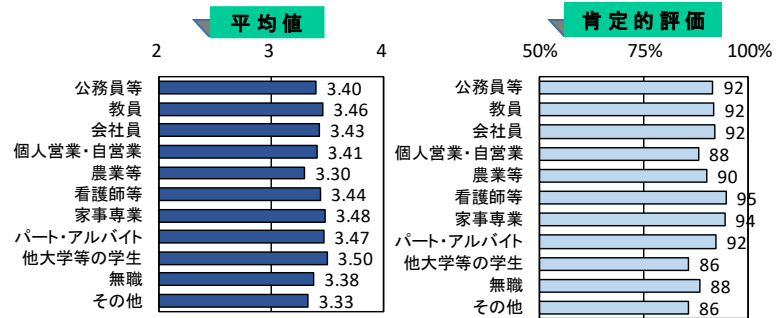


職業別の全体評価（次頁図2－22）では、全ての項目で評価が高かったのは「農業等」で、90～100％であった。また、(B-19)「新しい知識が身につき視野が広がった」については、全ての職業で93％を上回った。

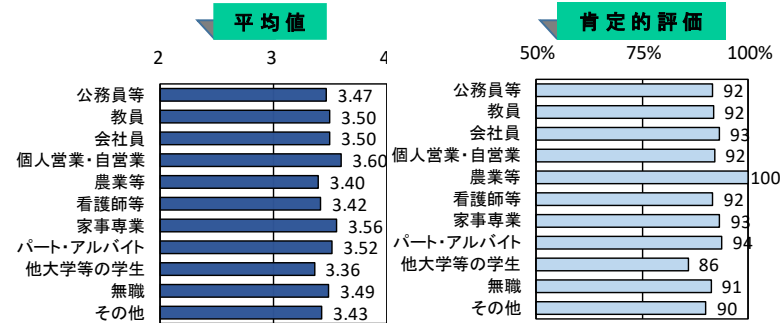
反対に評価が低かったのは、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」では「その他」(86％)、(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」、(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」、(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「他大学等の学生」であった。

図2-22【学部】職業別の全体評価

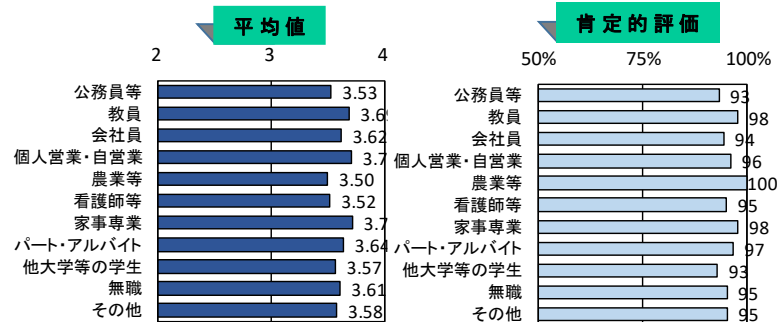
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



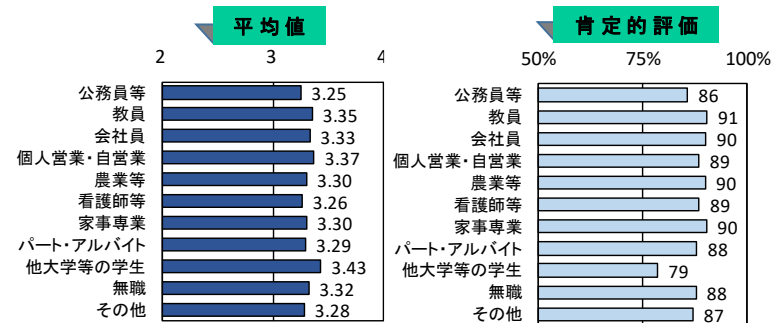
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



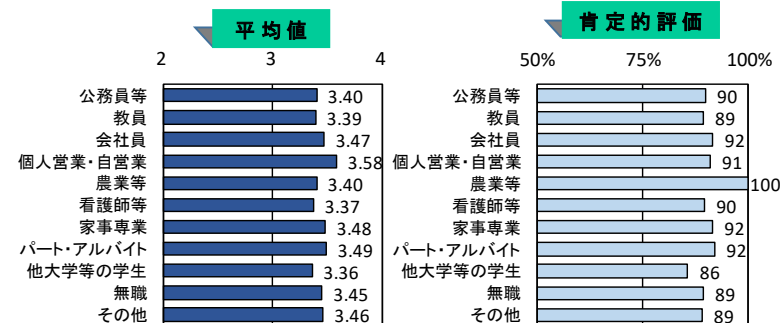
(B-19) 新しい知識が身につく視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

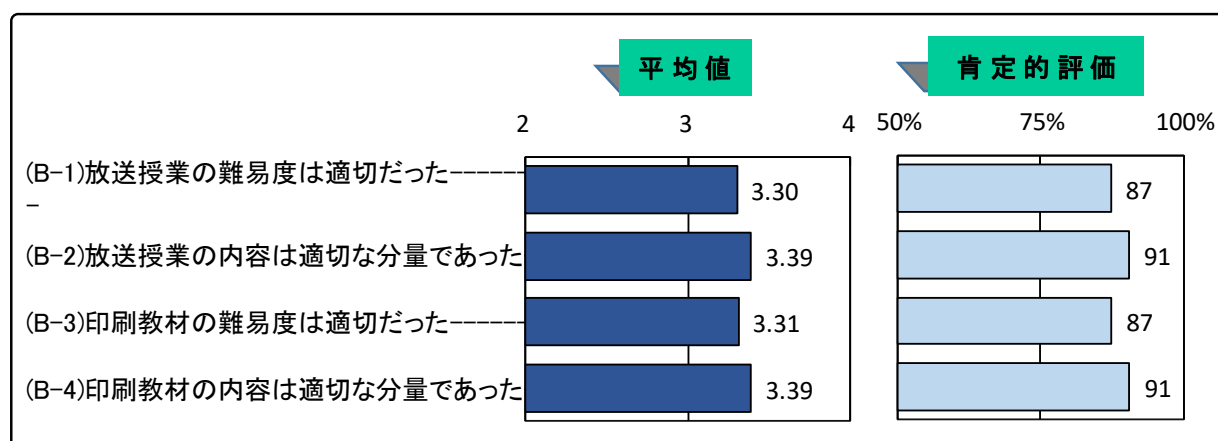


(2) 授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量（図 2－23）について、評価項目ごとに見ていくことにする。

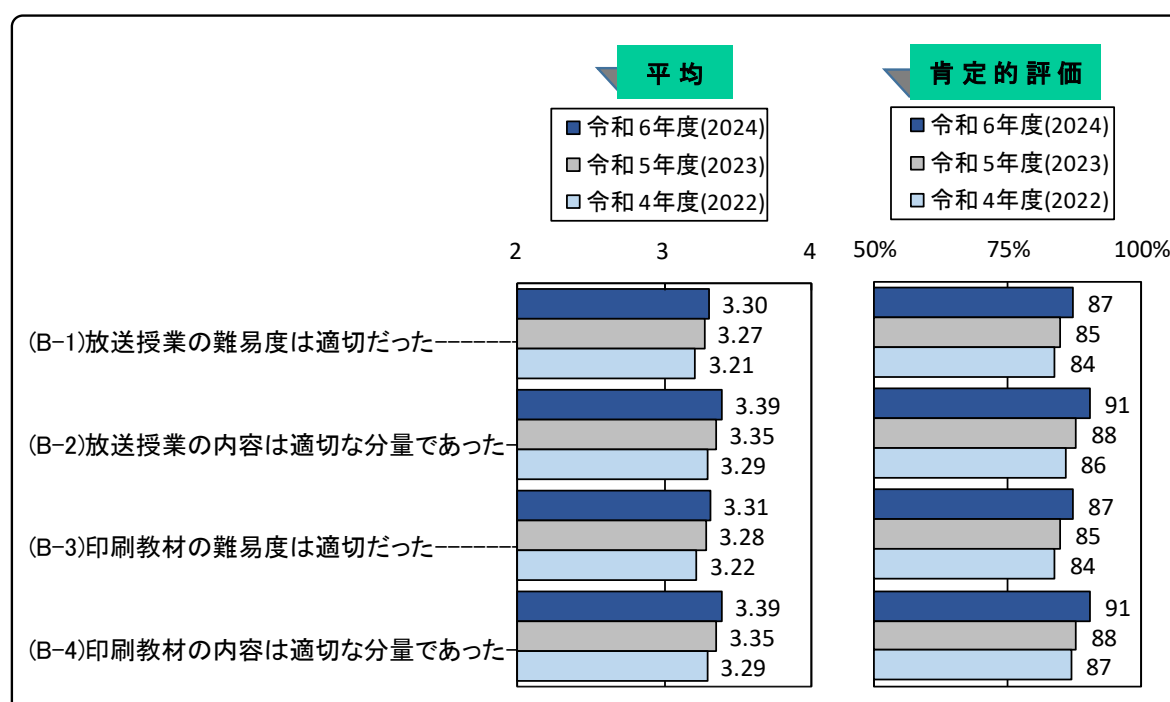
肯定的評価は、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」の難易度については、両項目とも 87%、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」と(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」の分量については、91%で、それぞれの「分量」についての評価の方が高かった。

図 2－23 【学部】 回答者全体の授業難易度・分量の評価



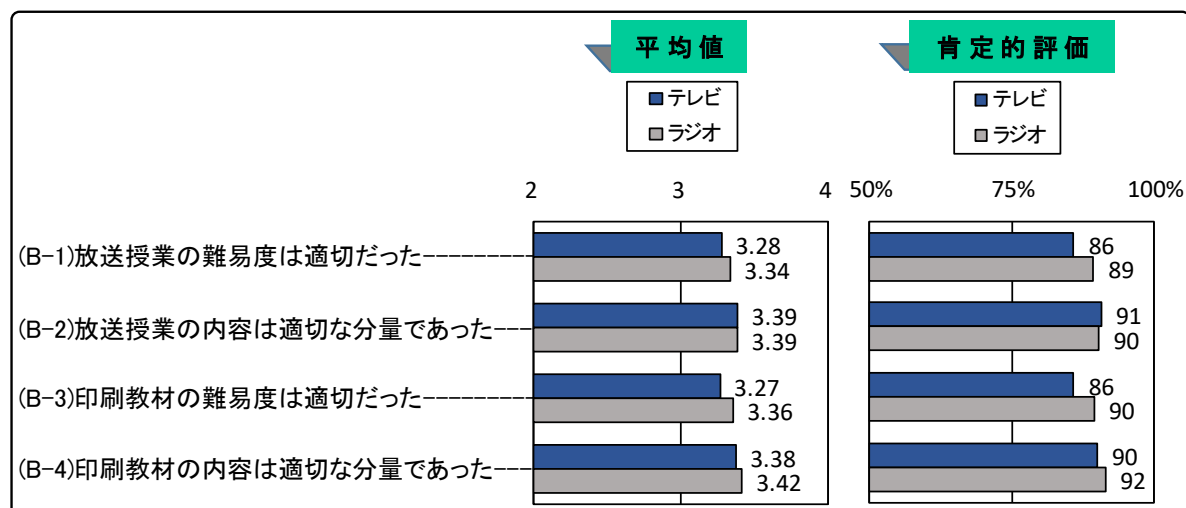
開設年度で比較すると（図 2－24）、本年度は、下記 4 項目全てで、過去 2 年度から評価が上昇した。

図 2－24 【学部】 回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



メディア別に授業の難易度・分量を見ると（図２－２５）、ラジオ科目の方が評価が高く、特に(B-1)「印刷教材の難易度は適切だった」では、ラジオ科目がプラス４ポイントと大きな差であった。

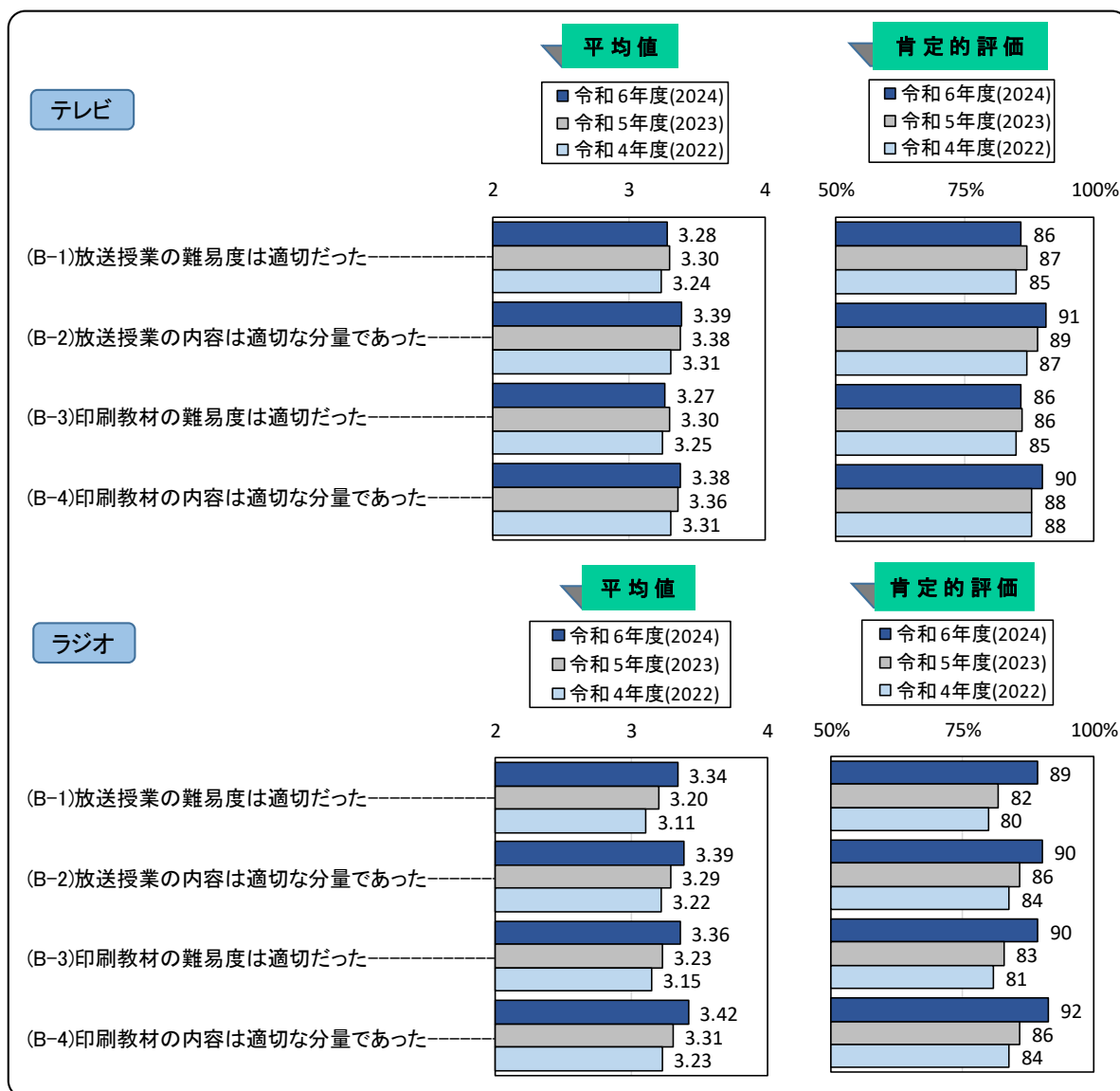
図２－２５【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価



メディア別の授業の難易度・分量を開設年度で比較すると（図2-26）、テレビ科目の肯定的評価は、横ばいであったが、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」は91%と、昨年、一昨年と比較して上昇した。

ラジオ科目については、全ての項目で評価が大幅に上昇傾向にあり、特に「印刷教材の難易度は適切だった」は7ポイント増であった。

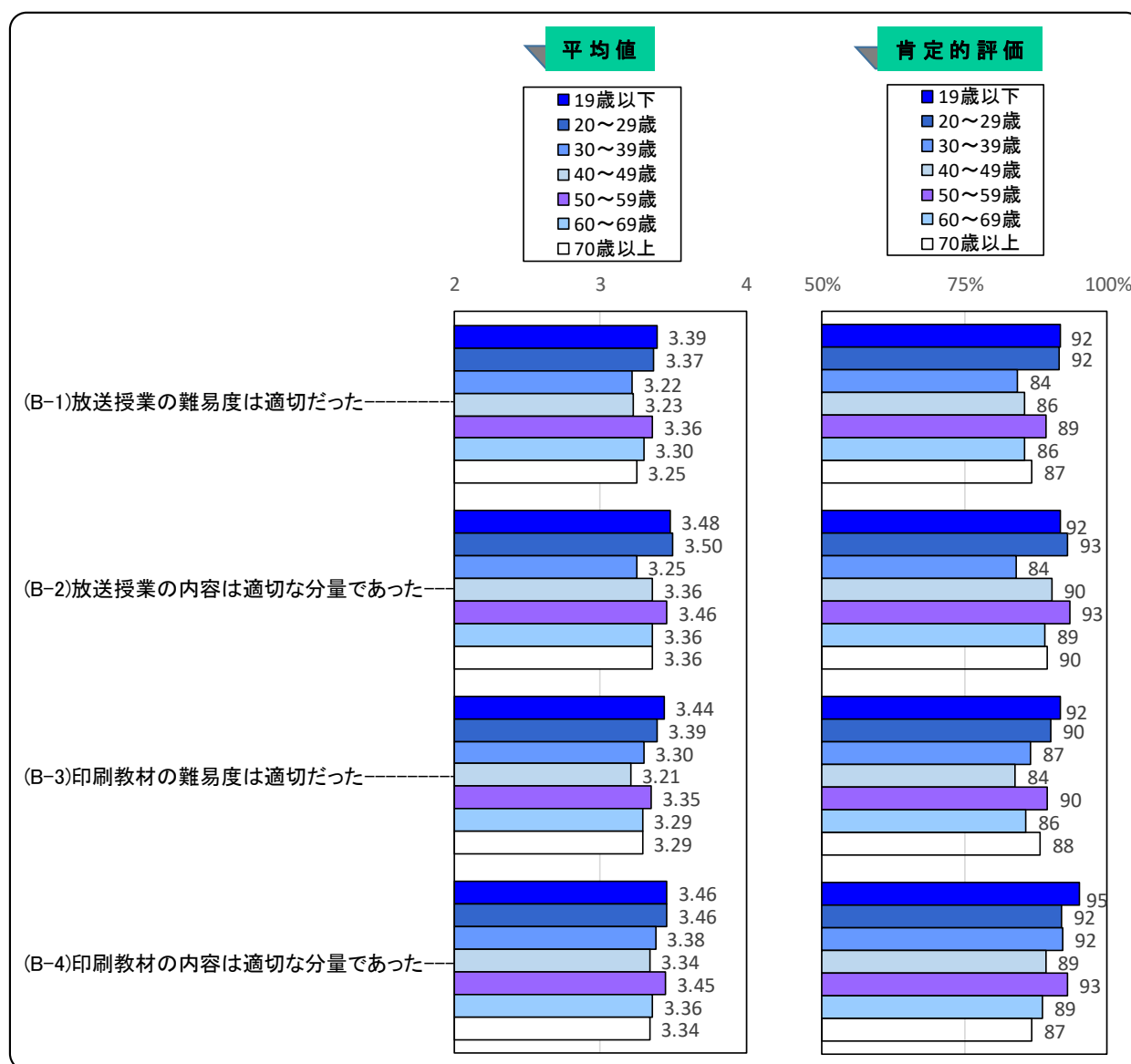
図2-26【学部】メディア別の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図２－２７）、（Ｂ-２）「放送授業の内容は適切な分量であった」を除く各項目において、１９歳以下の評価が最も高かった。

反対に評価の低かった年齢階層としては、（Ｂ-１）「放送授業の難易度は適切だった」、（Ｂ-２）「放送授業の内容は適切な分量であった」が３０歳代、（Ｂ-３）「印刷教材の難易度は適切だった」が４０歳代で８４％であった。

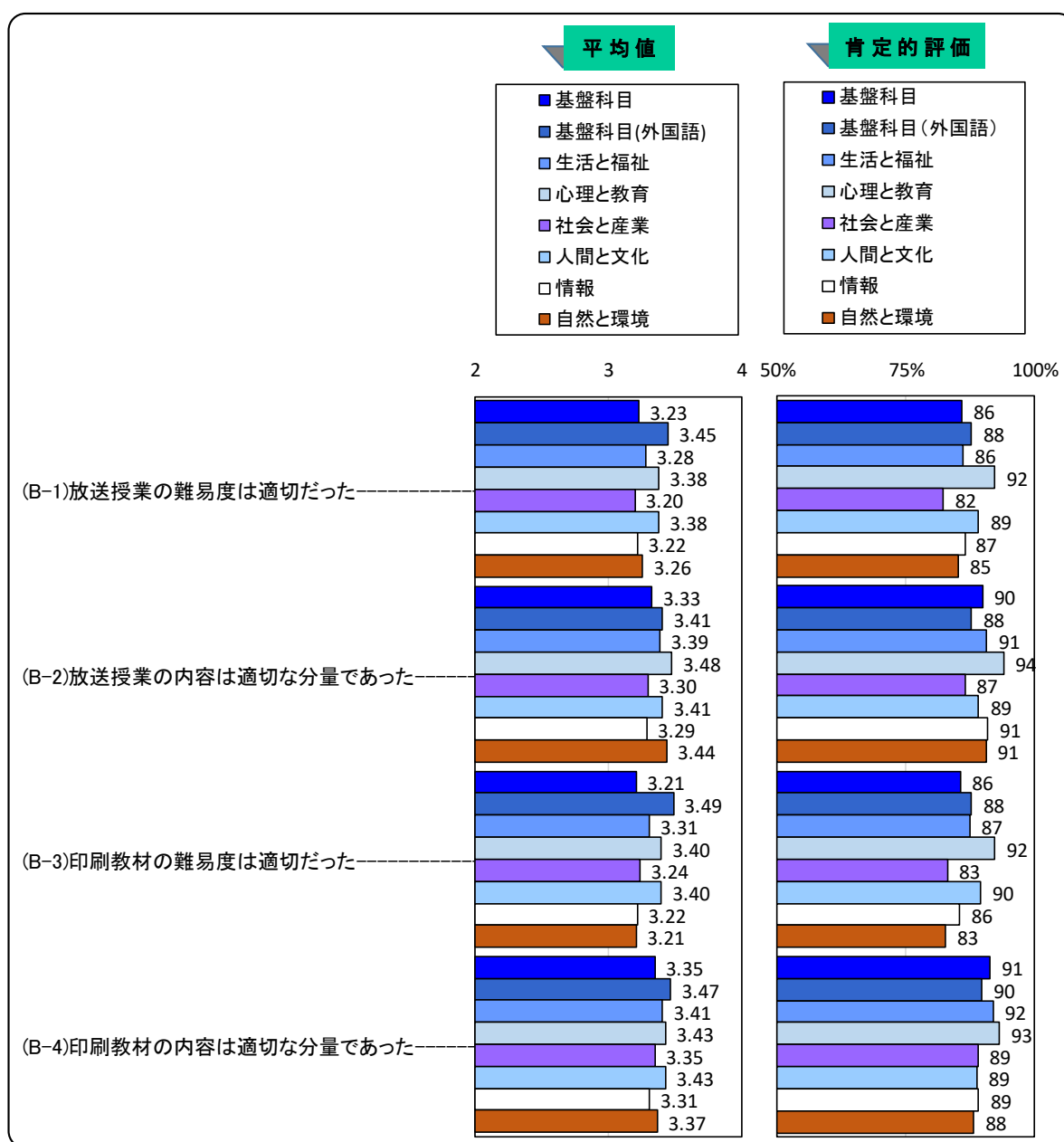
図２－２７【学部】年齢階層別の授業難易度・分量の評価



所属コース別に授業の難易度・分量を見ると（図 2－28）、下記全ての項目で特徴的であったのは、「心理と教育」が 1 位となり、その評価は 92～94%と高い評価であった。

反対に全ての項目で最も評価が低かったのは「社会と産業」と「自然と環境」で、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」と(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」では、他の所属コースから 5 ポイント以上の開きがあり、それぞれの難易度に対する評価は低かった。

図 2－28 【学部】所属コース別の授業難易度・分量の評価



職業別に授業の難易度を見ると（次頁図2－29）、すべての項目において「農業等」が100%と最も高かった。

また、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」については、「個人営業・自営業」が90%と高く、「看護師等」が78%と最も低かった。

(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」については、「教員」「個人営業・自営業」「家事専業」「パート・アルバイト」「無職」が92～93%と高く、「看護師等」「他大学等の学生」が86%と最も低かった。

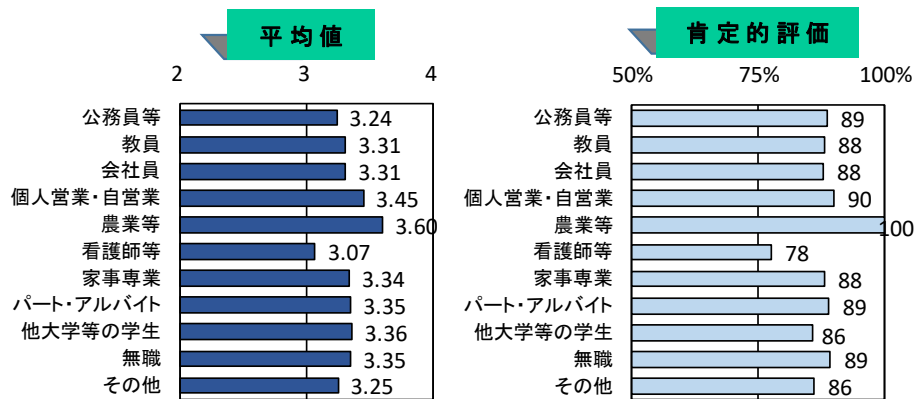
(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」については、「無職」が90%と高く、「教員」「看護師等」が81%と最も低かった。

(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」については、「公務員等」「会社員」

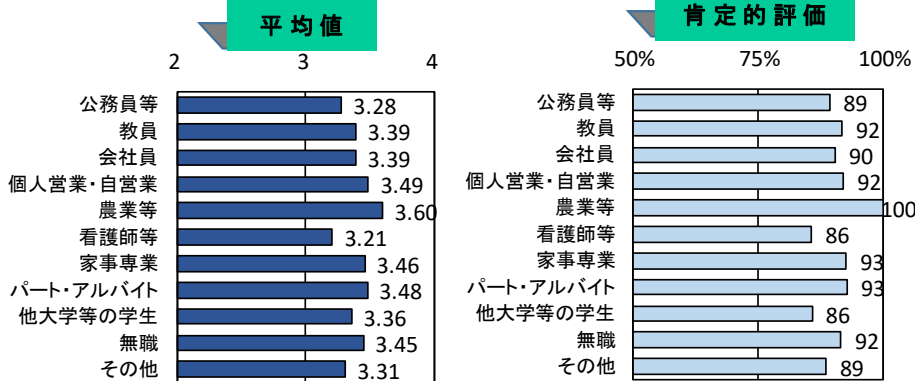
「個人営業・自営業」「家事専業」「パート・アルバイト」「無職」「その他」が90～92%と高く、「看護師等」が79%と最も低かった。

図 2-29 【学部】職業別の授業難易度の評価

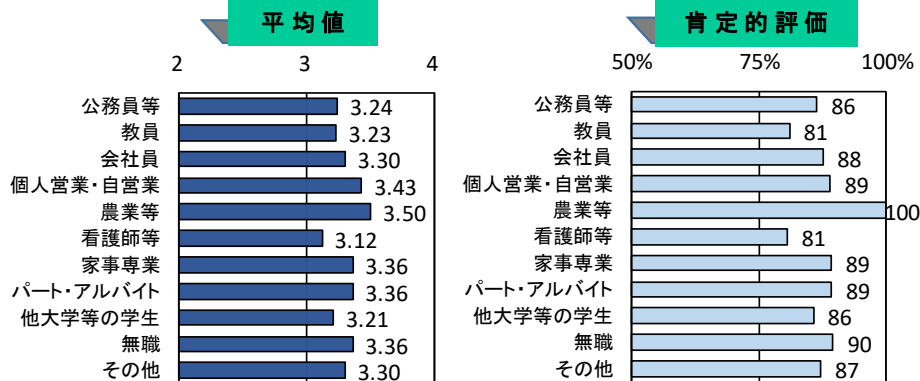
(B-1)放送授業の難易度は適切だった



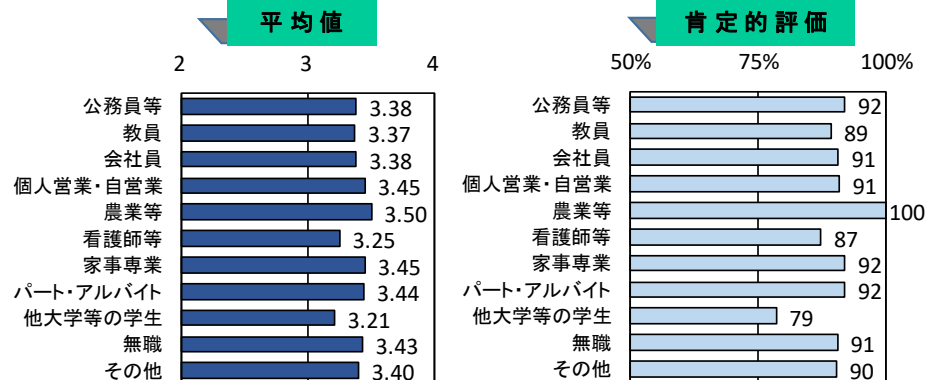
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった

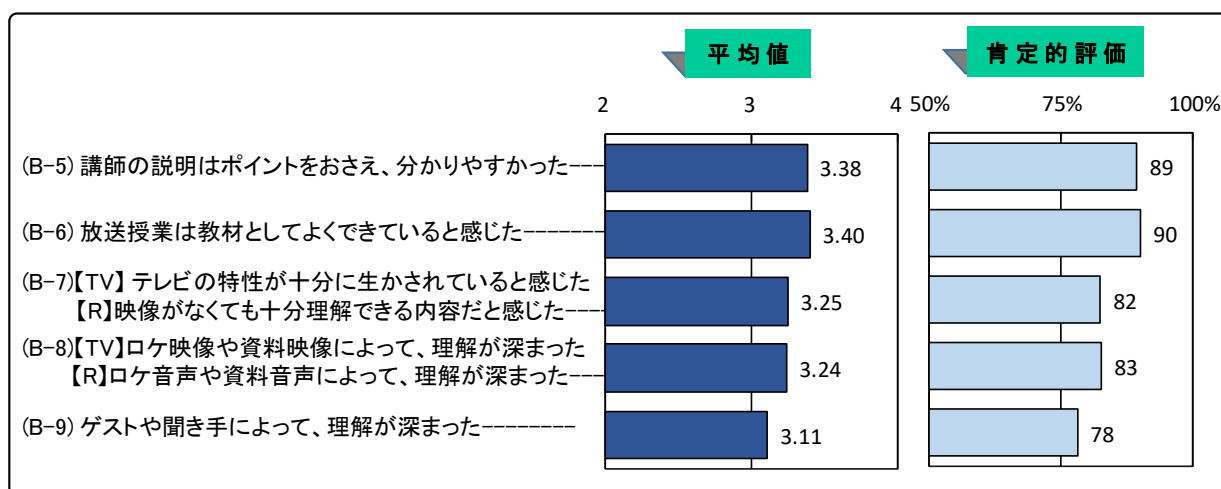


(3) 放送授業

ここからは放送授業について、評価項目ごとに見ていくことにする。

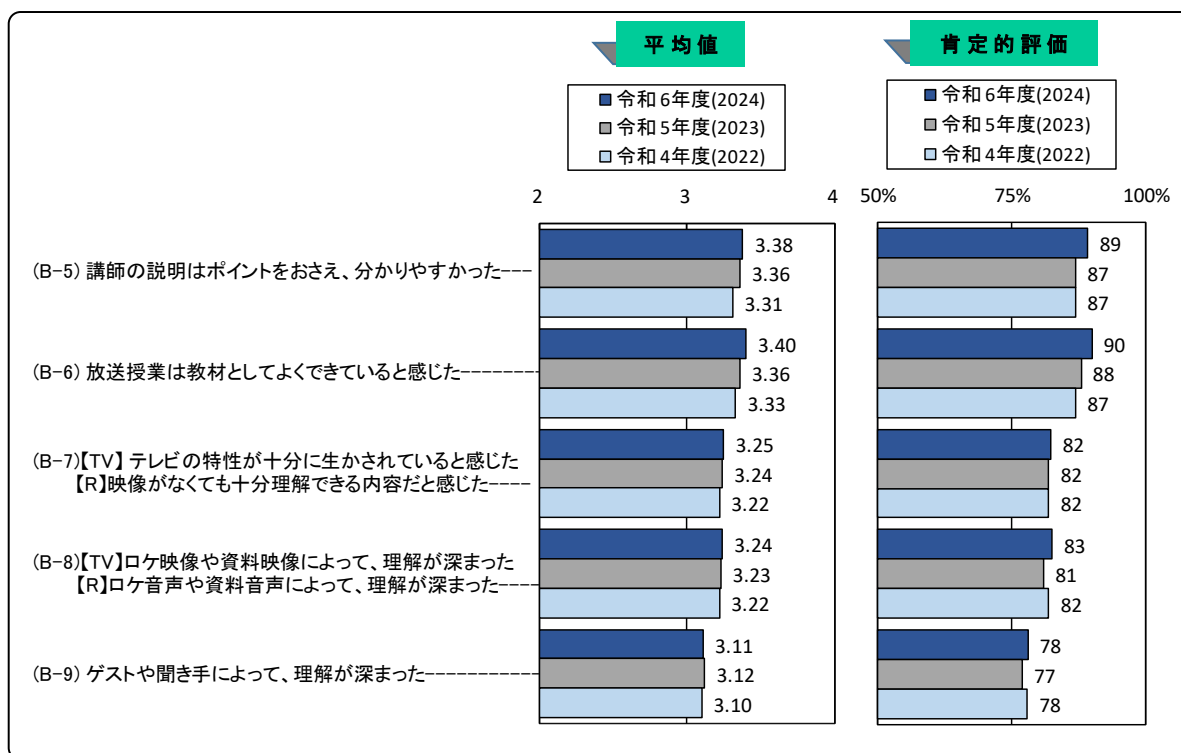
放送授業に関する評価項目（図2-30）では、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」と(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が89～90%と高く、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は78%と、他の項目に比べると極めて評価が低かった。

図2-30 【学部】回答者全体の放送授業の評価



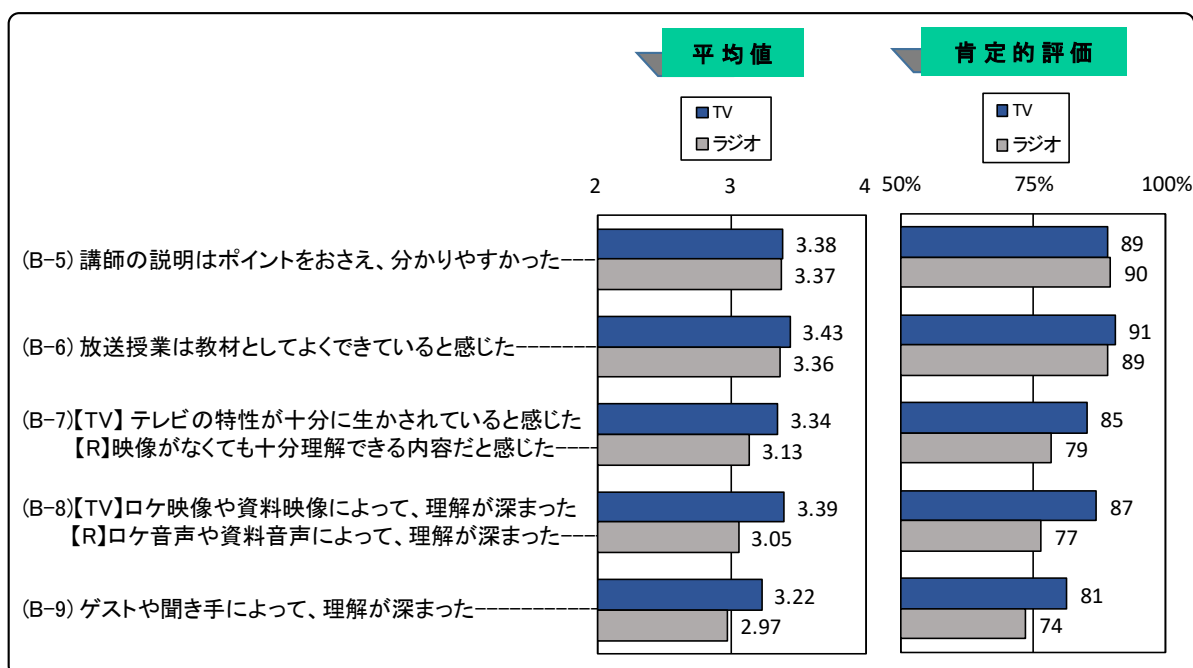
放送授業の評価を時系列で見ると（図２－３１）本年度は、昨年度と比べると、（B-7）を除いたすべての項目で評価が上がっていた。

図２－３１ 【学部】 回答者全体の放送授業の評価（時系列）



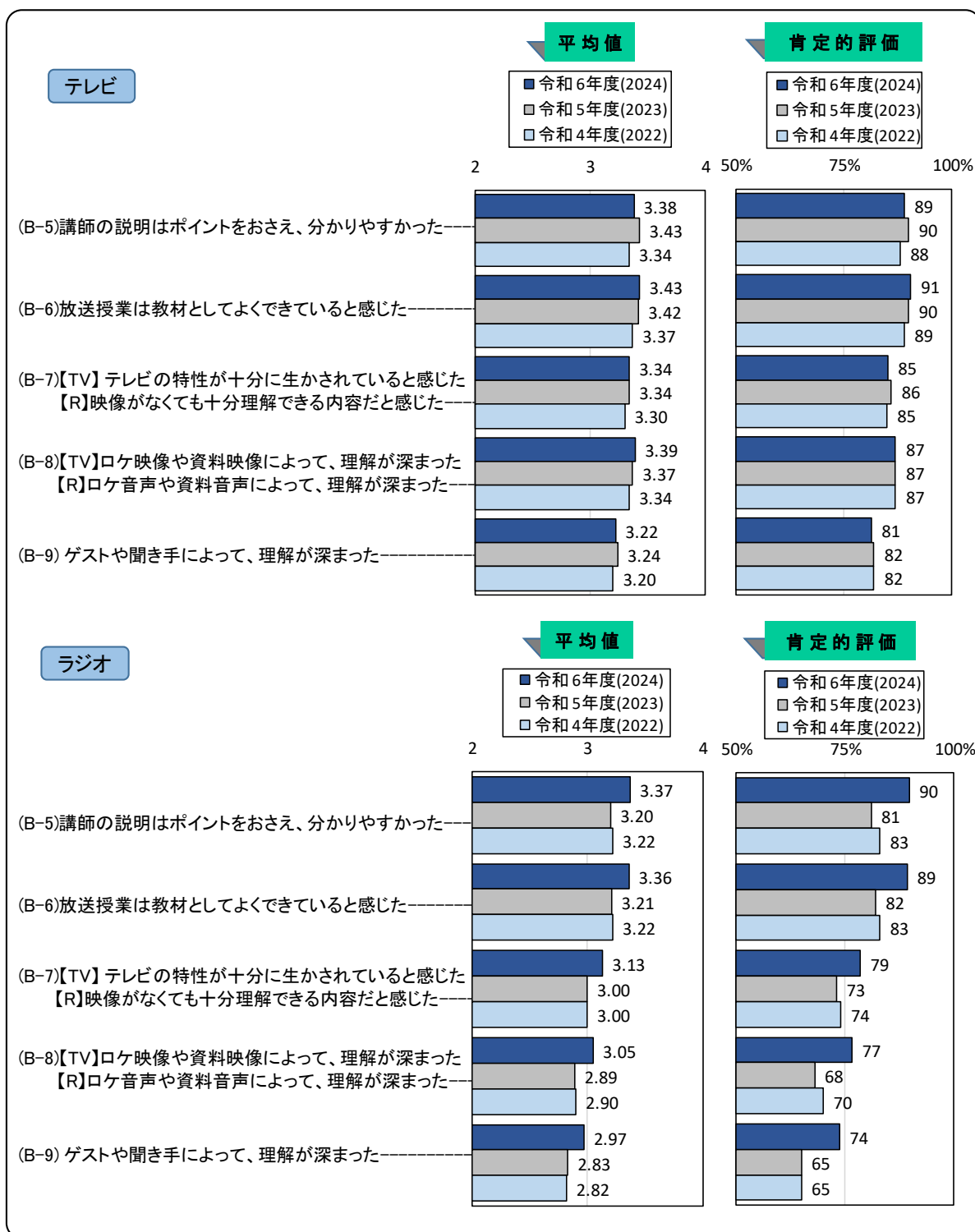
メディア別に放送授業の肯定的評価を見ると（図２－３２）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」以外の全ての項目でテレビ科目の評価が高かった。中でも(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」では、6～10 ポイント以上テレビ科目の評価が高かった。

図２－３２ 【学部】メディア別の放送授業の評価



また、メディア別に放送授業の評価を時系列で見ると（図2-33）、テレビ科目については、全項目で、昨年度と比較し、ほぼ横ばいであったが、ラジオ科目では、全ての項目で昨年度よりも評価が上昇しており、中でも（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」、（B-9）「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」については、9ポイントの大幅増となっていた。

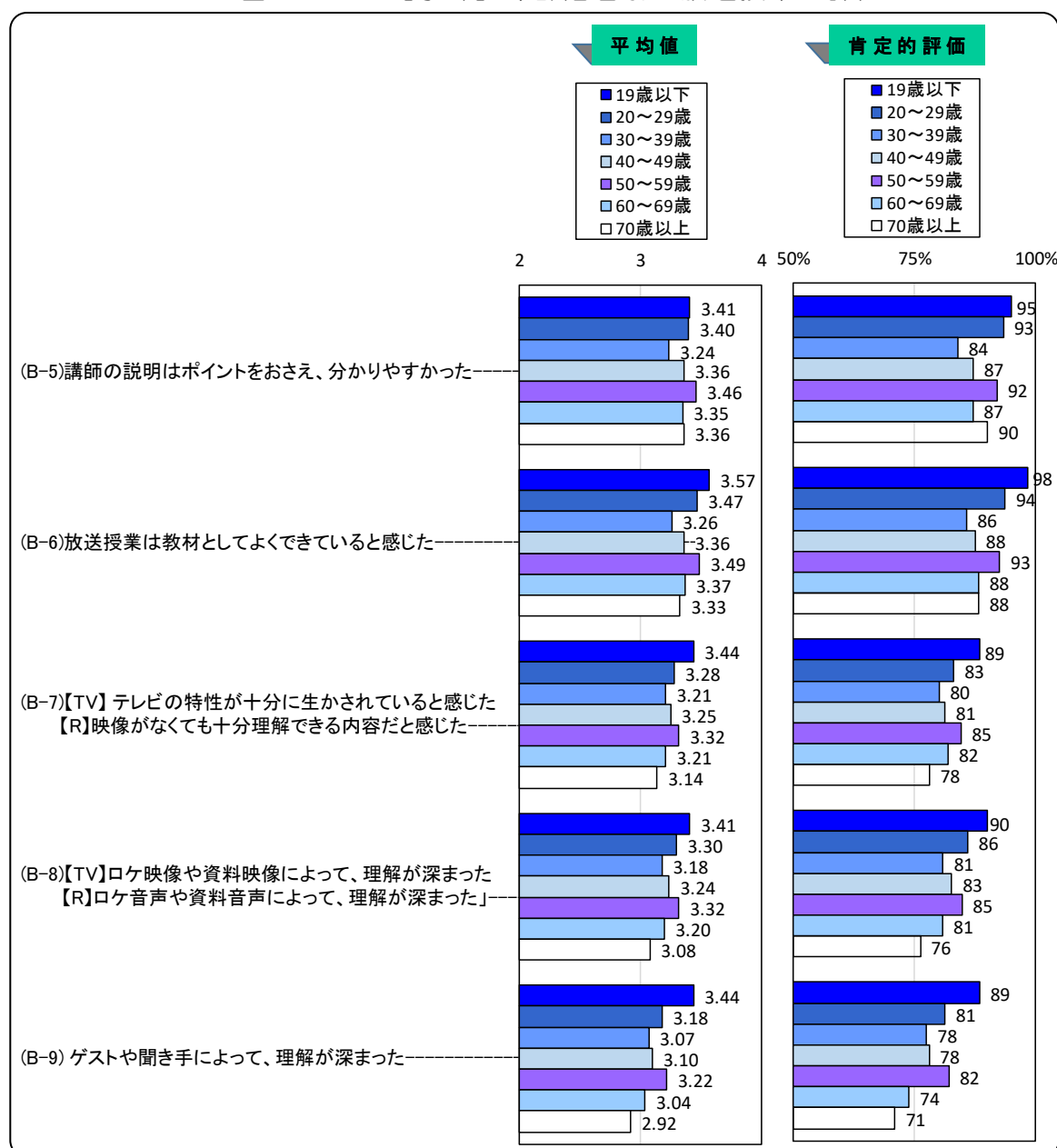
図2-33 【学部】メディア別の放送授業の評価（時系列）



年齢階層別の放送授業の評価で（図 2－3 4）特徴的であったのは、下記の項目全てで 19 歳以下の評価が最も高く、（B-6）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」では 98%に達していた。

反対に全ての項目で評価が最も低かったのは（B-5）「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は 30 歳代で 84%、（B-6）「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は 30 歳代で 86%、（B-7）「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は 70 歳代で 78%、（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は 70 歳代で 76%、（B-9）「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は 70 歳代で 71%であった。

図 2－3 4 【学部】年齢階層別の放送授業の評価

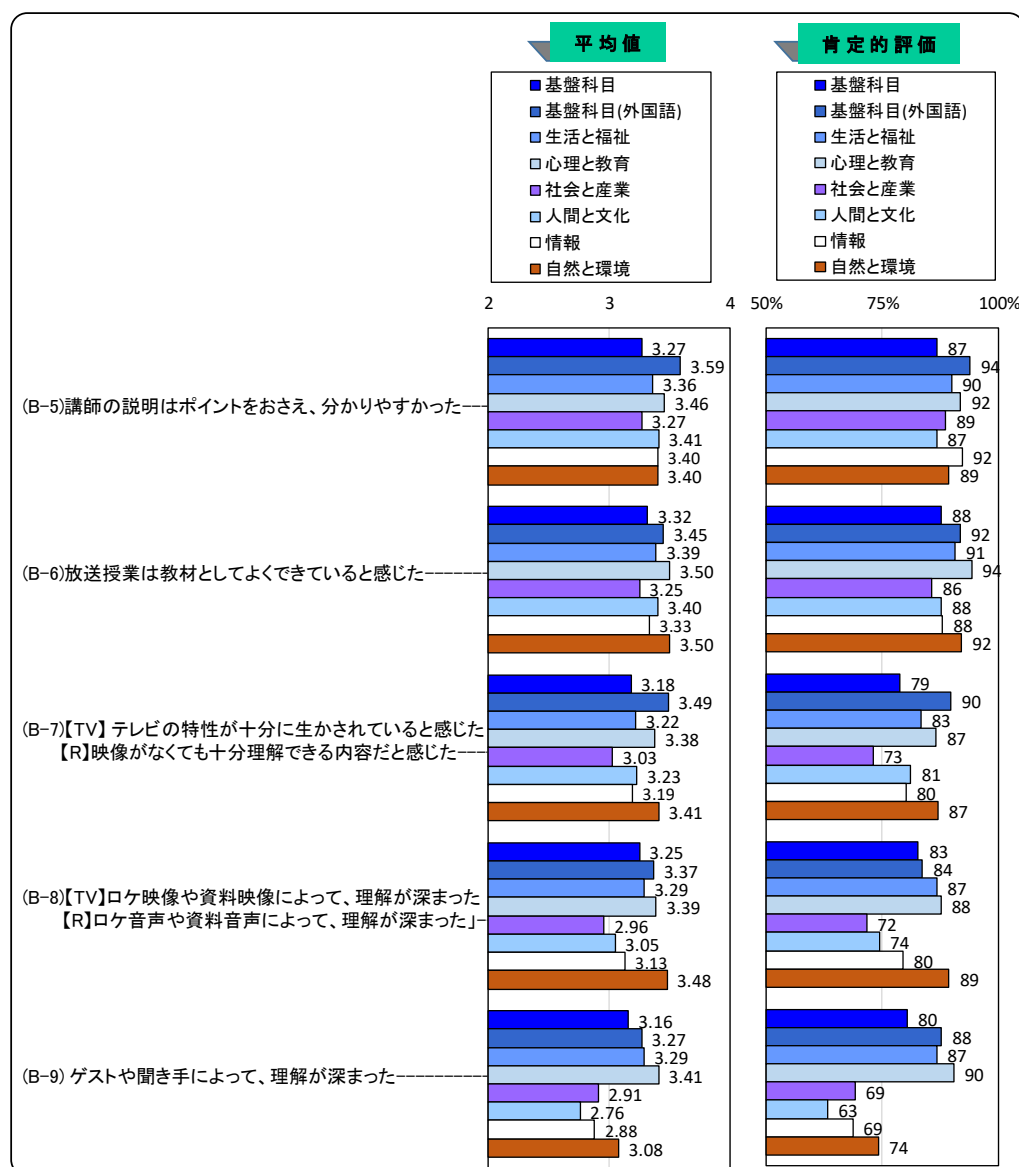


所属コース別に放送授業の評価を見ると（図2－35）、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「基盤科目(外国語)」が94%と最も高く、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は「基盤科目(外国語)」「生活と福祉」が90～94%と最も高かった。

(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は「基盤科目(外国語)」が90%と高く、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は「自然と環境」が89%と高く、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「心理と教育」が90%と高かった。

反対に低い評価であったのは、「社会と産業」「人間と文化」「情報」で、特に(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」の評価が69%以下と特異な傾向が見られた。

図2－35 【学部】所属コース別の放送授業の評価



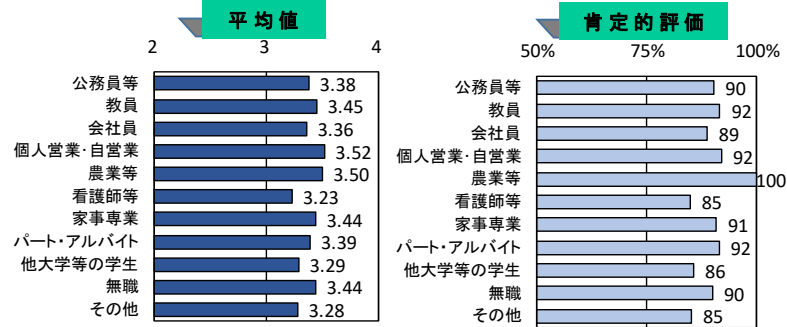
職業別の放送授業の評価（次頁図 2－36）で特徴的な傾向は、(B-6)を除く全ての項目で「農業等」が最も高い評価であった、

(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は「個人営業・自営業」が 92%と最も高い評価であった。

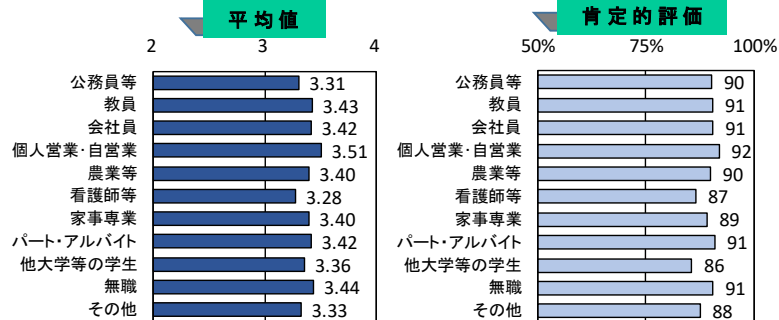
反対に最も低い評価をしたのは、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」は「看護師等」の 85%、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」は「他大学等の学生」の 86%、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた／【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」は「その他」の 76%、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった／【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」は「家事専業」の 80%、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「他大学等の学生」の 64%であった。

図 2-36 【学部】職業別の放送授業の評価

(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった

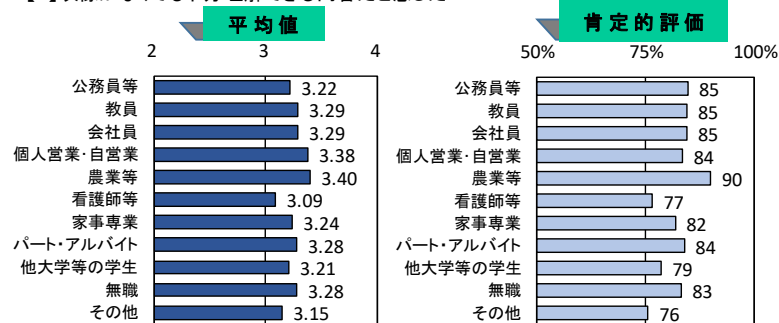


(B-6) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



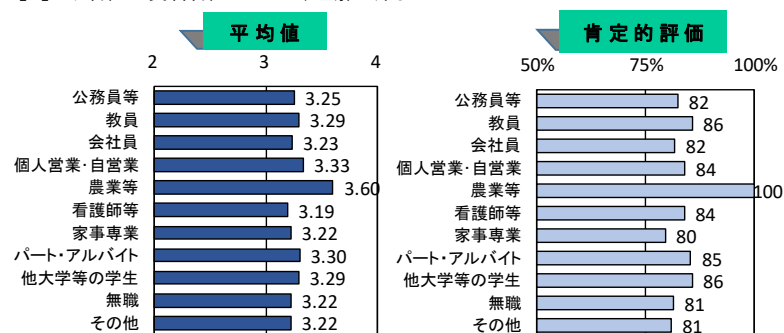
(B-7)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた

【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた

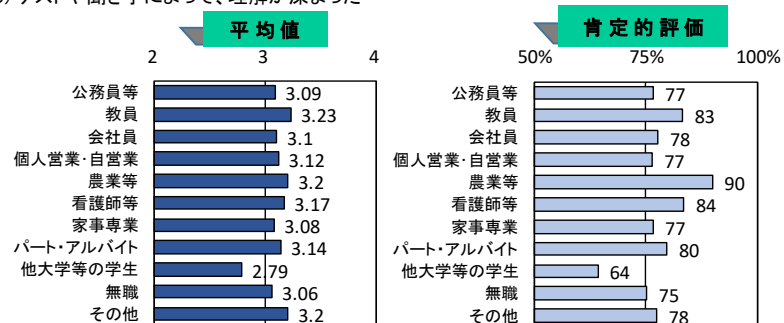


(B-8)【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった

【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった



(B-9) ゲストや聞き手によって、理解が深まった

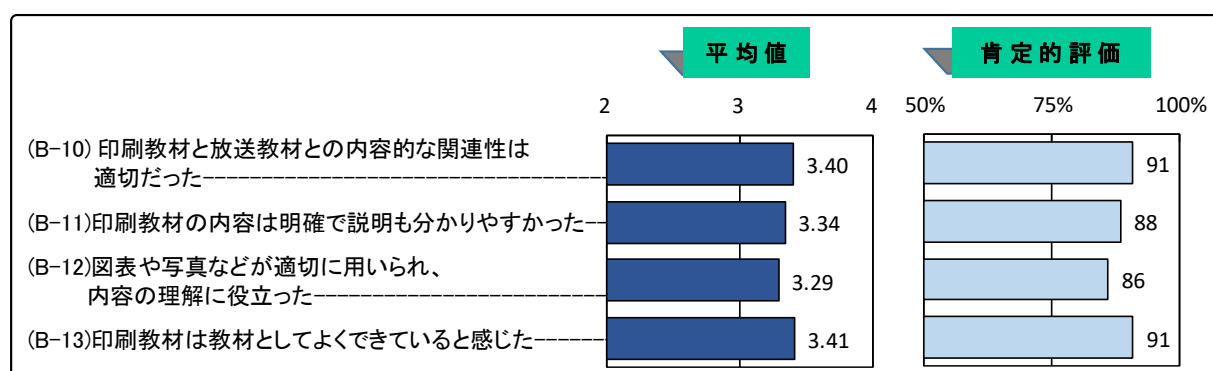


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていくことにする。

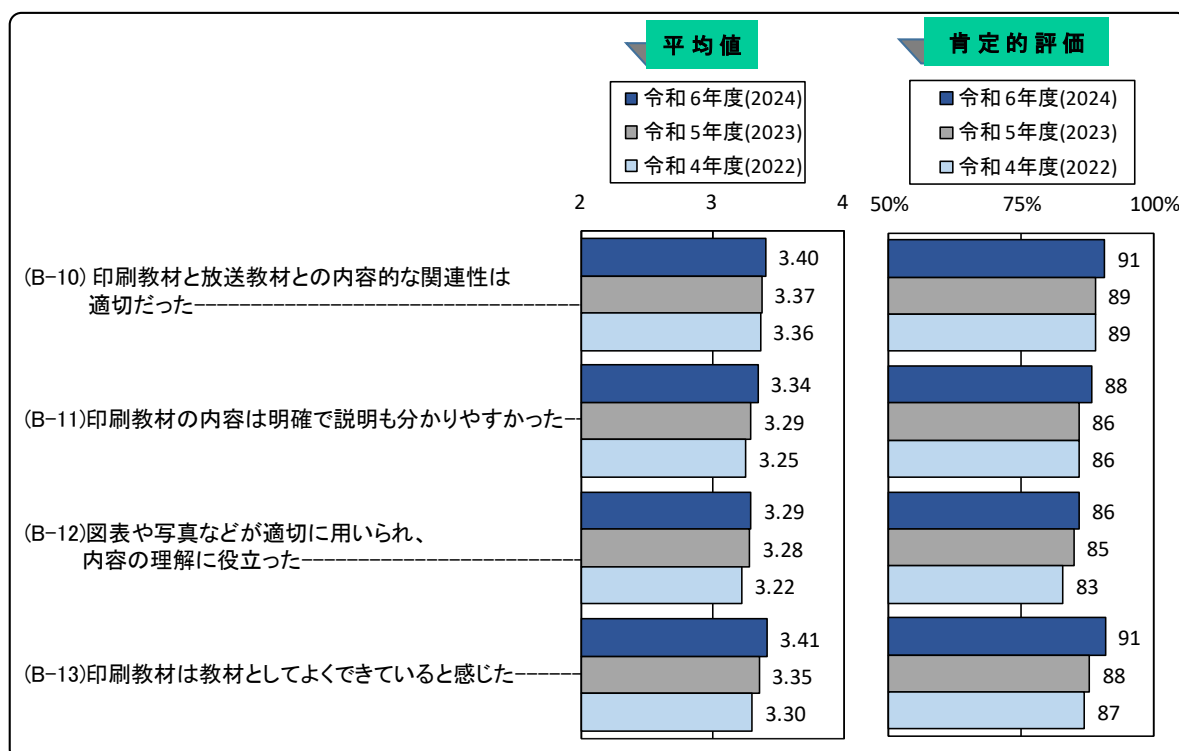
印刷教材の評価項目では（図2－37）、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が91%と最も高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が86%と最も低かった。

図2－37【学部】回答者全体の印刷教材の評価



印刷教材の評価を時系列で見ると（図2－38）、本年度は全ての項目において、昨年度よりも評価が上向いていた。

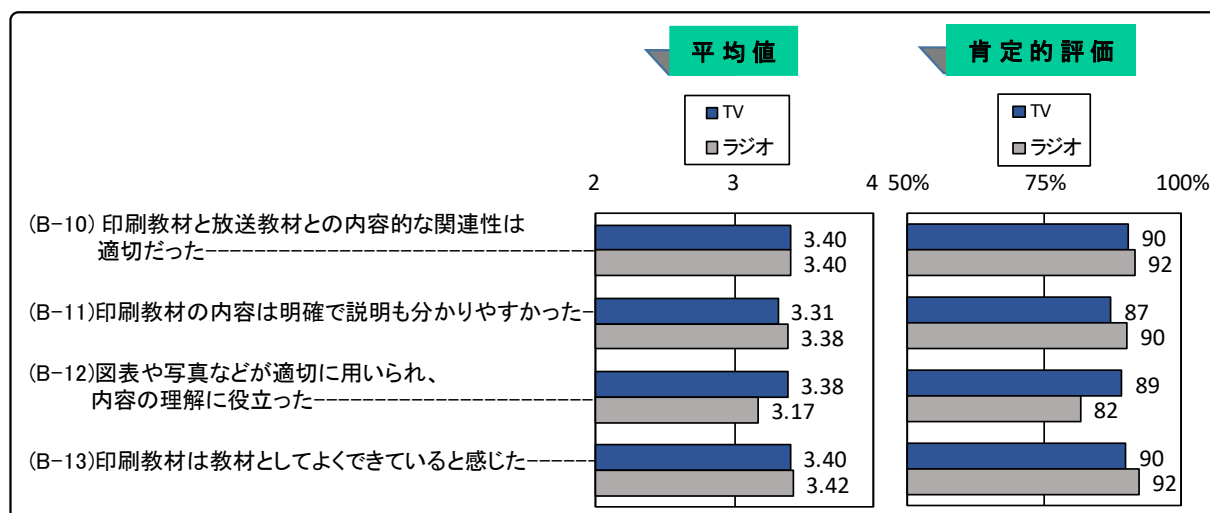
図2－38【学部】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



メディア別に印刷教材の評価を見ると（図２－３９）、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」以外のすべての項目において、ラジオ科目の評価の方が高かった。

ただし、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では、テレビ科目の評価の方がラジオ科目よりも７ポイント多く、顕著な差があった。

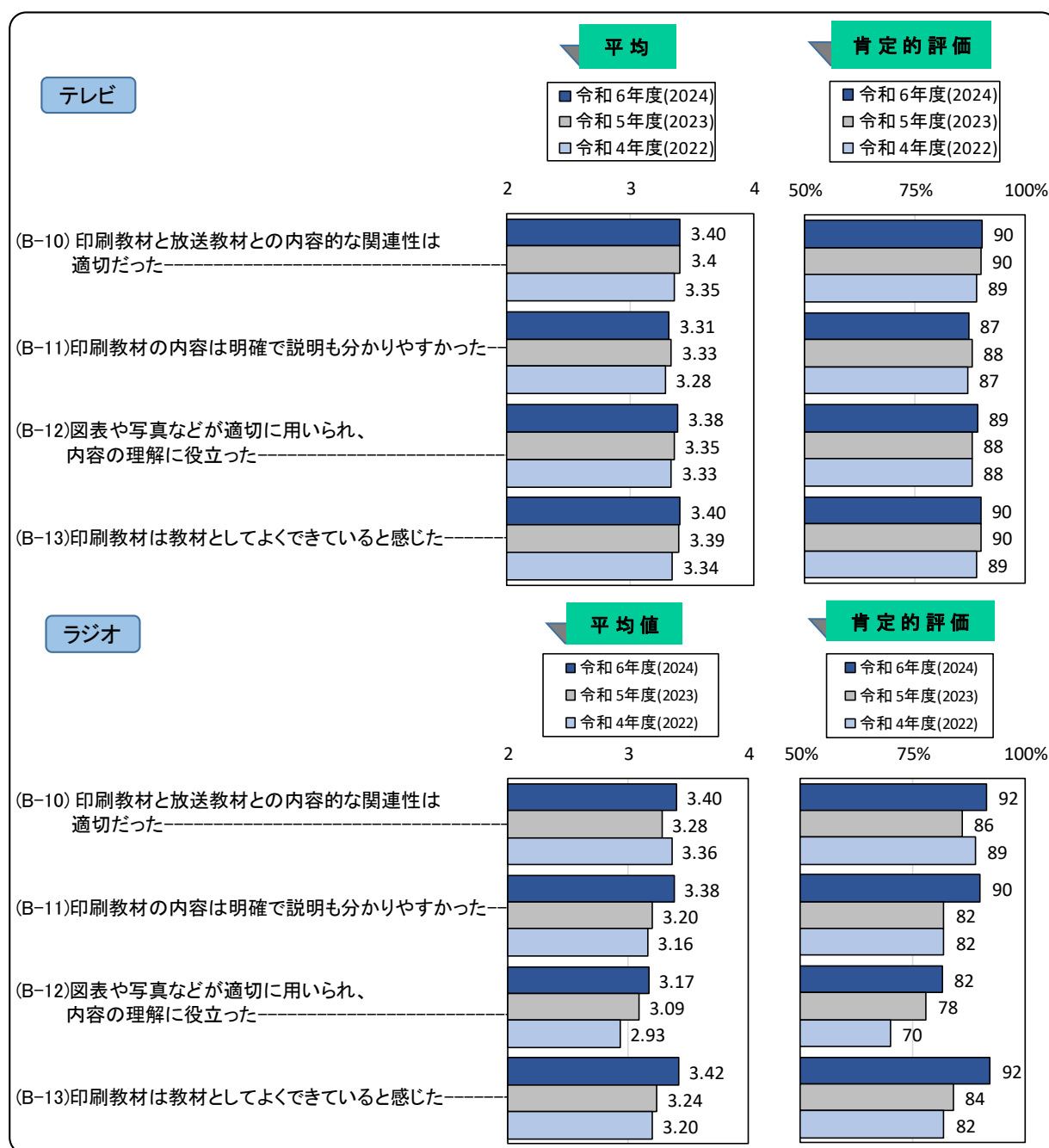
図２－３９【学部】メディア別の印刷教材の評価



メディア別の印刷教材の結果を時系列で見ると（図2－40）、テレビ科目では、本年度は、全ての項目で昨年度と同水準もしくは1ポイントの増減に留まった。

一方、ラジオ科目については、全ての項目において昨年度より評価が4～8ポイントと大幅に増加した。

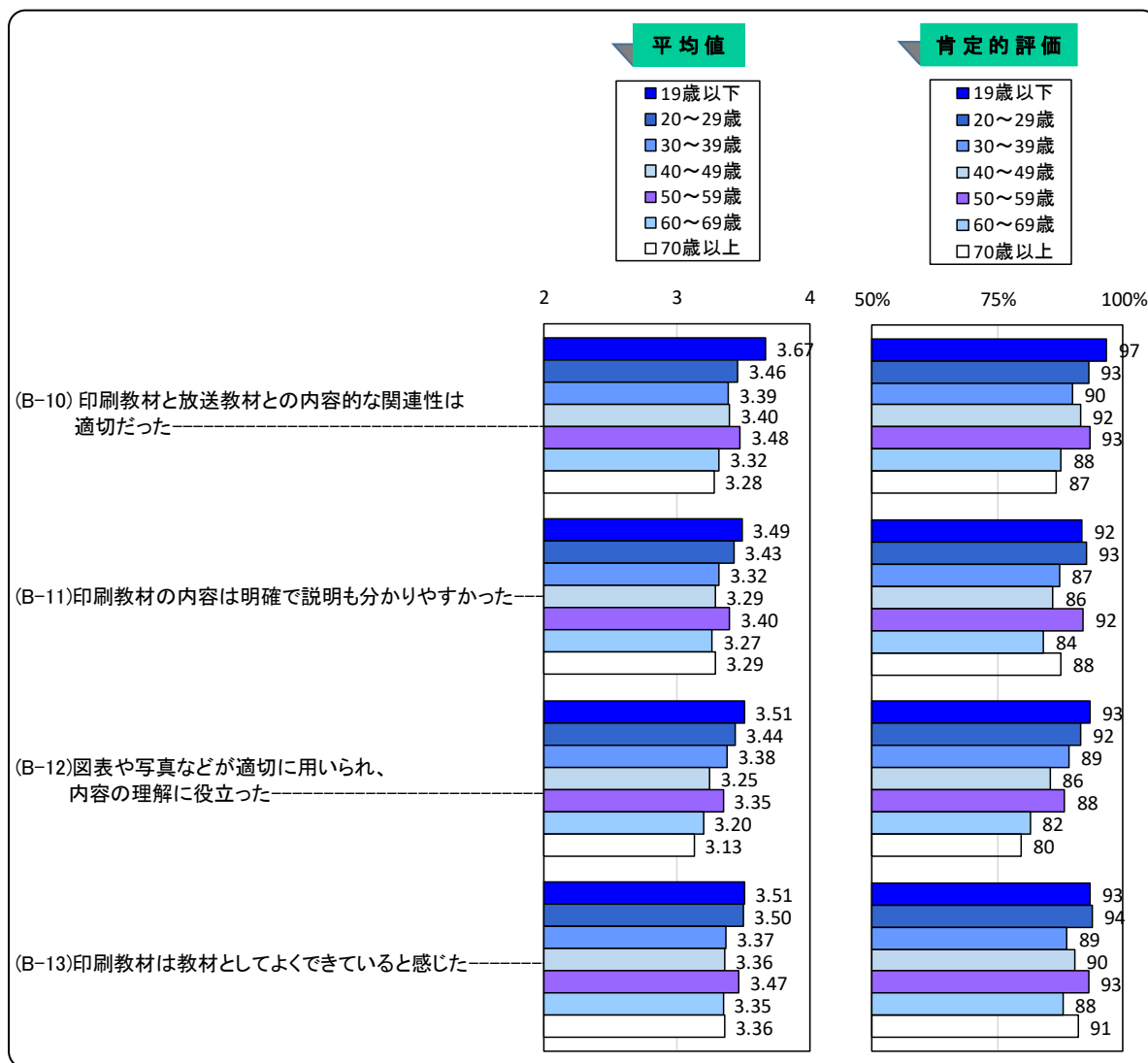
図2－40 【学部】メディア別の印刷教材の評価（時系列）



年齢階層別に印刷教材の評価を見ると（図 2－4 1）、全ての項目で 19 歳以下と 20 歳代の評価が上位 1,2 位と最も高かった。

反対に評価が低かったのは、60 歳代と 70 歳以上で、全ての項目において、下位 1,2 位となっていた。

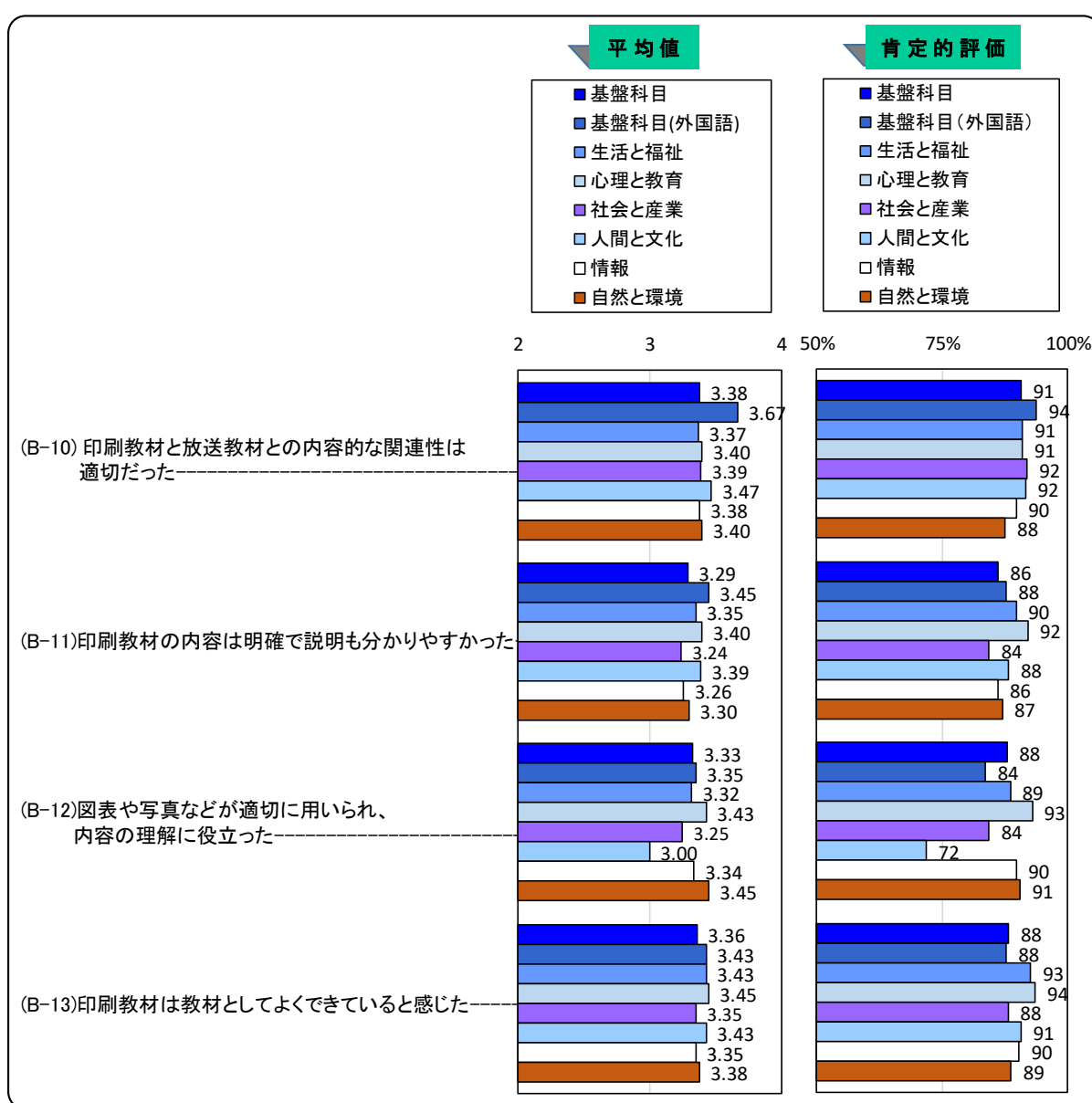
図 2－4 1 【学部】年齢階層別の印刷教材の評価



所属コース別に印刷教材の評価を見ると（図２－４２）、「心理と教育」が、全ての項目で 90％以上の評価であった。（B-10）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」では「基盤科目（外国語）」、（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では「生活と福祉」、（B-12）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」では「自然と環境」、（B-13）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」については、「生活と福祉」の評価も高かった。

反対に評価が低かったのは、「人間と文化」で、（B-12）では 72％と、他項目と比較して 16 ポイント以上と突出して少なかった。

図２－４２ 【学部】所属コース別の印刷教材の評価

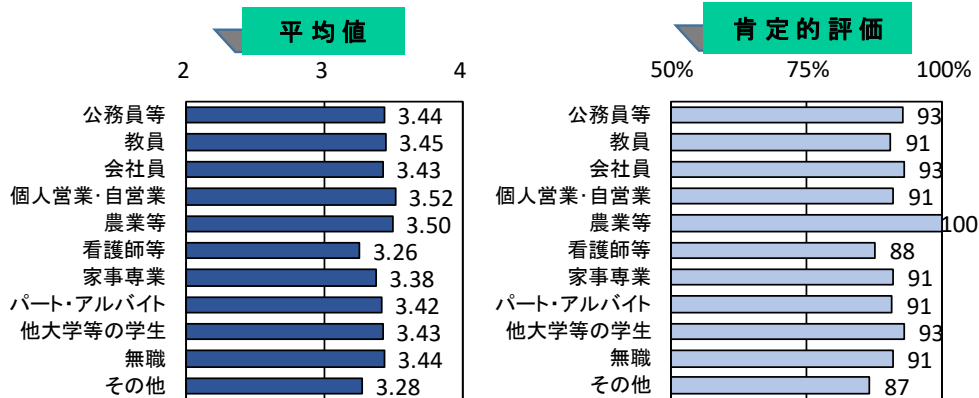


職業別の印刷教材の評価（次頁図 2－43）で、特徴的であったのは、「会社員」と「農業等」で、全ての項目において 90%以上と評価が高かった。

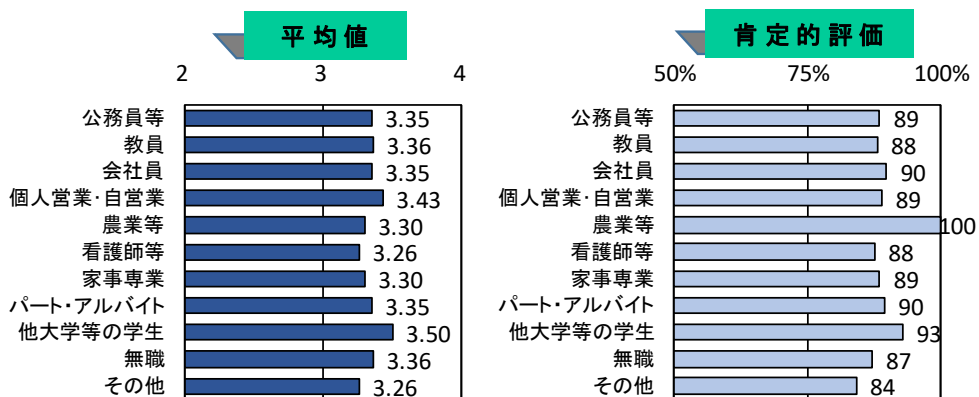
反対に評価が低かった項目は、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」が「その他」87%、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」が「その他」84%、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が「他大学等の学生」79%、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が「他大学等の学生」71%だった。

図 2-43 【学部】職業別の印刷教材の評価

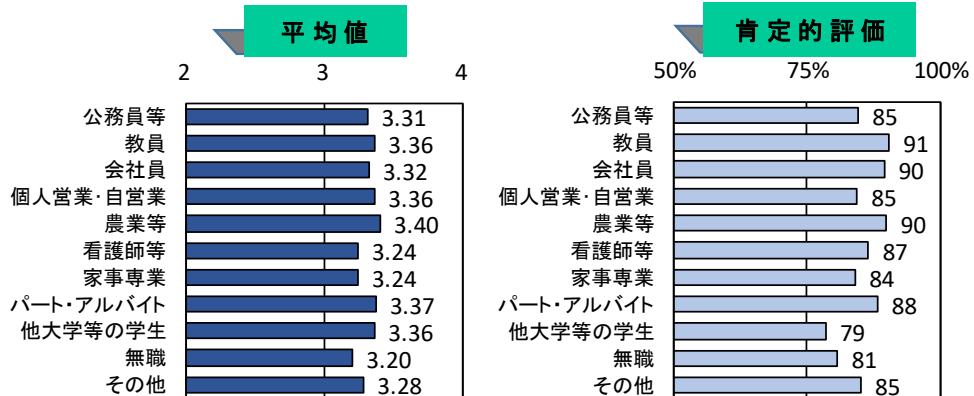
(B-10) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



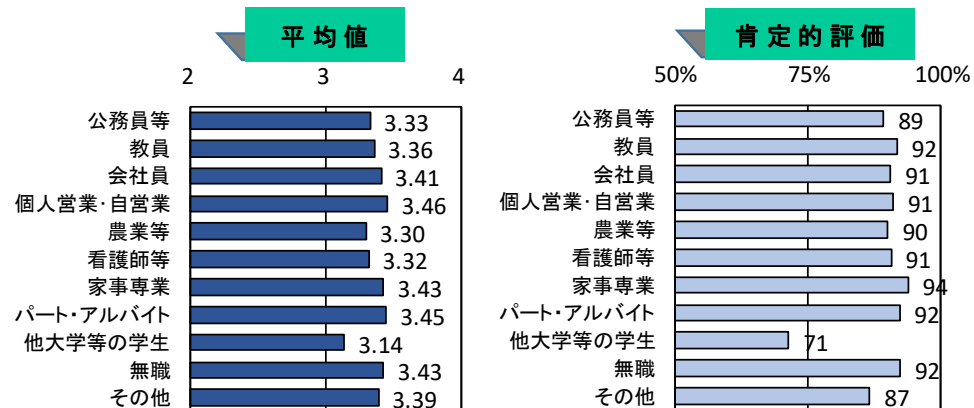
(B-11) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた

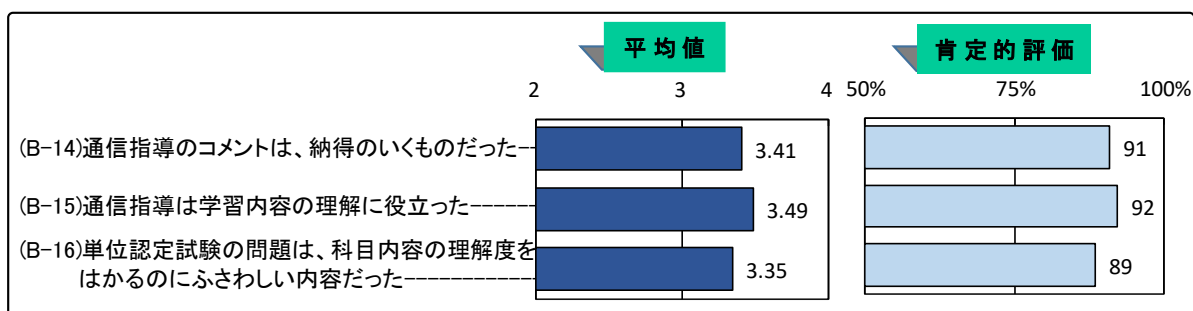


（５）通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

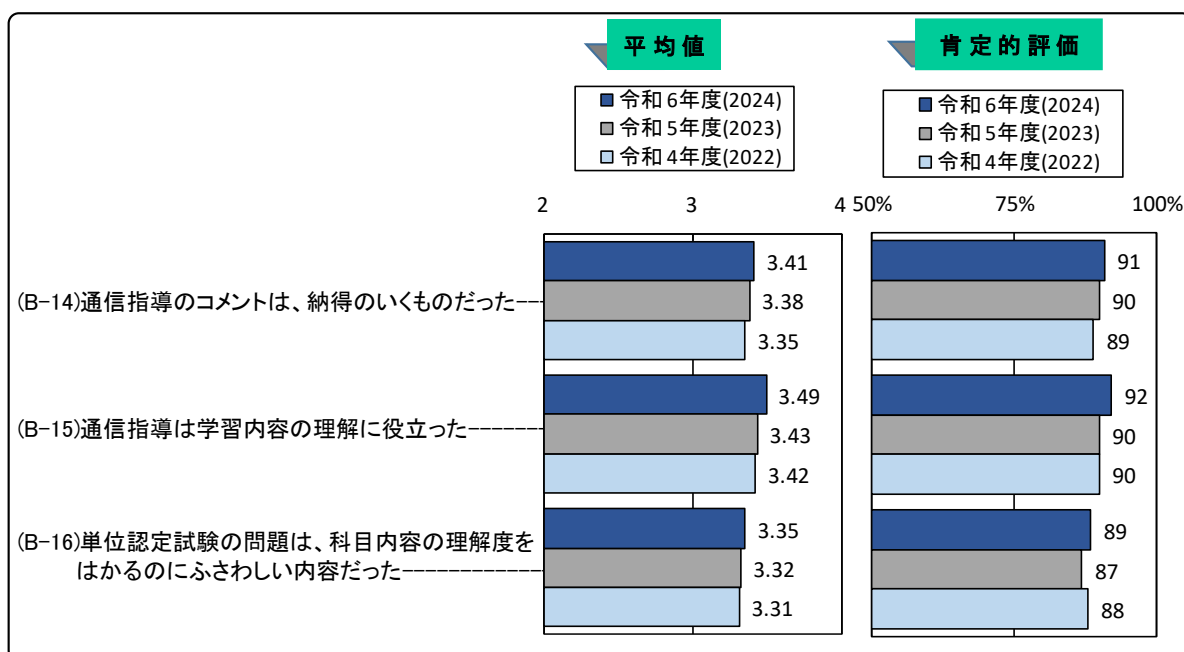
通信指導・単位認定試験については（図２－４４）、全ての項目で 89～92% と同水準であった。

図２－４４【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると（図２－４５）、本年度は、下記の３目全てで、昨年度より１～２ポイントと僅かながら評価は上昇した。

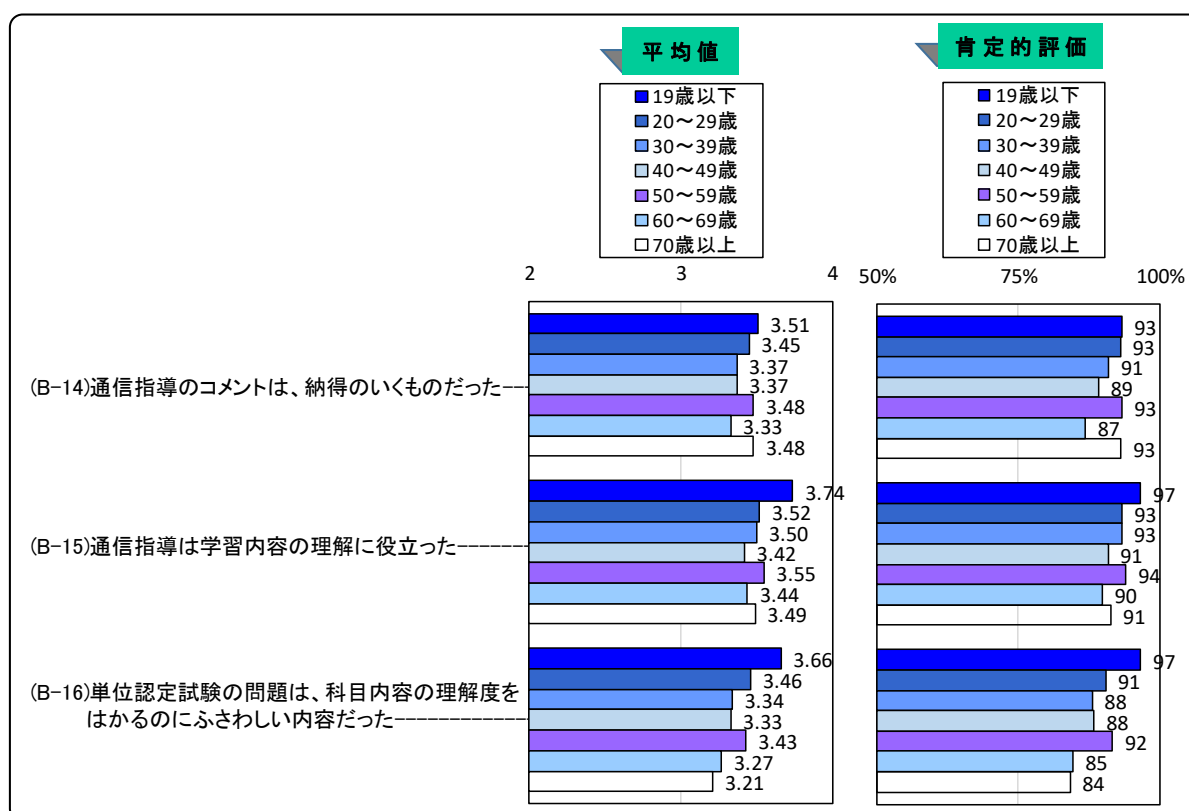
図２－４５【学部】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価（時系列）



年齢階層別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2－46）、全ての項目で19歳以下の評価が最も高かった。中でも（B-15）「通信指導は学習内容の理解に役立った」、（B-16）「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、96%と他の年代よりも特に高かった。

反対に全般的に評価が低かった項目は（B-14）「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」が60歳代で87%、（B-15）「通信指導は学習内容の理解に役立った」が60歳代で90%、（B-16）「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」が60歳代85%、70歳代以上84%と下位1,2位であった。

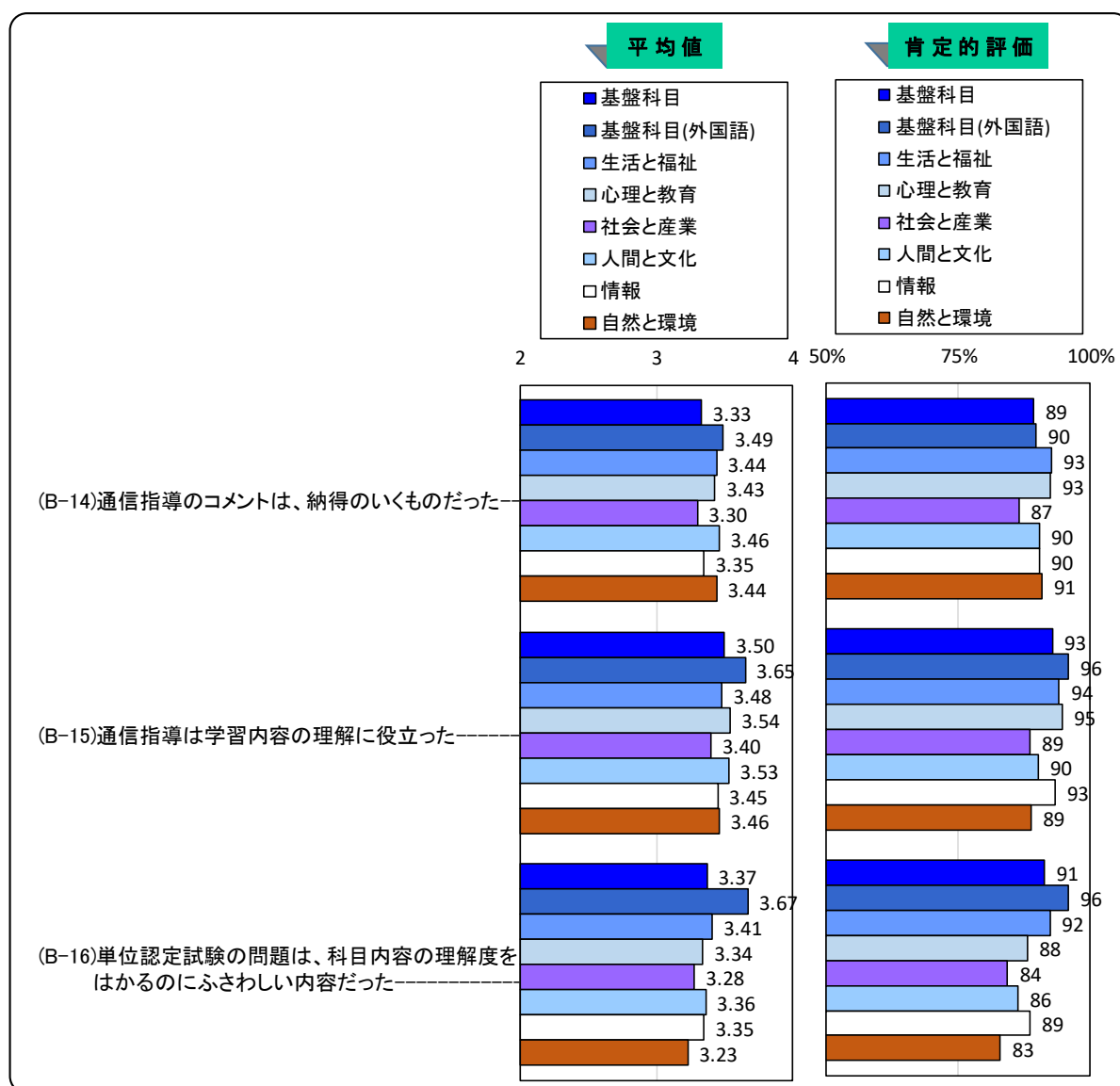
図2－46 【学部】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価



所属コース別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（図2-47）、「基盤科目(外国語)」と「生活と福祉」が全項目で90%と高い傾向が見られた。

反対に評価が低かったのは、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」、が「社会と産業」で87%、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」では「社会と産業」「自然と環境」で89%、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度を測るのにふさわしい内容だった」では「社会と産業」「自然と環境」が83～84%であった。

図2-47 【学部】所属コース別の通信指導・単位認定試験の評価



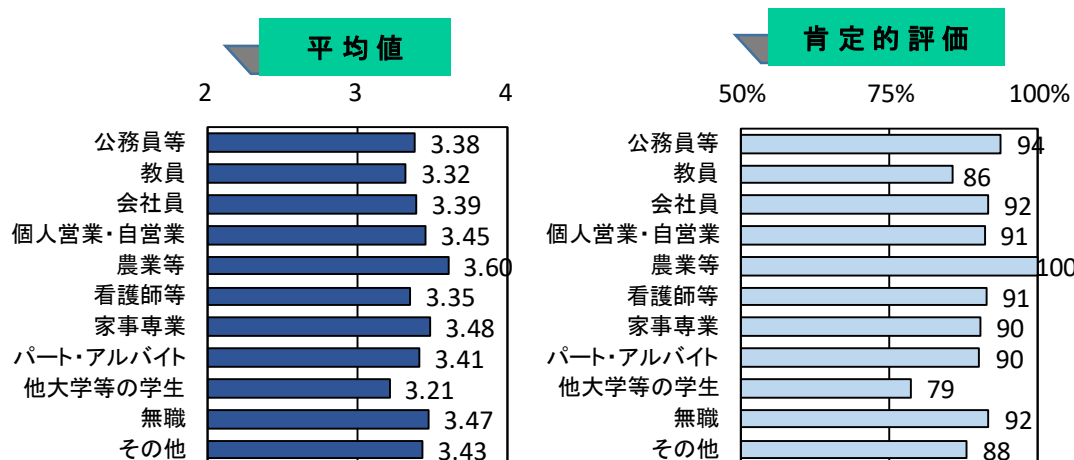
職業別に通信指導・単位認定試験の評価を見ると（次頁図2－48）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「農業等」（100%）と「公務員等」（94%）の評価が高く、反対に「他大学等の学生」が79%と低かった。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「農業等」（100%）の他に「個人営業・自営業」「看護師等」「パート・アルバイト」「無職」が93～94%と最も高かった。最も評価が低かったのは「他大学等の学生」（86%）であった。

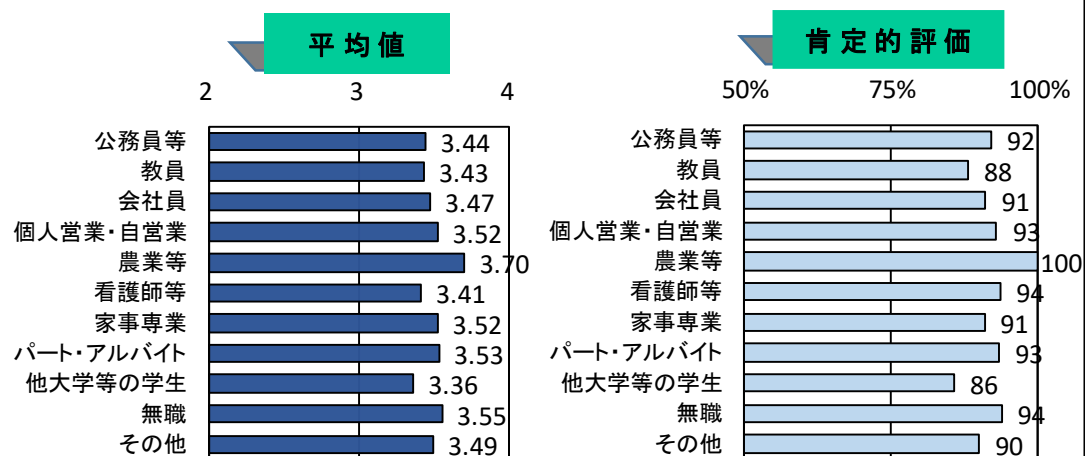
(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は「農業等」が100%と最も高く、他に「公務員等」「会社員」「家事専業」がそれぞれ90%以上と高かった。反対に、「教員」「他大学等の学生」が79%と低かった。

図2-48 【学部】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

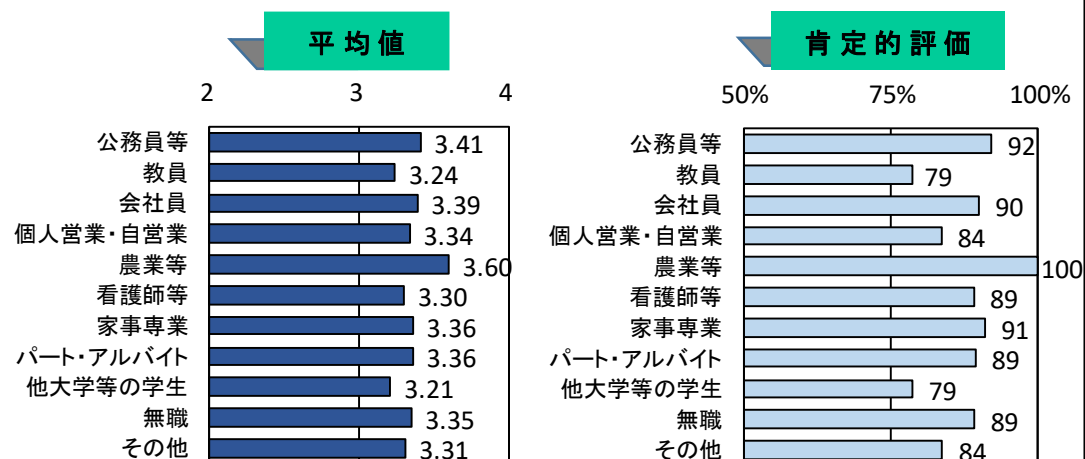
(B-14) 通信指導のコメントは、納得のいくものだった



(B-15) 通信指導は学習内容の理解に役立った



(B-16) 単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった



Ⅱ－１－４．学部重回帰分析

重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票Ⅰ.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

項目名	変数	対象
目的変数	y	全体の満足度：B-21
説明変数	$x_1, x_2, \dots$	各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目）
係数	$a_1, a_2, \dots$	重回帰分析によって得られる偏回帰係数

重回帰式 $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

分析には、IBM SPSS Statistics 25 を使用した。変数選択方法は、ステップワイズ法を採用した。変数の選択基準は、F 検定有意確率で、投入 $F \leq .05$ 、除去 $F \geq .10$ とした。VIF はすべて 10 未満で多重共線性がないことを確認したうえで重回帰分析を行った。

使用したデータは質問項目Ⅰ.B の全設問を全て回答した 2772 人のローデータを使用した。

最終的に 8 変数が除去され、12 変数のモデルとなった。結果は以下の通りである。

■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.734 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 2.039 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

決定係数	0.735
自由度修正済み決定係数	0.734
ダーヴィンワトソン比	2.039
残差の標準偏差	0.372

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	1444.394	2771				
回帰による変動	1061.892	12	88.491	638.289	0.000	[**]
回帰からの残差変動	382.502	2759	0.139			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-20「この科目の内容を全体としてよく理解できた。」で 0.263、次いで、B-18「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。」(0.200)、B-19「新しい知識が身につく視野が広がった。」(0.185)と続いていた。

今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 90.6%)を上げるためには、前述の 3 項目、さらには、印刷教材の充実、講師のわかりやすい説明などについて、肯定的評価を上げる事が効果的であると考えられる。

目的変数	標準 偏回帰 係数	説明変数	判定
B21-全体の満足度	0.263	B-20この科目の内容を全体としてよく理解できた。	[**]
	0.200	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	[**]
	0.185	B-19新しい知識が身につく視野が広がった。	[**]
	0.122	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	[**]
	0.112	B-5講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった。	[**]
	0.083	B-3印刷教材の難易度は適切だった。	[**]
	0.080	B-6放送授業は教材としてよくできていると感じた。	[**]
	0.067	B-16単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるにふさわしい内容だった。	[**]
	-0.048	B-1放送授業の難易度は適切だった。	[**]
	0.039	B-15通信指導は学習内容の理解に役立った。	[*]
	0.030	B-17授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った。	[*]
	-0.029	B-12図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った。	[*]
		定数項	[**]

Ⅱ－2. 大学院の分析結果

Ⅱ－2－1. 項目平均から見た全体的傾向

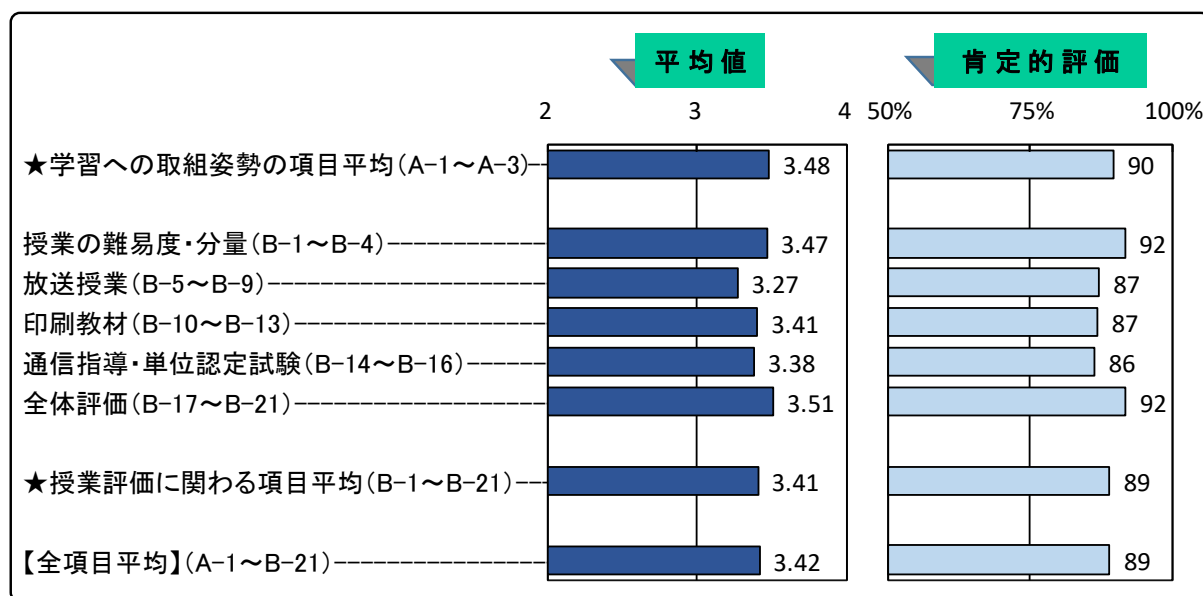
評価項目の内容ごとに回答者全体の平均値と肯定的評価を A-1～A-3 等の複数の項目の平均を算出しグラフ化（図 2－4 9）した。

学部同様、肯定的な評価（「あてはまる」＋「ややあてはまる」）の方が（例えば回答者の 80％）イメージしやすく、下図左側の平均値と肯定的評価に齟齬が生じた場合、どちらを採用するか合理的に判断出来ないため、コメントについては肯定的評価を用いて、平均値は参考値として扱っていきたい。

また、回答者数が小サンプルの場合、％表記にすると、誤差が大きくなるため、いずれも参考値としてグラフに記載しているが、コメントを割愛する事にする。年齢階層別の「20～29 歳」（1 人）、職業別の「パート・アルバイト」（1 人）が挙げられる。（「農業等」「他大学等の学生」は一人もいなかった。）

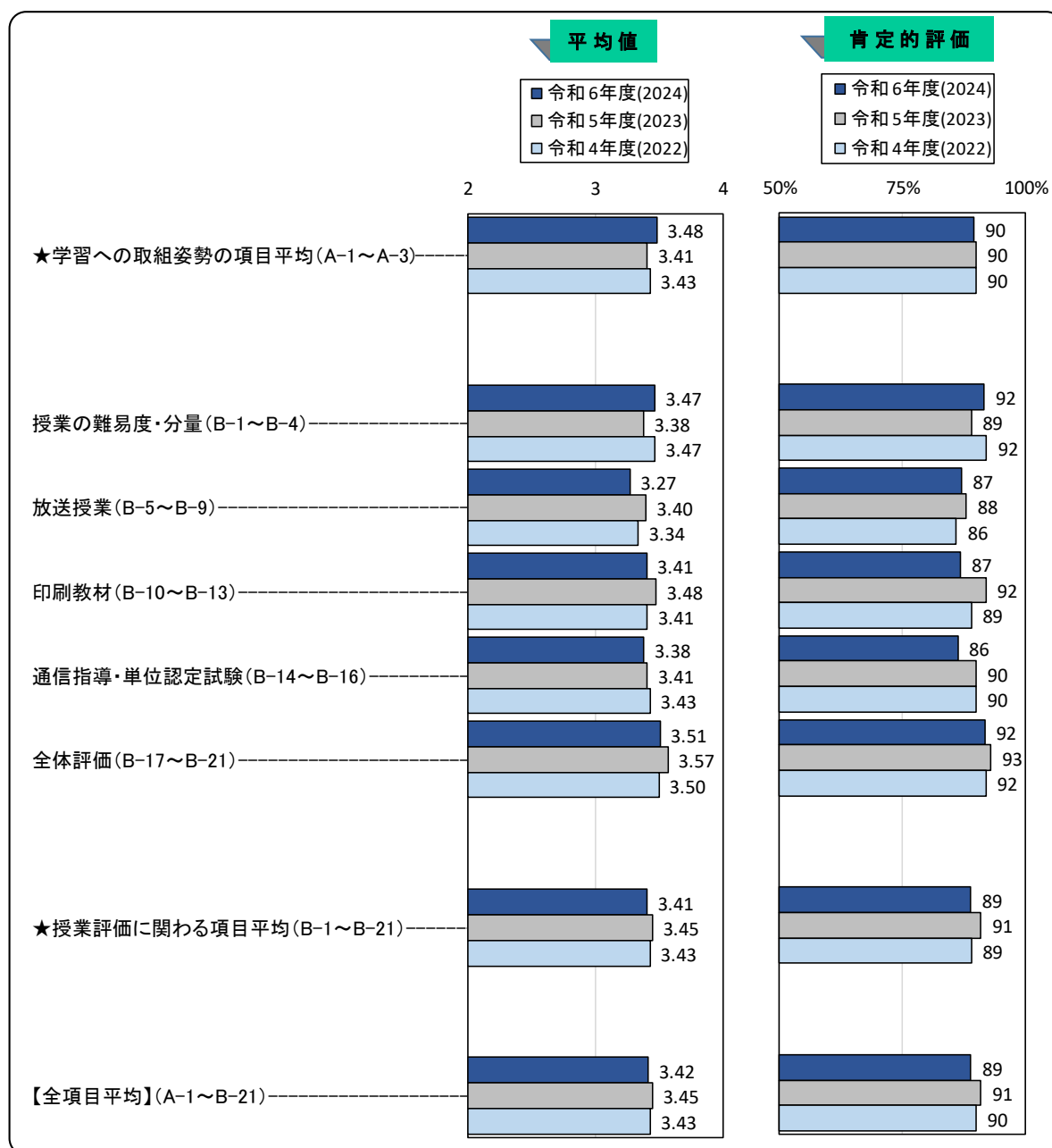
項目平均による全体的傾向をみると（図 2－4 9）、『授業の難易度・分量』『全体評価』は 92％と高かったが、『放送授業』『印刷教材』『通信指導・単位認定試験』が 86～87％と低かった。

図 2－4 9 【大学院】項目平均による全体的傾向



項目平均を科目の開設年度で比較して見ると（図２－５０）、本年度は昨年度と比べ『学習への取組姿勢の項目平均』が横ばい、『授業の難易度・分量』が僅かに上昇したほかは、僅かに評価が下がっていた。

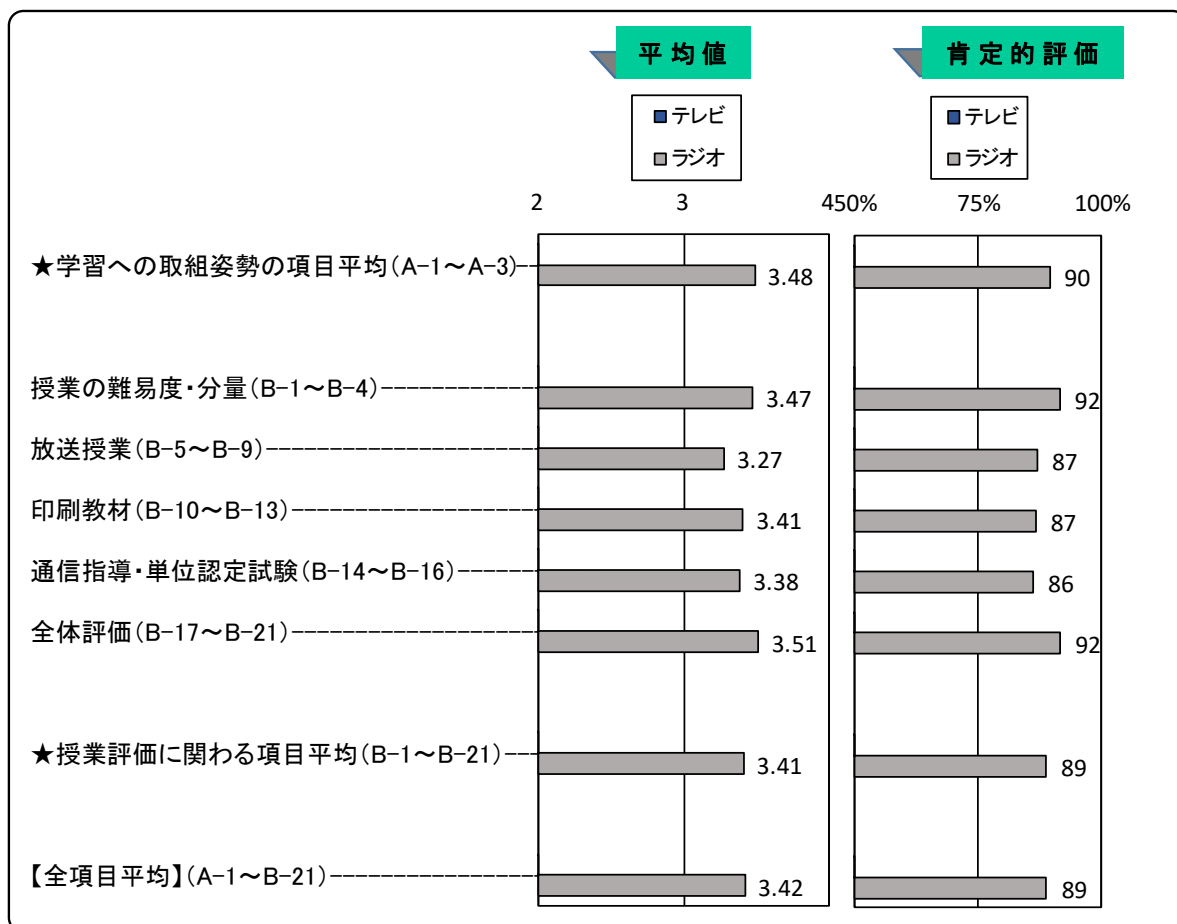
図２－５０ 【大学院】項目平均による全体的傾向（開設年度比較）



ラジオ科目の（図２－５１）、『授業の難易度・分量』『全体評価』が92%と高くなっていた。

図２－５１ 【大学院】項目平均によるメディア別全体的傾向

※本年度の今回調査対象科目には、大学院のテレビ科目は含まれないため、ラジオ科目のグラフのみを記載している。またこれ以降のページについても同様とする。

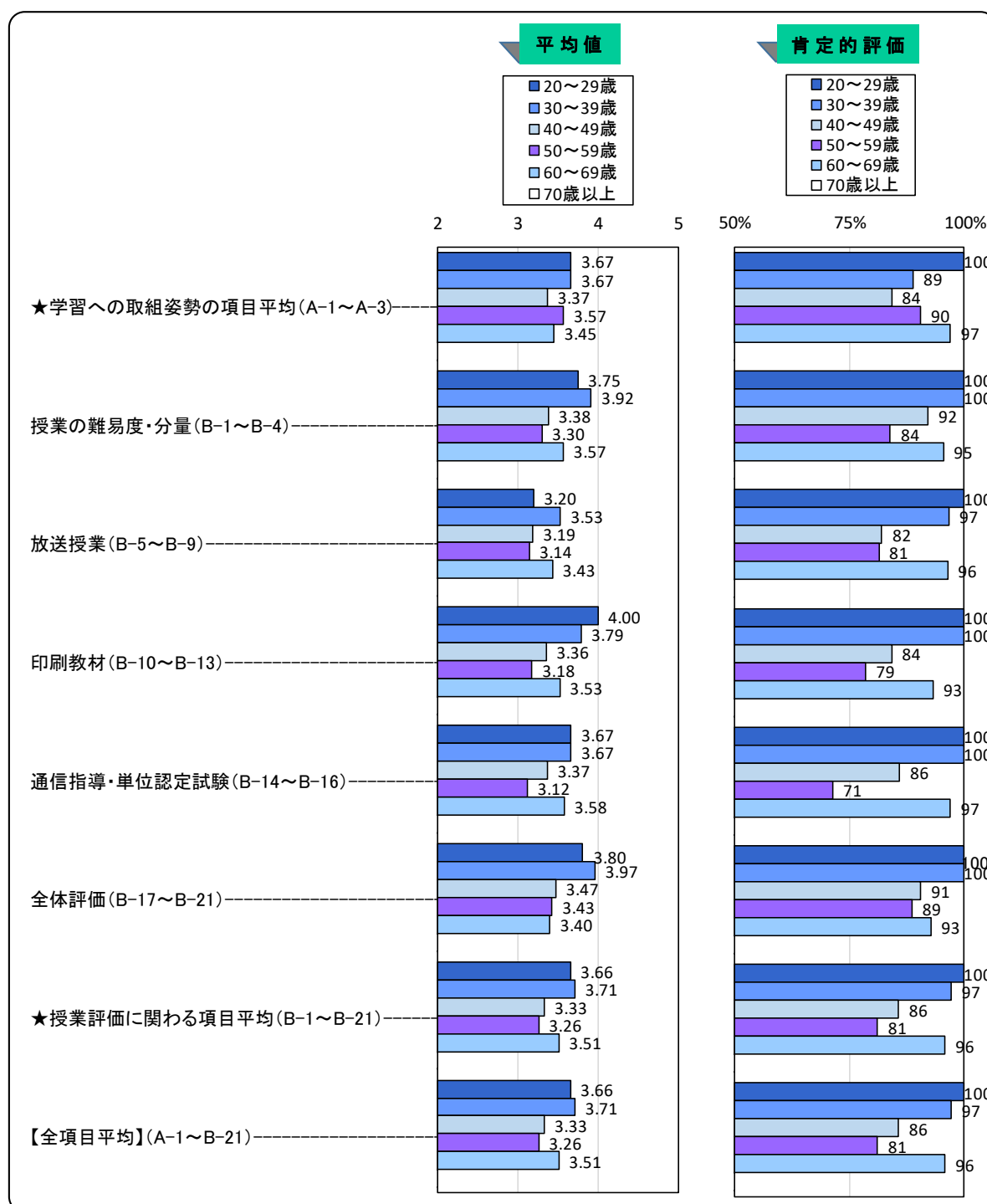


年齢階層別では（図 2 - 5 2）、『学習への取組姿勢の項目平均』以外では 30 歳代が最も高く、『学習への取組姿勢の項目平均』では 60 歳代が 97% と評価が高かった。

逆に、50 歳代は『印刷教材』が 79%、『通信指導・単位認定試験』が 71% と低い傾向が見られた。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

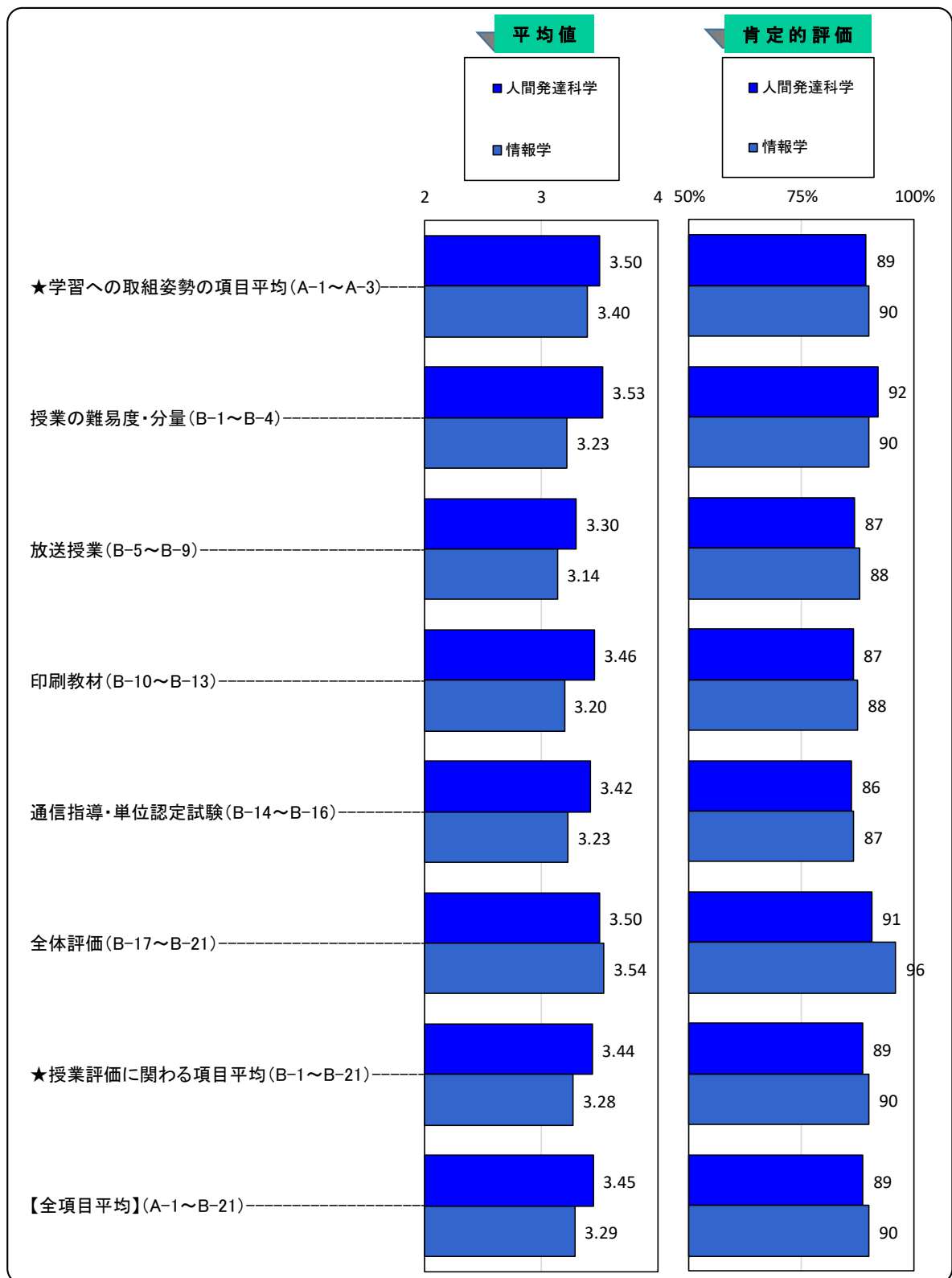
図 2 - 5 2 【大学院】項目平均による年齢階層別全体的傾向



所属プログラム別に項目平均を見ると（次頁図 2－53）、『人間発達化学』『情報学』ともに肯定評価は近似していた。

平均評点としては、『全体評価』『全項目平均』以外は『人間発達化学』が高い傾向となった。

図 2-53 【大学院】項目平均による所属プログラム別全体的傾向

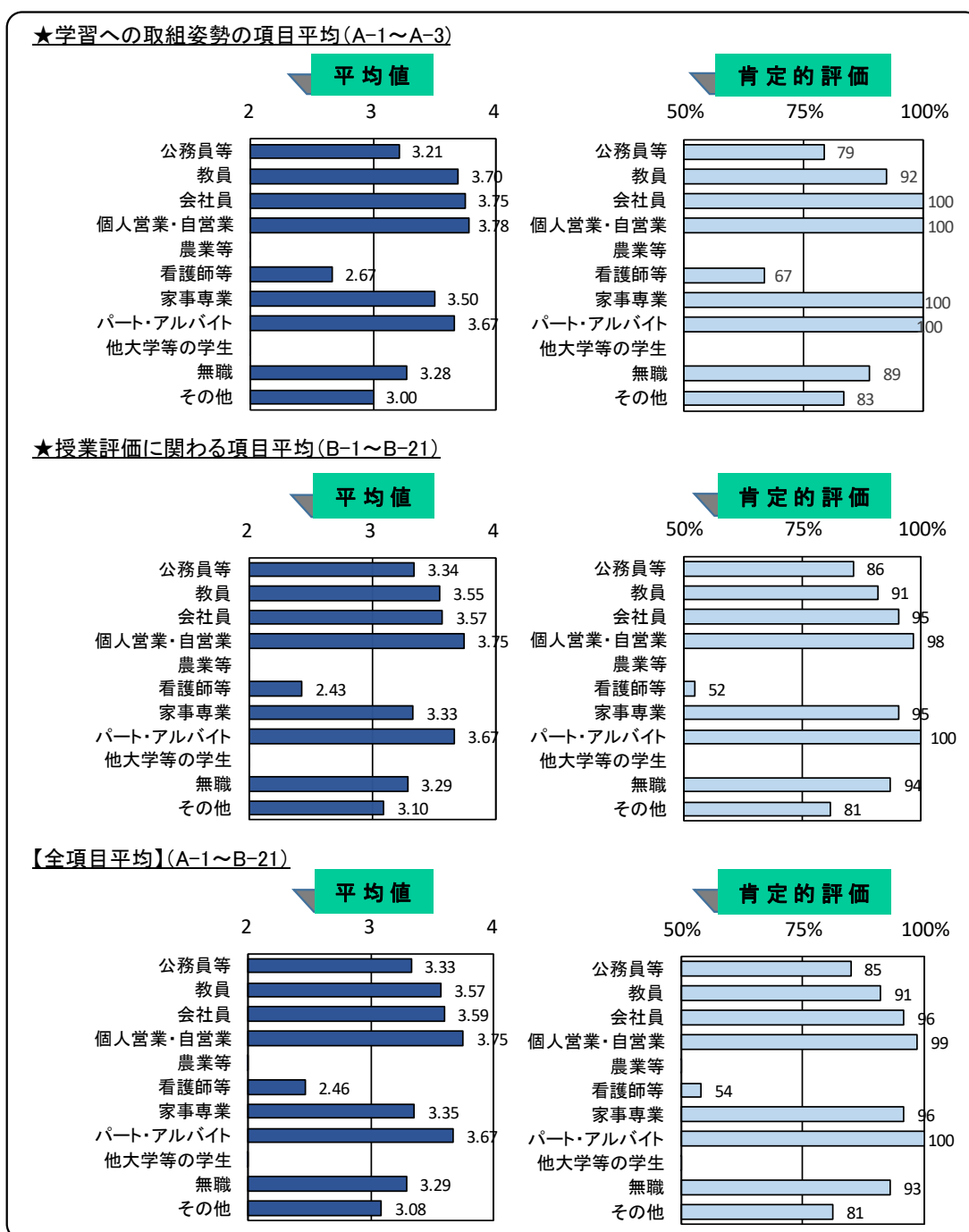


職業別では（図 2－5 4）、『学習への取組姿勢』は「教員」「会社員」が 93～94％で評価が高く、「個人営業・自営業」が 85％と評価が低かった。

『授業評価に関わる項目平均』と『全項目平均』では、「教員」が両項目とも 93％と、評価が高く、「個人営業・自営業」「パート・アルバイト」が、84～85％と、評価が低かった。

※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」（1 人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2－5 4 【大学院】項目平均による職業別全体的傾向

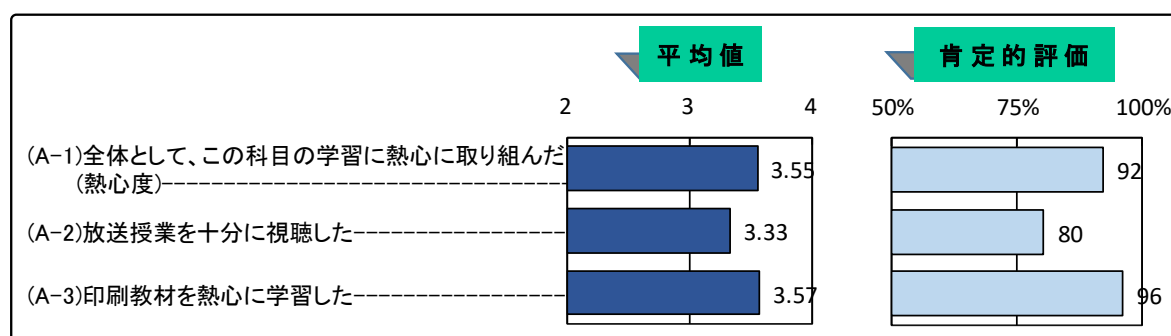


Ⅱ－2－2. 学習への取組み姿勢

ここからはそれぞれ評価項目ごとに調査結果を見ていく。

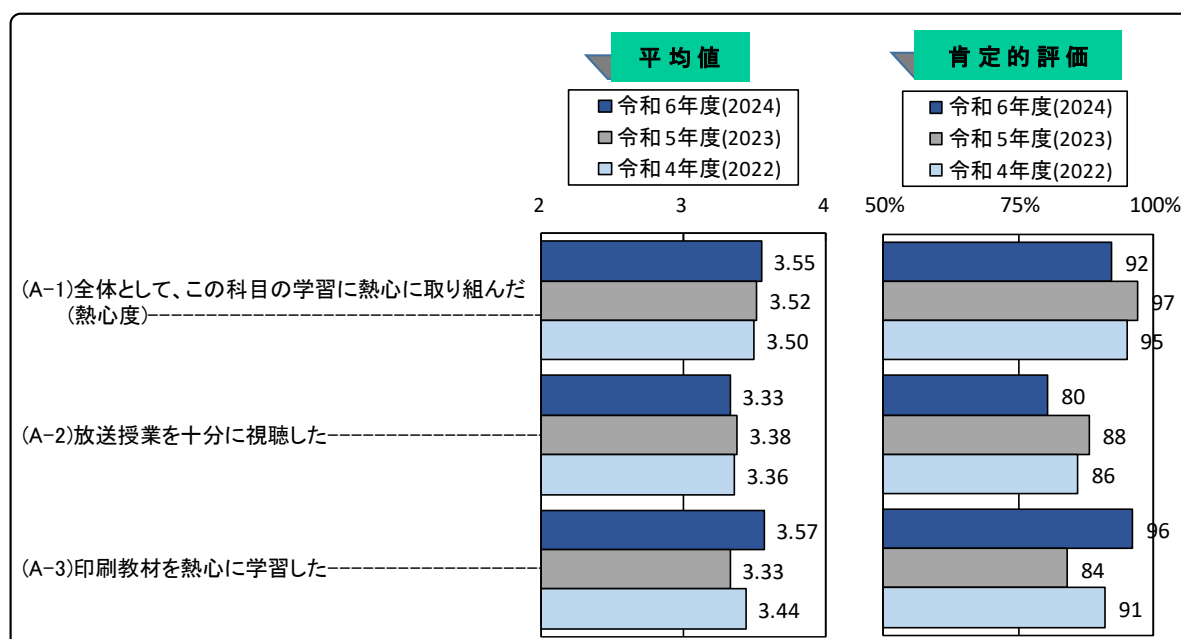
『学習への取組姿勢』（図 2－5 5）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と (A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 92～96％に達していたが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 80％と、前述の 2 項目に比べると取組姿勢が低かった。

図 2－5 5 【大学院】回答者全体の取組姿勢



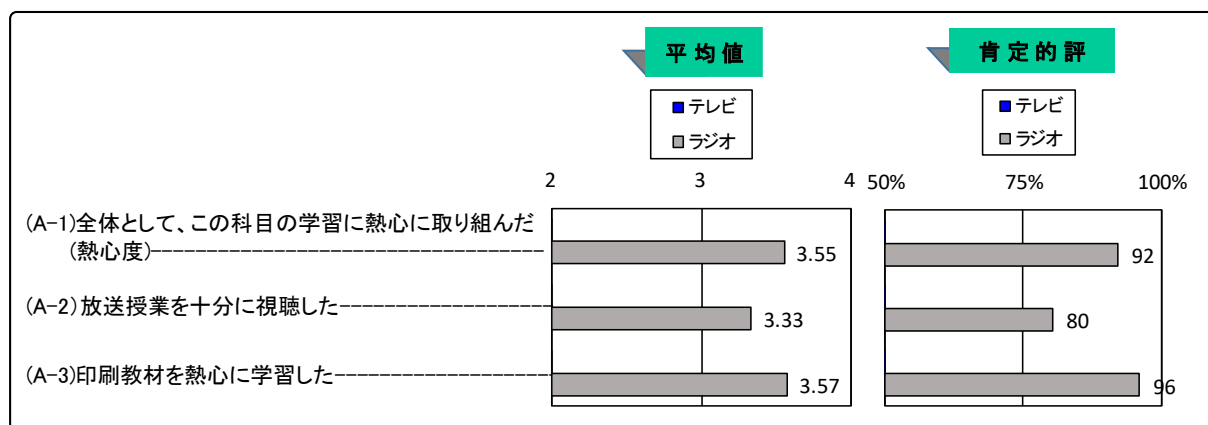
『学習への取組姿勢』を時系列で見ると（図 2－5 6）、本年度の評価は昨年度と比べ、(A-1)「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は下落したが、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は 8 ポイント増、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は 12 ポイント増と昨年度より大幅に増加した。

図 2－5 6 【大学院】回答者全体の取組姿勢（時系列）



次にメディア別の取組姿勢では（図２－５７）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」と（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」は 92～96％と高水準だったが、（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、80％と低い結果となった。

図２－５７【大学院】メディア別の取組姿勢



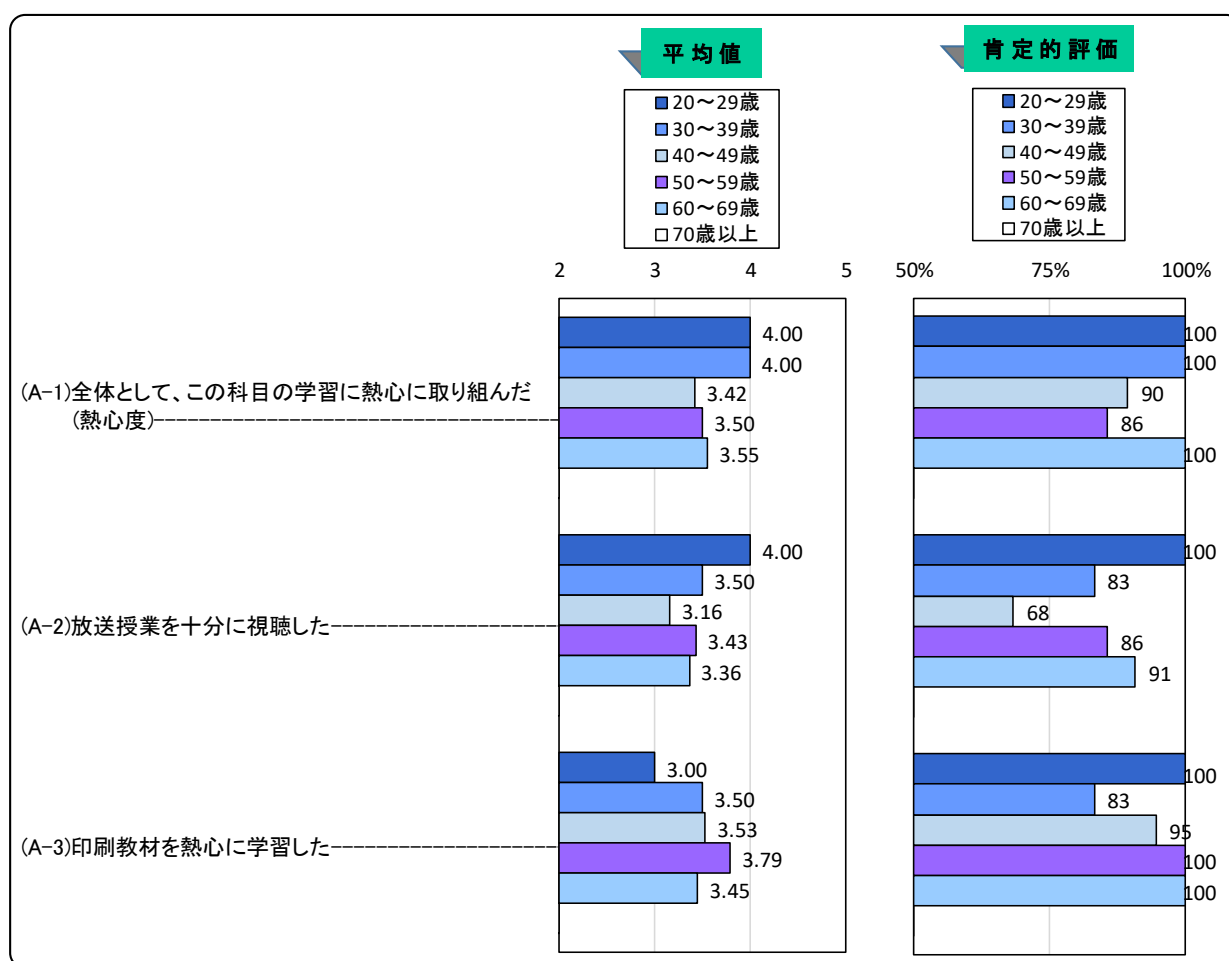
年齢階層別では（図2-58）、（A-1）「全体として、この科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」は、30歳代、60歳代が100%と熱心度が高く、次いで40歳代が90%で続いていた。反対に熱心度が低かったのは、50歳代で、86%であった

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は、60歳代が91%と高く、反対に40歳代は68%と低くなっていた。

（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」については、50歳代、60歳代の評価が高かった。

※「20～29歳」は回答者数が1人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

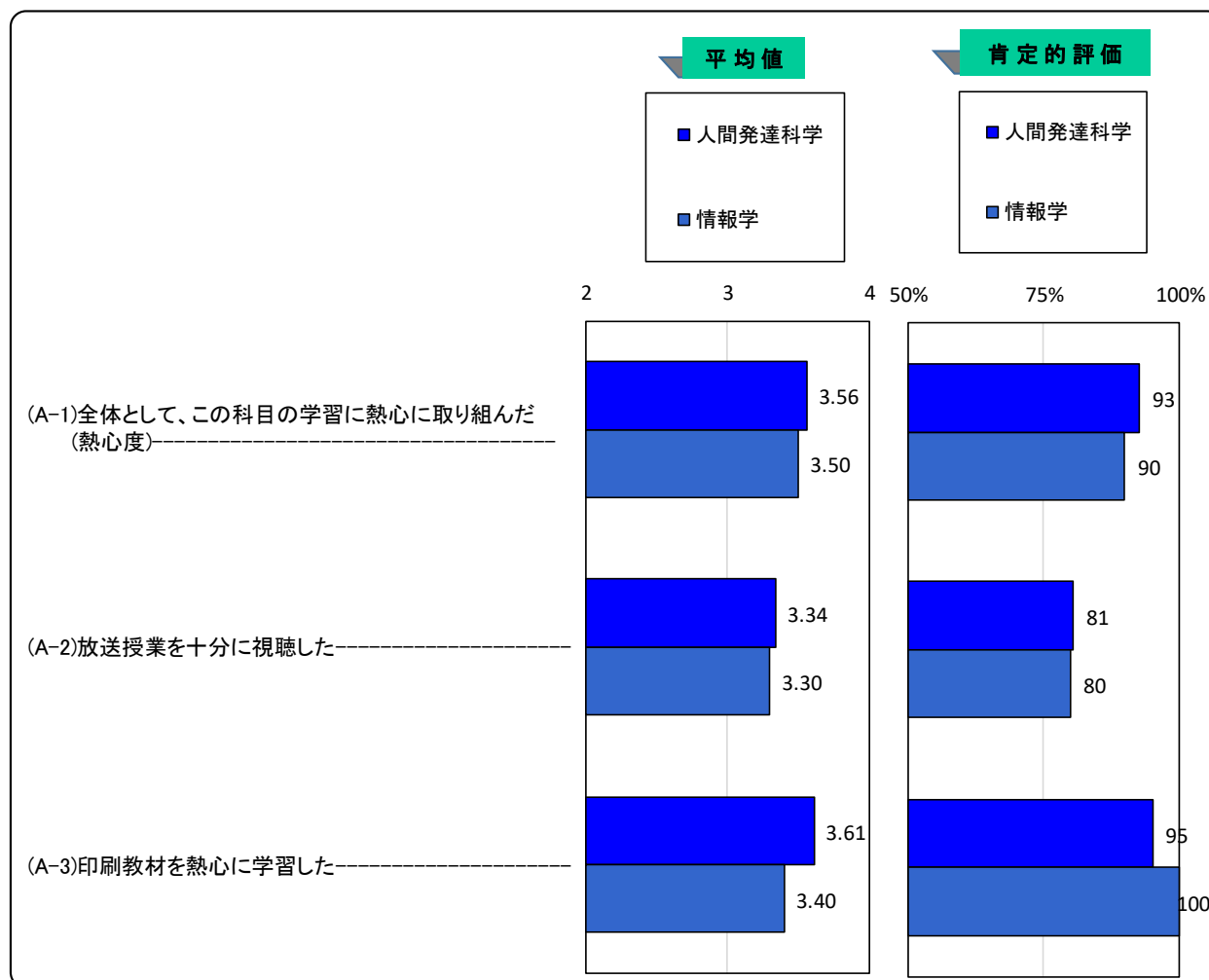
図2-58【大学院】年齢階層別の取組姿勢



所属プログラム別の取組姿勢（図 2－59）では、(A-1)「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」、(A-2)「放送授業を十分に視聴した」は、「人間発達科学」の積極性が高くなっていた。

反対に、(A-3)「印刷教材を熱心に学習した」は、「情報学」の評価がそれぞれ 100%と高かった。

図 2－59 【大学院】所属プログラム別の取組姿勢



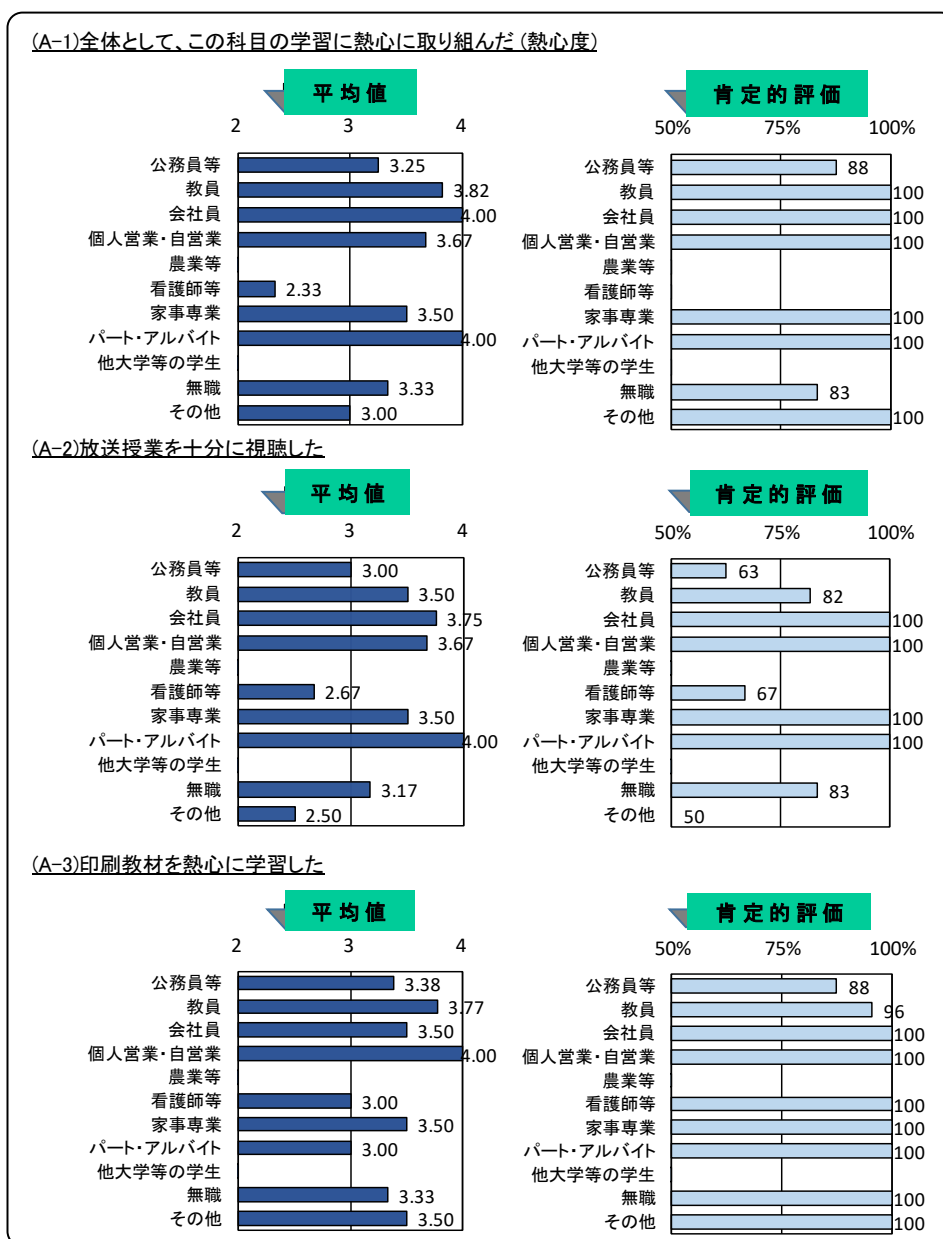
職業別の取組姿勢は（図2-60）、（A-1）「全体としてこの科目の学習に熱心に取り組んだ（熱心度）」では、「教員」「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「その他」がそれぞれ100%と最も高かった。反対に「無職」は83%と低かった。

（A-2）「放送授業を十分に視聴した」は「教員」「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」が100%と最も高かった。反対に「その他」が50%と最も低く、次いで「公務員等」が63%、「看護師等」が67%と低い傾向にあった。

（A-3）「印刷教材を熱心に学習した」については、「公務員等」以外は96%以上と高い傾向にあった。

※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」（1人）は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図2-60【大学院】職業別の取組姿勢



単位認定のための学習方法（図 2－6 1）では、属性別の各層内で回答者数がなかった「農業等」「他大学等の学生」は、下記のグラフから除外した。

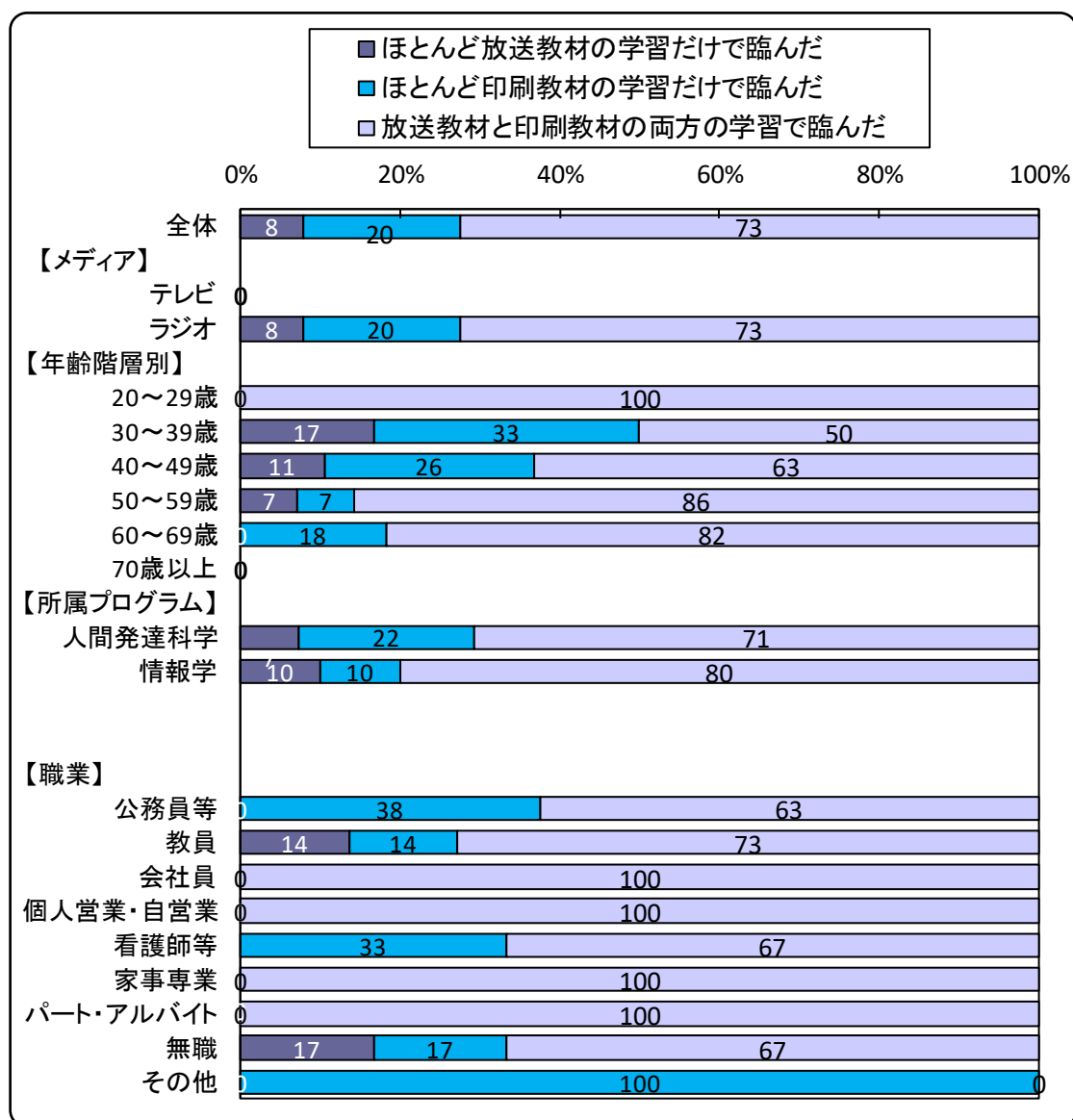
全体は、比率の高い順に「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が 73%と、大半を占め、「ほとんど印刷教材の学習だけで臨んだ」が 20%で、「ほとんど放送教材の学習だけで臨んだ」は 8%と、少なかった。

年齢階層別では、50 歳代、60 歳代は、「放送教材と印刷教材の両方の学習で臨んだ」が 82%以上と、他の年代に比べ比率が高かった。

所属プログラム別では、「情報学」は 80%と、「人間発達科学」の 71%を大きく上回った。

「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」は、「両方の学習で臨んだ」が 100%と、他の職業と比べ最も高かった。

図 2－6 1 【大学院】単位認定のための学習方法



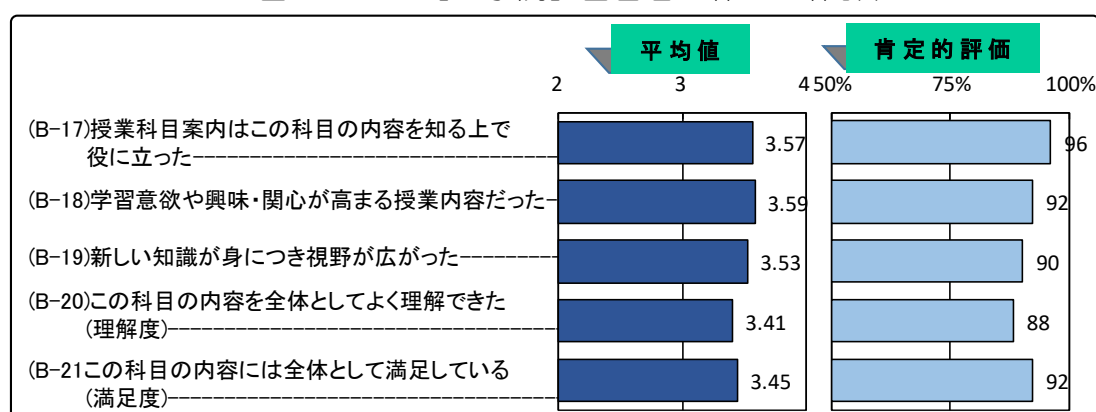
Ⅱ－２－３．大学院の授業評価

ここからは大学院の授業評価について、評価項目ごとに見ていくことにする。

全体評価の項目では（図２－６２）、（B-17）「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」（96％）が最も高く評価されていた。

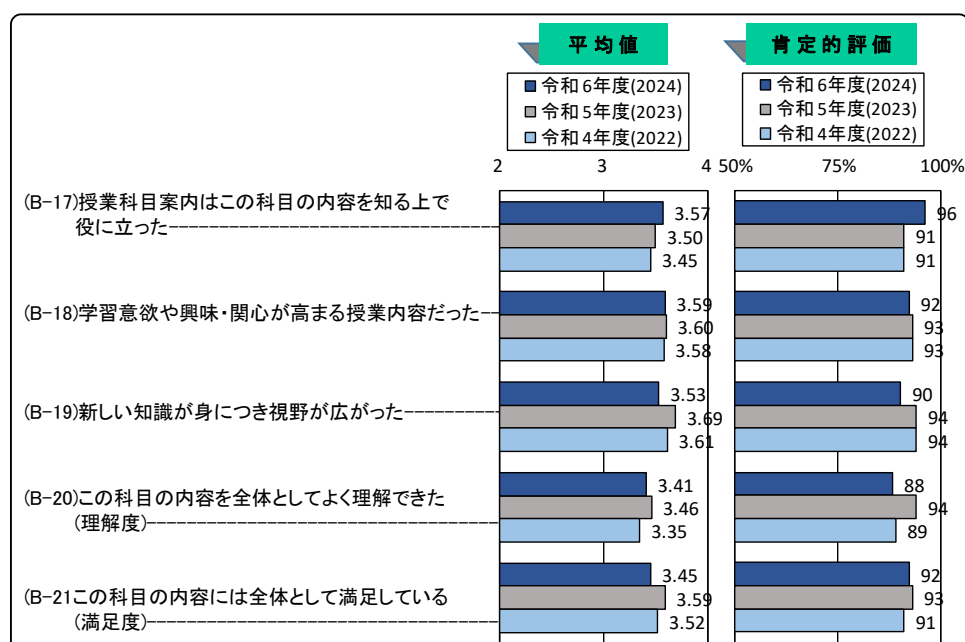
反対に（B-20）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は 88％と、最も低く、それ以外の項目については 90～92％であった。

図２－６２【大学院】回答者全体の全体評価



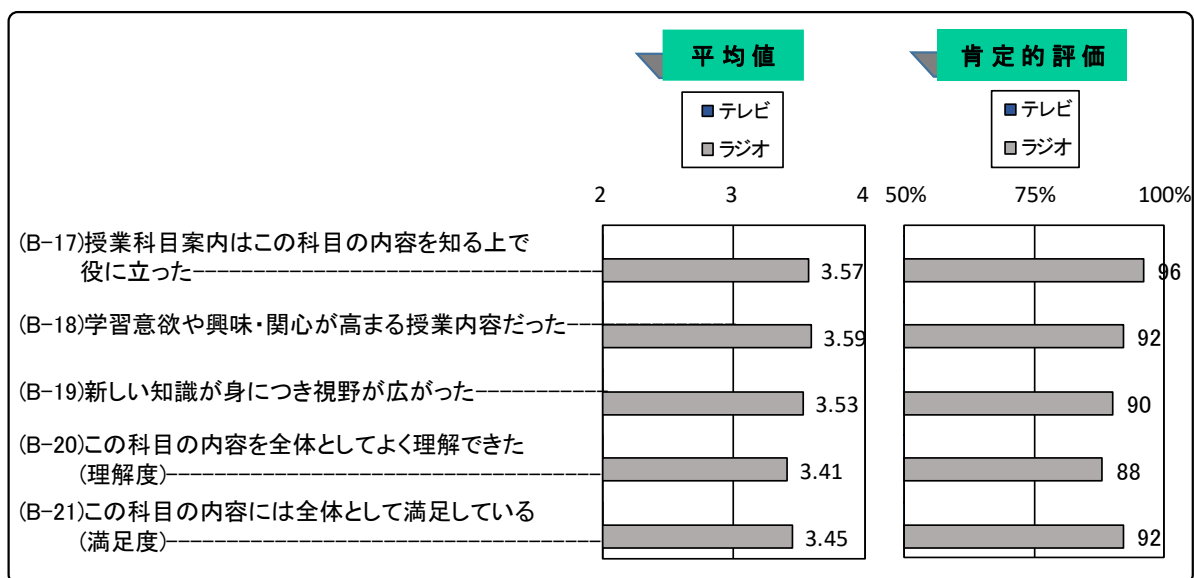
全体評価を時系列で見ると（図２－６３）、（B-17）「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」が 96％と昨年度と比べ 5 ポイント増加したが、（B-19）「新しい知識が身につく視野が広がった」（B-20）は 90％、「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」は 88％と、昨年度と比べ 4～6 ポイント減少した。

図２－６３【大学院】回答者全体の全体評価（時系列）



ラジオ科目では（図２－６４）、（B-17）「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」が 96％と最も高く、（B-20）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」が 88％と最も低かった。

図２－６４【大学院】メディア別の全体評価



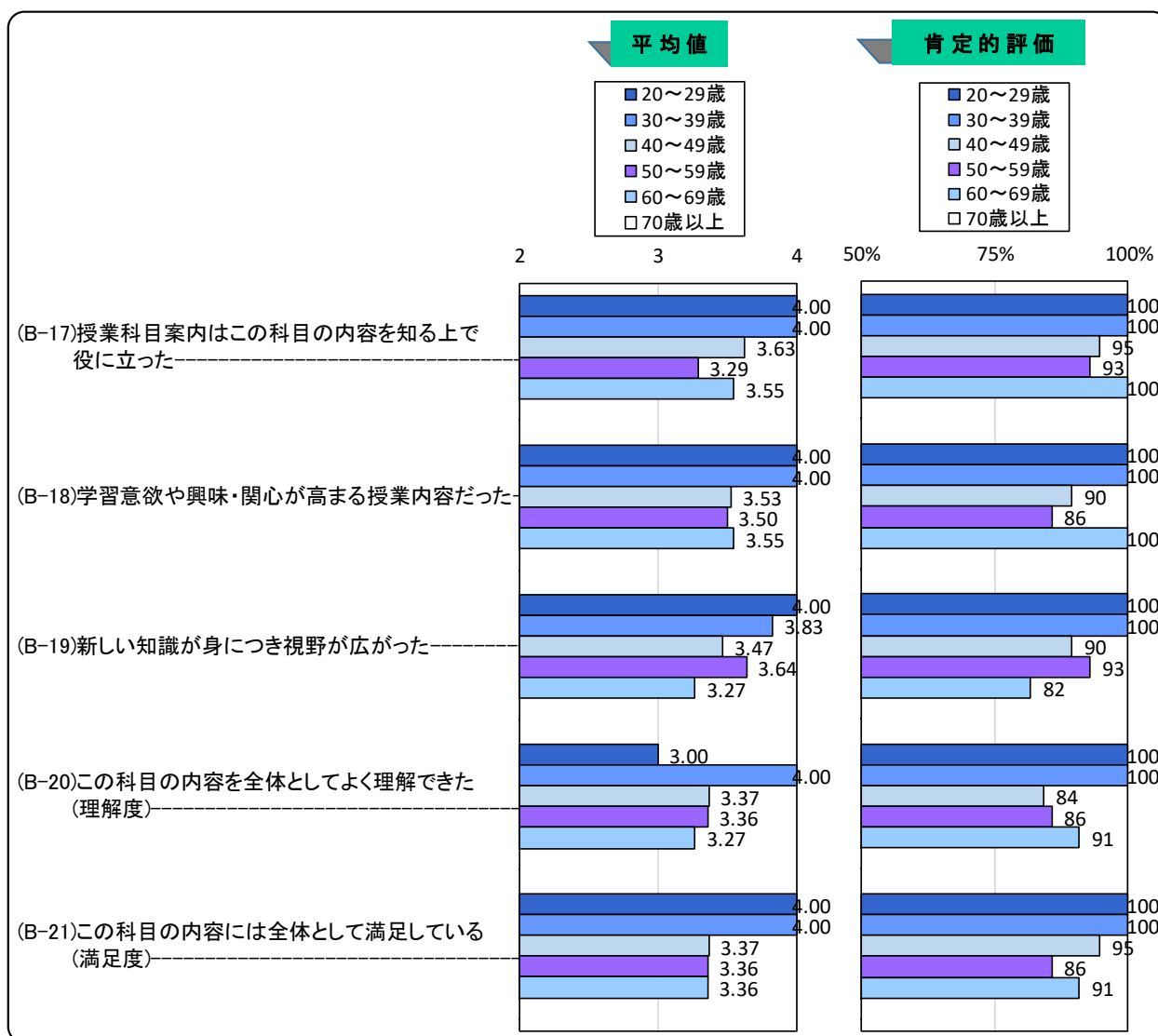
年齢階層別では（図 2－6 5）、全項目において 30 歳代が 100%と最も高かった。

（B-17）「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」、（B-18）「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」については 60 歳代も 100%となり、他の年代より高く、50 歳代が 93%、86%と最も低かった。

（B-19）「新しい知識が身につiki視野が広がった」は、60 歳代が 82%と低く、（B-20）「この科目の内容を全体としてよく理解できた（理解度）」（B-21）「この科目の内容には全体として満足している（満足度）」は 50 歳代がそれぞれ 84%、86%と低かった。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

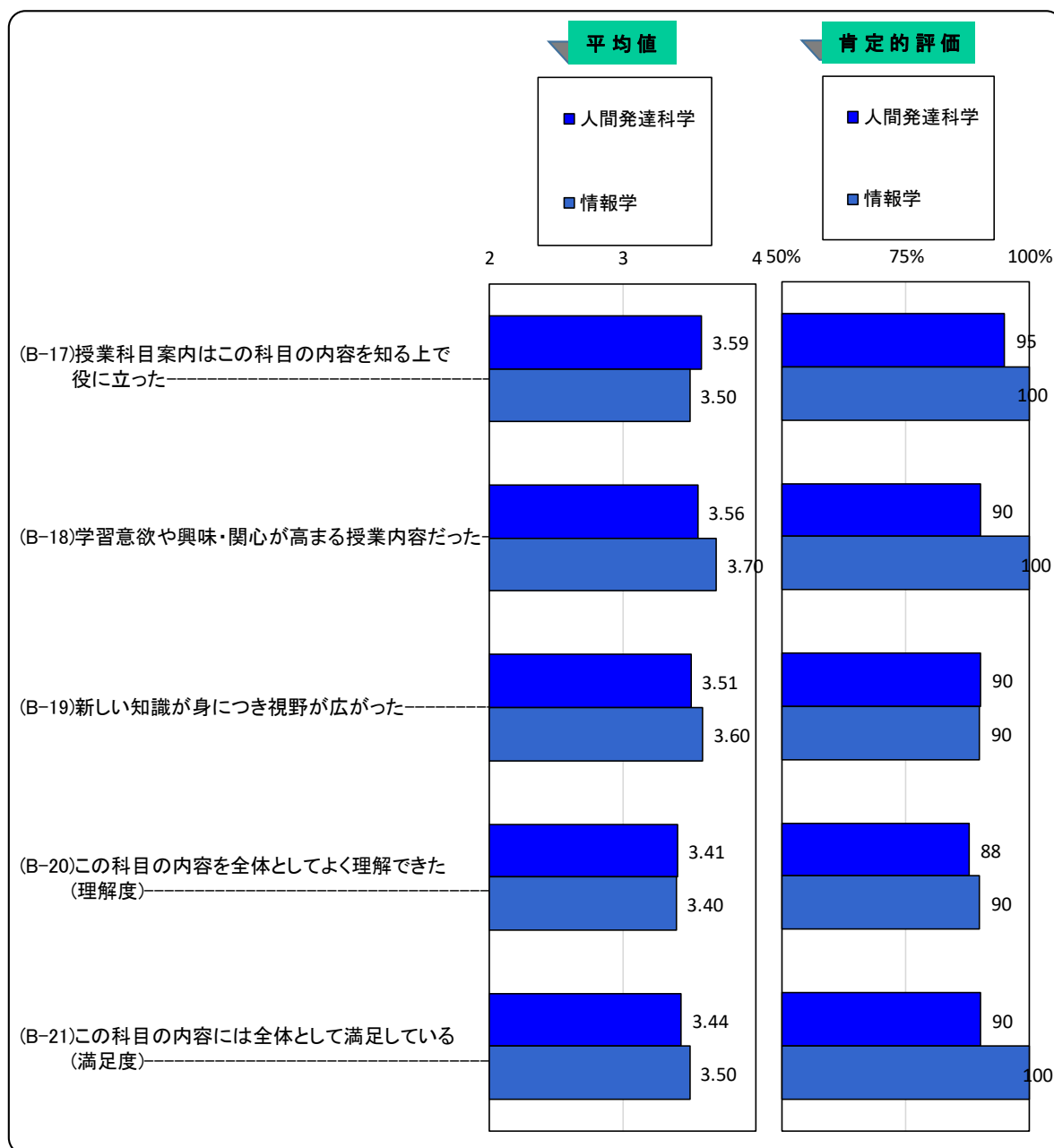
図 2－6 5 【大学院】年齢階層別の全体評価



所属プログラム別に全体評価を見ると（図２－６６）、(B-19)「新しい知識が身につく視野が広がった」を除く全ての項目において、「情報学」の評価が高かった。

「人間発達科学」においても(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」の88%を除いては、全項目において90%以上であった。

図２－６６ 【大学院】所属プログラム別の全体評価



職業別（次頁図 2－67）では、(B-17)「授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った」は、「公務員等」「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「無職」「その他」の評価が 94%と最も高かったが、「看護師等」が 67%と顕著に低かった。

(B-18)「学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった」は、「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「無職」「その他」が 100%と評価が高かった。反対に、「公務員等」は 88%最も低かった。

(B-19)「新しい知識が身につiki視野が広がった」は、「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「その他」が 100%と評価が高かったが、「看護師等」が 67%と顕著に低かった。

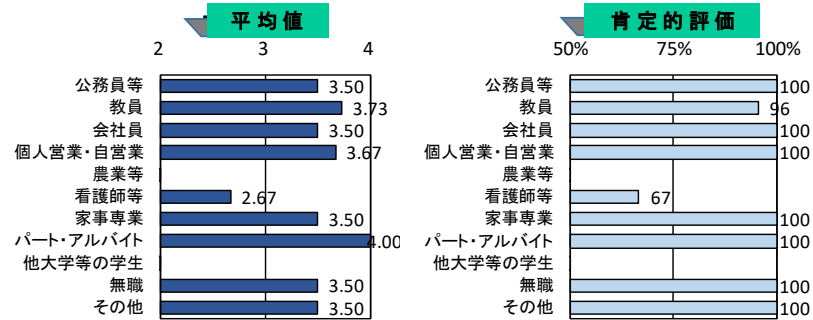
(B-20)「この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)」については、「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「無職」が 100%と評価が高かったが、「その他」が 50%と顕著に低かった。

(B-21)「この科目の内容には全体として満足している(満足度)」では「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」「無職」「その他」が 100%と評価が高かったが、「公務員等」が 75%、「看護師等」が 67%と顕著に低かった。

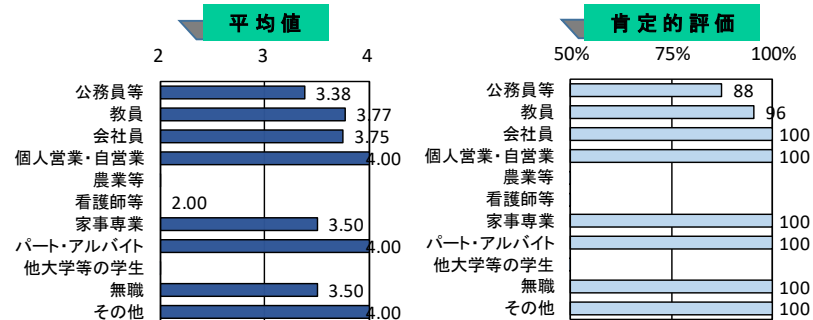
※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」(1人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2-67 【大学院】職業別の全体評価

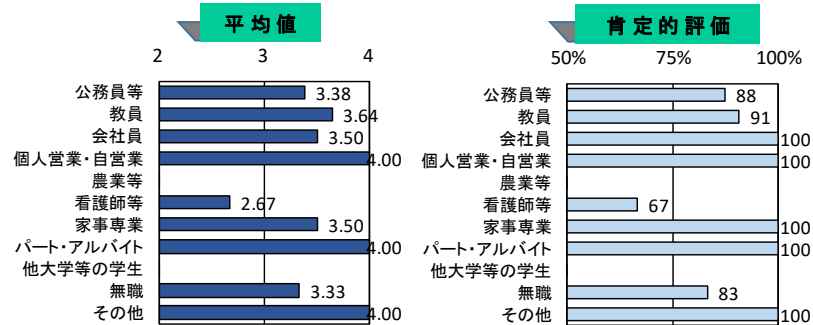
(B-17) 授業科目案内はこの科目の内容を知る上で役に立った



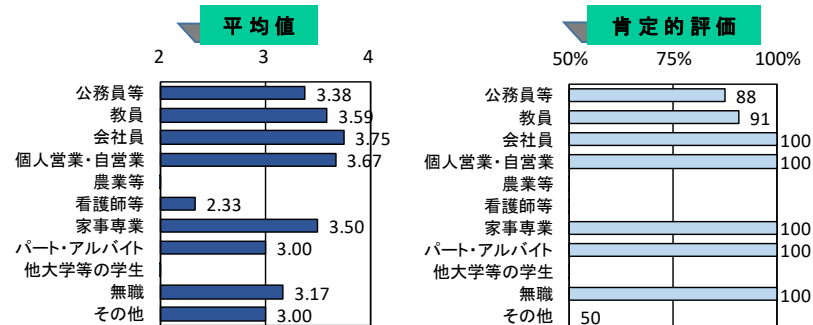
(B-18) 学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった



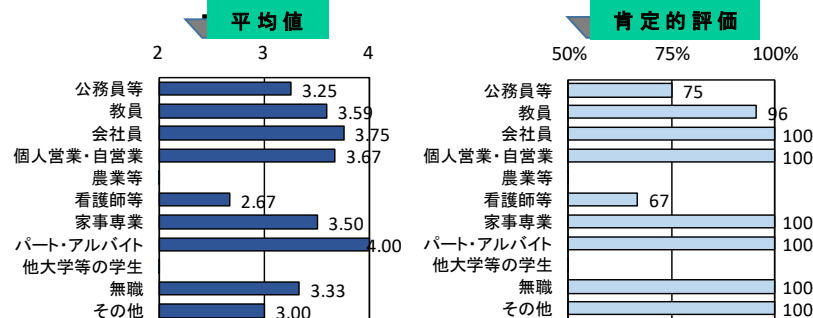
(B-19) 新しい知識が身につく視野が広がった



(B-20) この科目の内容を全体としてよく理解できた(理解度)



(B-21) この科目の内容には全体として満足している(満足度)

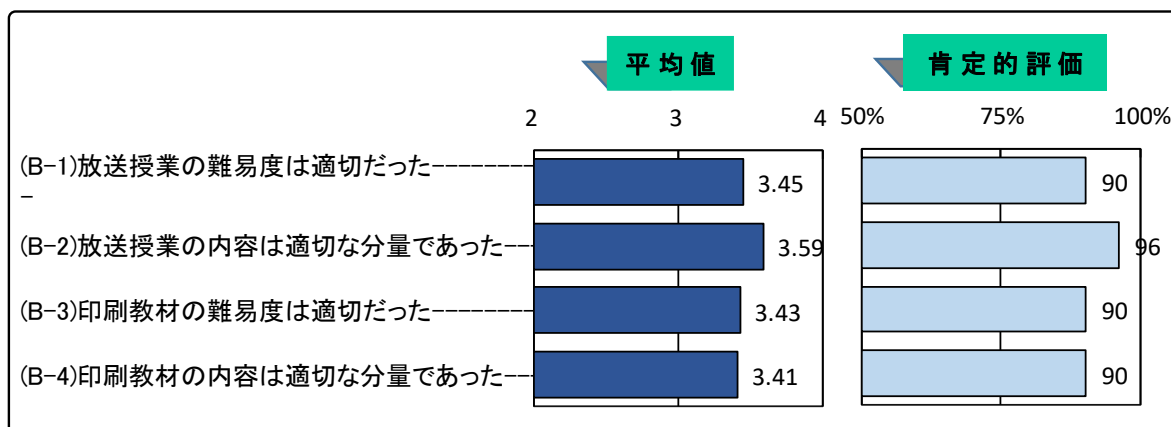


（２）授業の難易度・分量

次に授業の難易度・分量について評価項目ごとに見ていく。

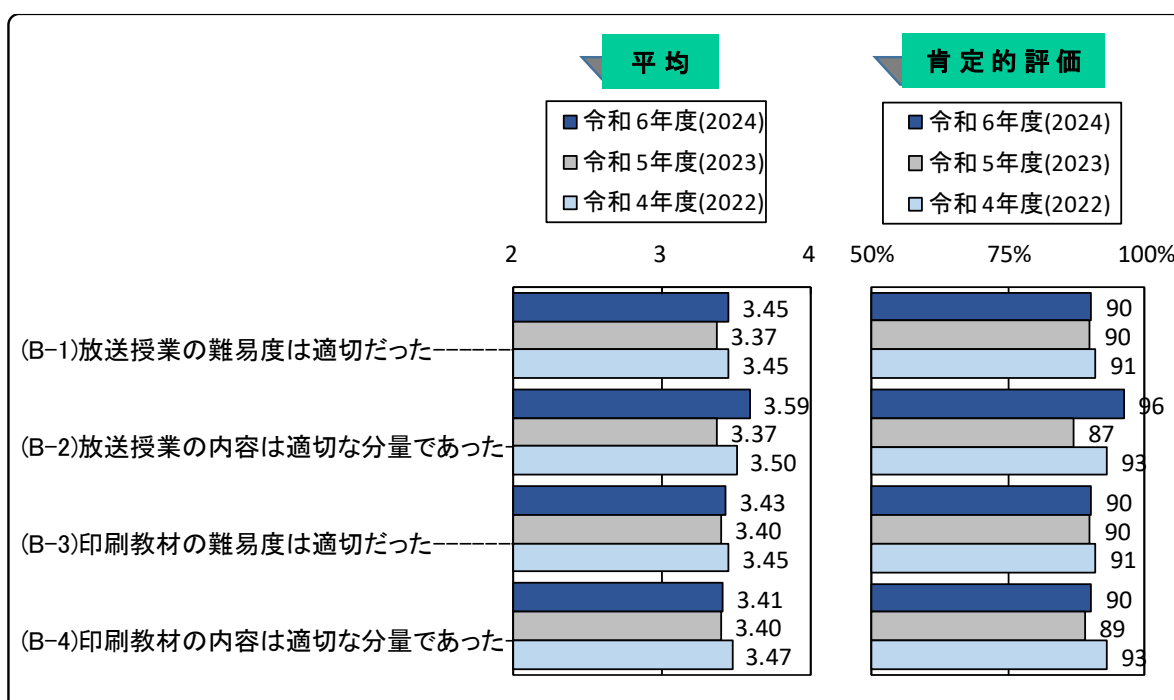
授業の難易度・分量の評価は（図２－６８）は、全ての項目で 90～96％と高い評価であった。

図２－６８【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価



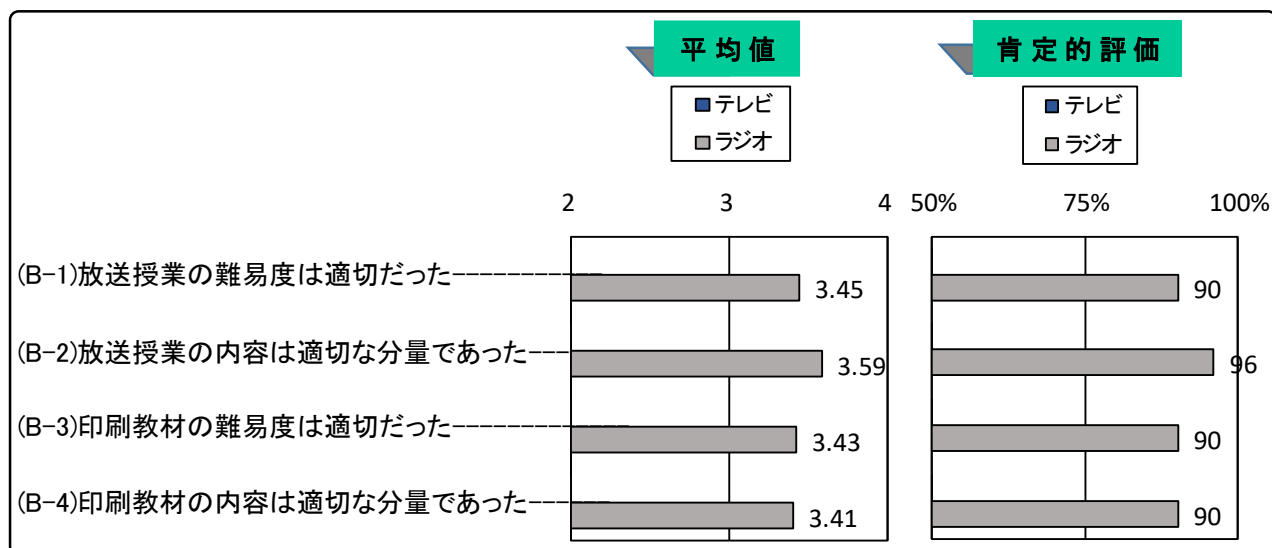
開設年度別では（図２－６９）、本年度と昨年度を比較すると、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」はいずれも 91％と変わらなかったが、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」(96％)は昨年度より 9 ポイントと大幅に上昇していた。(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」(90％)は、昨年度より 1 ポイントの上昇であった。

図２－６９【大学院】回答者全体の授業難易度・分量の評価（開設年度比較）



ラジオ科目では（図２－７０）、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」が96％と最も評価が高かった。

図２－７０【大学院】メディア別の授業難易度・分量の評価

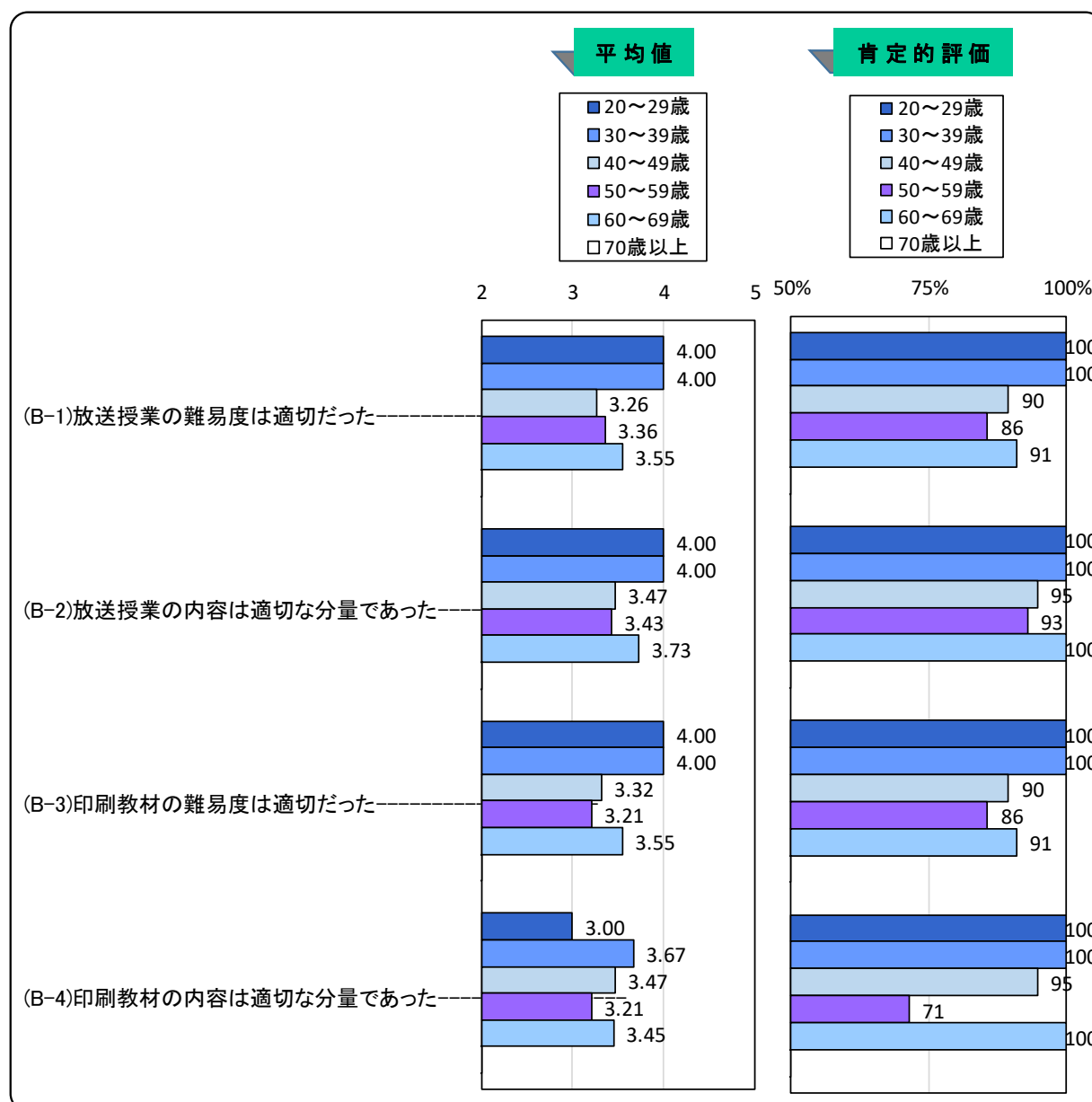


年齢階層別に授業の難易度・分量を見ると（図２－７１）、全項目において 30 歳代が 100％と最も評価が高く、(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」においては 60 歳代も 100％と評価が高かった。

(B-2)「放送授業の内容は適切な分量であった」においては全年齢層で 93％以上と評価が高かったが、(B-1)「放送授業の難易度は適切だった」(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」は 50 歳代が 86％、(B-4)「印刷教材の内容は適切な分量であった」は同じく 50 歳代が 71％と評価が低かった。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図２－７１ 【大学院】年齢階層別の授業難易度・分量の評価

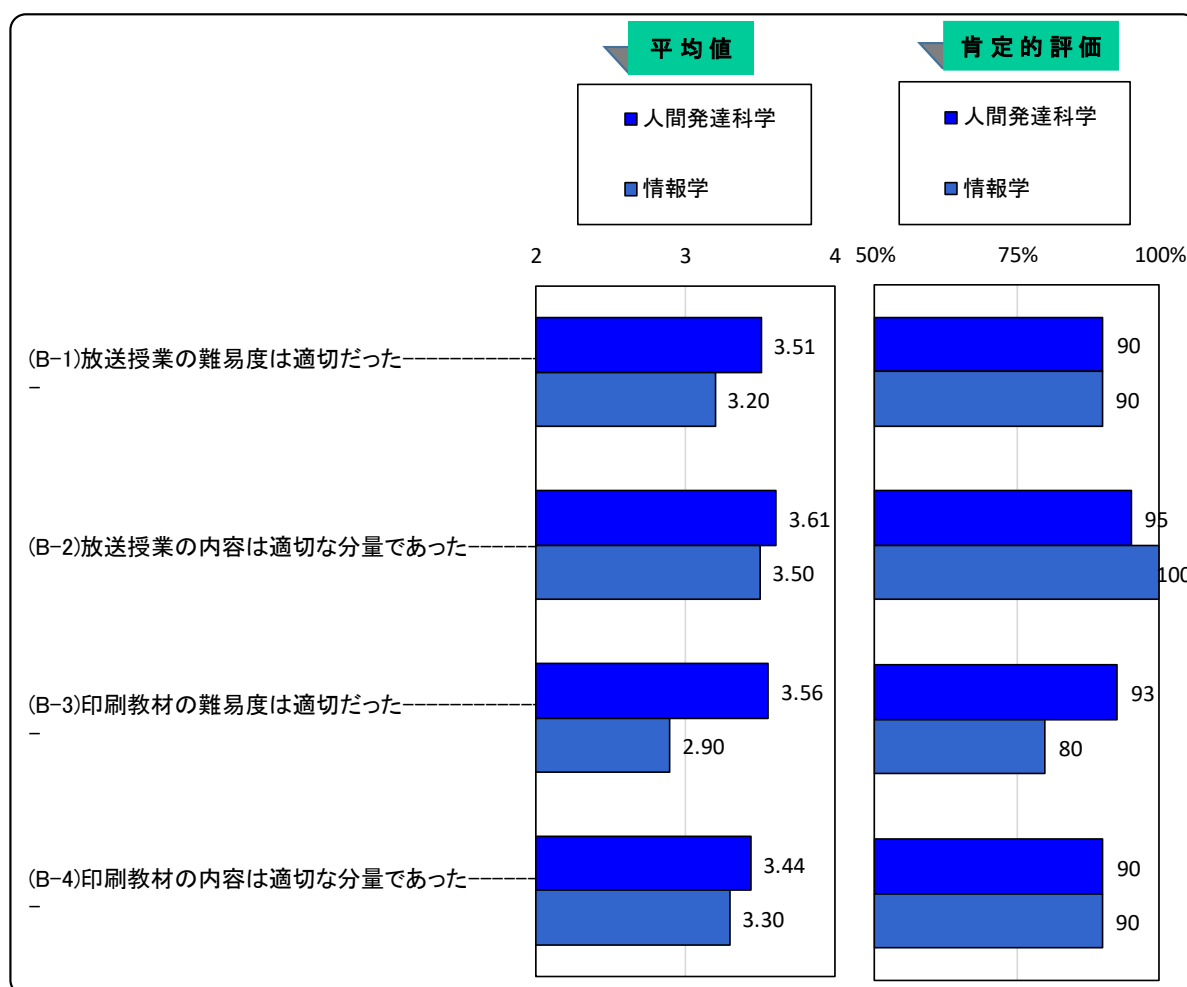


所属プログラム別に授業の難易度・分量を見ると（図２－７２）、（B-1）「放送授業の難易度は適切だった」（B-4）「印刷教材の内容は適切な分量であった」は、「人間発達科学」「情報学」ともに90％と横ばいだった。

（B-2）「放送授業の内容は適切な分量であった」は、「情報学」が100％で評価が高く、「人間発達科学」は95％であった。

（B-3）「印刷教材の難易度は適切だった」は、「人間発達科学」が93％と「情報学」を13ポイント上回る結果となった。

図２－７２【大学院】所属プログラム別の授業難易度・分量の評価



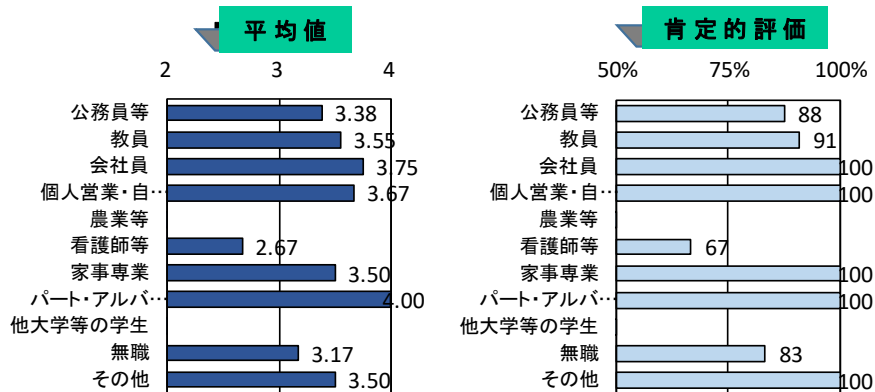
職業別に授業の難易度を見ると（次頁図 2－7 3）、全ての項目で「会社員」「個人営業・自営業」「家事専業」の評価が 100%と高い傾向にあったが、「看護師」が全ての項目で 67%と顕著に評価が低かった。

また、(B-3)「印刷教材の難易度は適切だった」においては「その他」も 50%と顕著に評価が低かった。

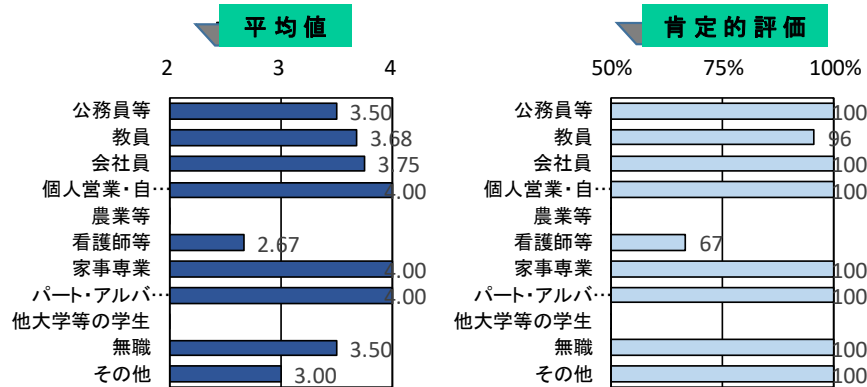
※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」(1 人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2-73 【大学院】職業別の授業難易度の評価

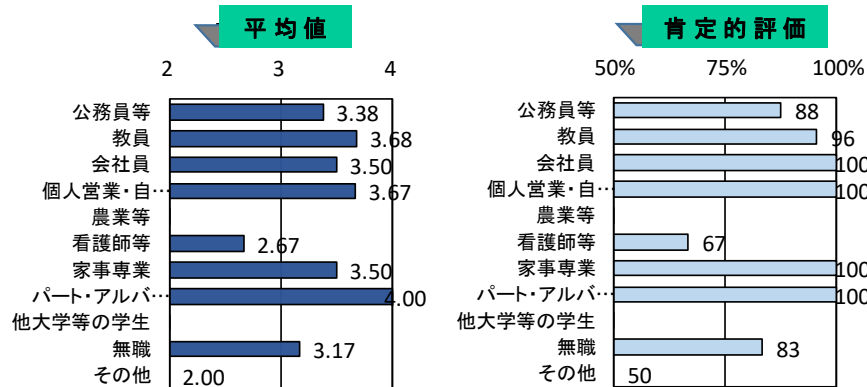
(B-1)放送授業の難易度は適切だった



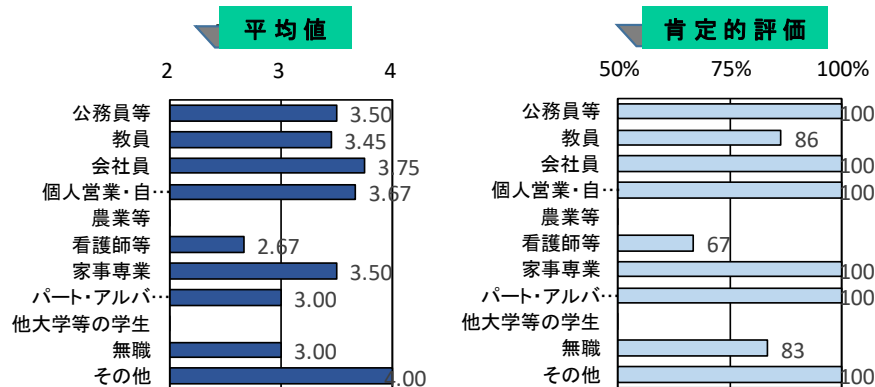
(B-2) 放送授業の内容は適切な分量であった



(B-3)印刷教材の難易度は適切だった



(B-4) 印刷教材の内容は適切な分量であった

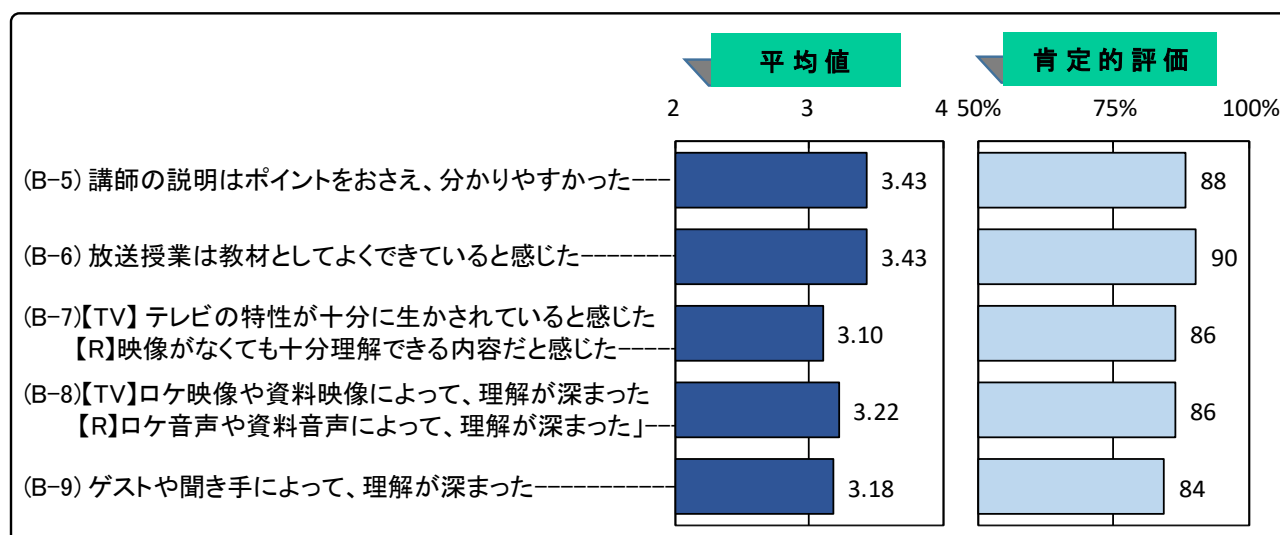


(3) 放送授業

ここからは放送授業について評価項目ごとに見ていく。

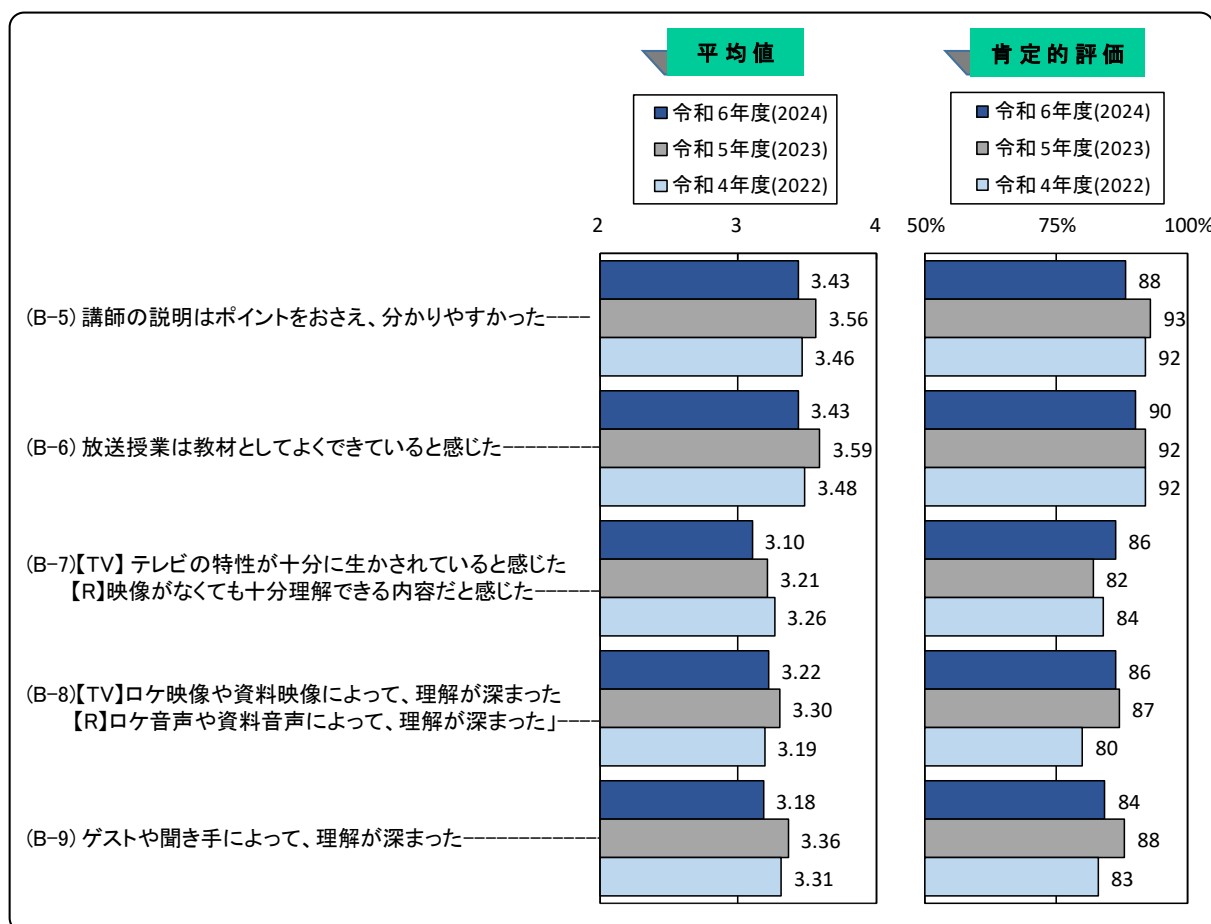
放送授業に関する評価項目を見ると（図2-74）、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が90%と最も高く、(B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」、(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」の3項目は86～88%であった。一番低かった項目は、「(B-9) ゲストや聞き手によって、理解が深まった」の84%であった。

図2-74 【大学院】回答者全体の放送授業の評価



放送授業の評価を時系列で見ると（図２－７５）、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた」は86%と、昨年度より４ポイント上昇したが、他４項目についてはすべて、昨年度から減少した。

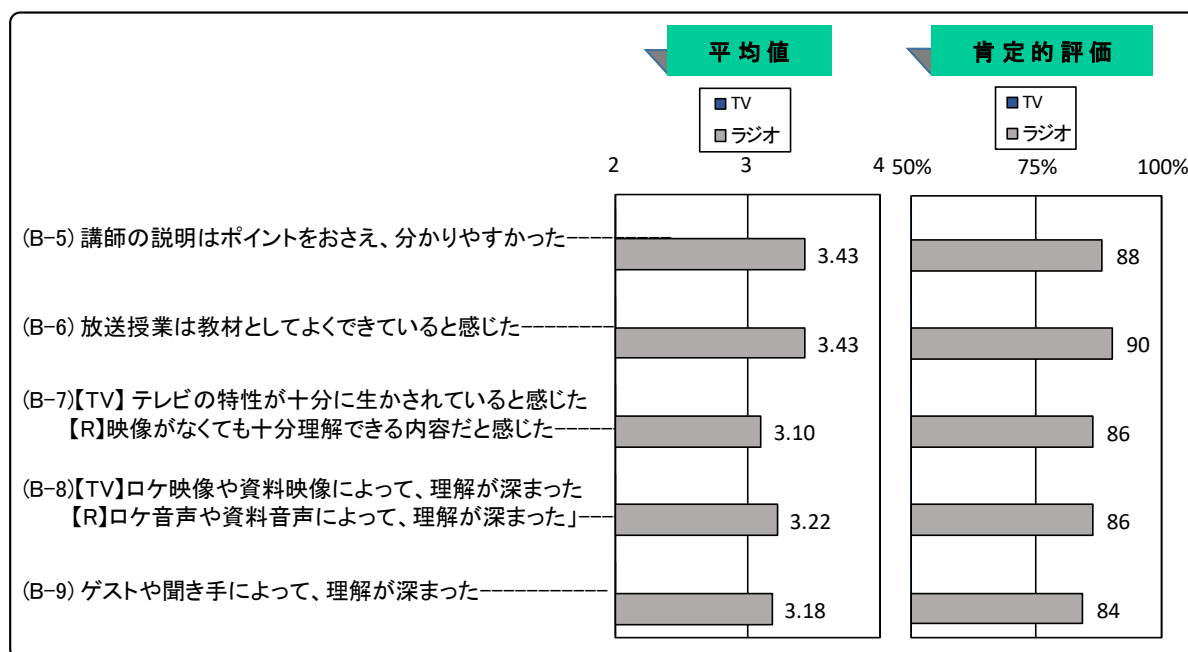
図２－７５【大学院】回答者全体の放送授業の評価（時系列）



ラジオ科目の放送授業の肯定的評価を見ると（図２－７６）」、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」が90%と最も評価が高かった。

最も評価が低かったのは(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」の84%であった。

図２－７６【大学院】メディア別の放送授業の評価（時系列）

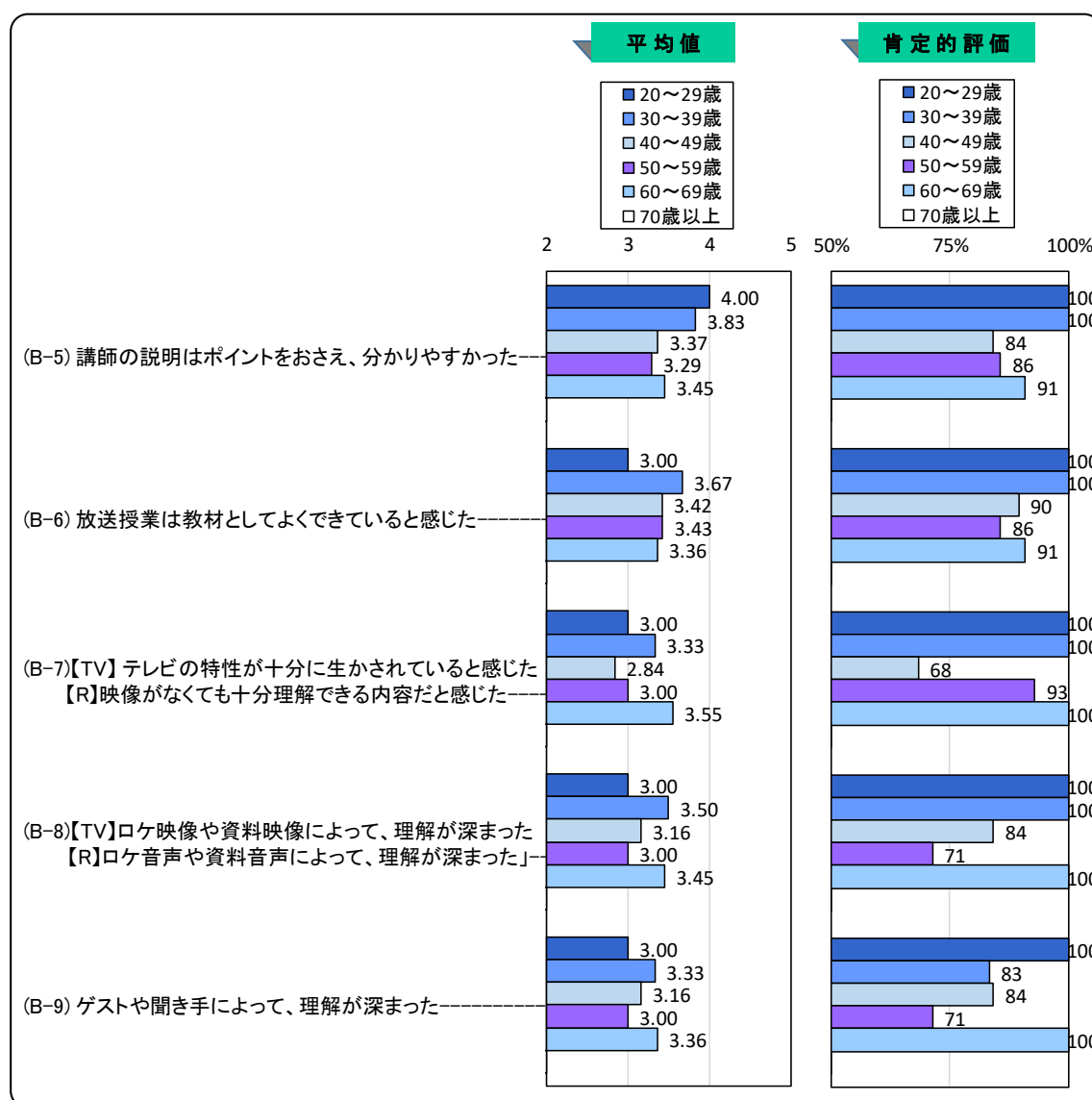


年齢階層別では（図 2－7 7）、(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」を除く全ての項目で 30 歳代が 100%と評価が高かった。また、60 歳代は(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」(B-9)「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」の 3 項目で 100%、全体を通して 91%以上と評価が高かった。

評価が低い傾向が見られたのは 40 歳代、50 歳代で、(B-7)は 40 歳代が 68%、(B-8)と(B-9)は 50 歳代が 71%と突出して低かった。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2－7 7 【大学院】年齢階層別の放送授業の評価

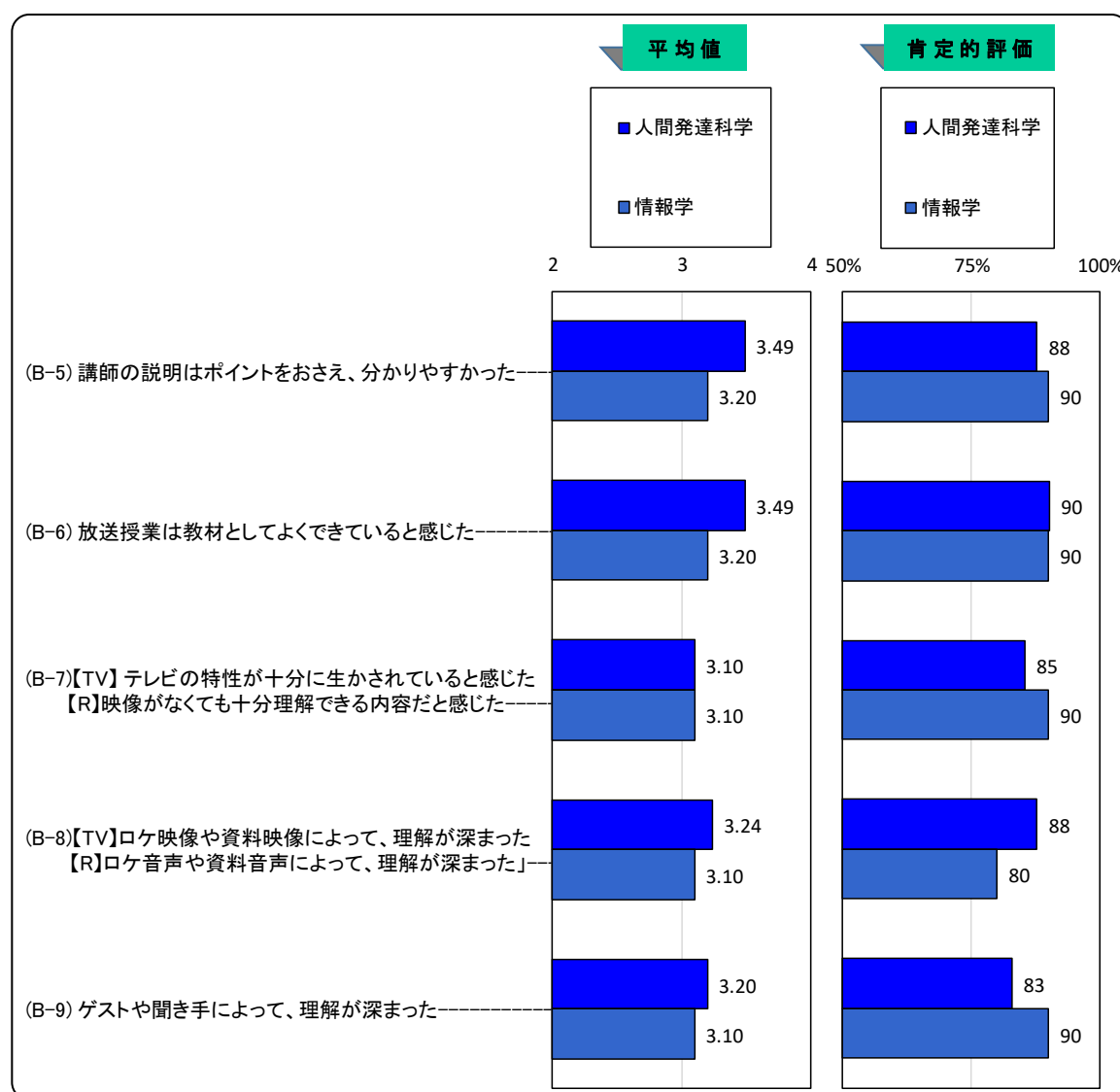


所属プログラム別では（図２－７８）、（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」以外の全項目において、「情報学」が「人間発達科学」より同水準もしくは評価が高かった。

（B-8）「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」については、「人間発達科学」が 88%、「情報学」が 80%と、「情報学」の評価が低かった。

（B-9）「ゲストや聞き手によって、理解が深まった」は「人間発達科学」が 83%、「情報学」が 90%と、「人間発達科学」の評価が低かった。

図２－７８ 【大学院】所属プログラム別の放送授業の評価



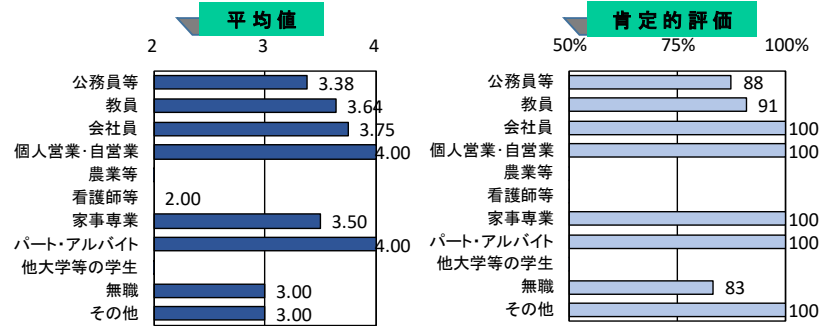
職業別では（次頁図 2－79）、「個人営業・自営業」が全ての項目において 100%と評価が高かった。また、「会社員」は(B-8)「【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった/【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった」の全てが 100%、「家事専業」が(B-8) (B-9)以外が 100%、「無職」が (B-5)「講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった」以外が 100%と評価が高かった。

一方で「看護師等」については、(B-5)が 33%、(B-6)「放送授業は教材としてよくできていると感じた」、(B-7)「【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた/【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた」が 67%と極端に評価が低かった。「家事専業」についても(B-8) (B-9)は 50%と極端に評価が低かった。

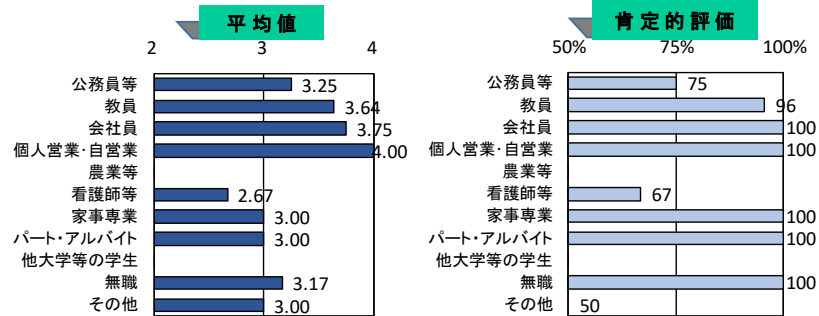
※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」(1 人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2-79 【大学院】職業別の放送授業の評価

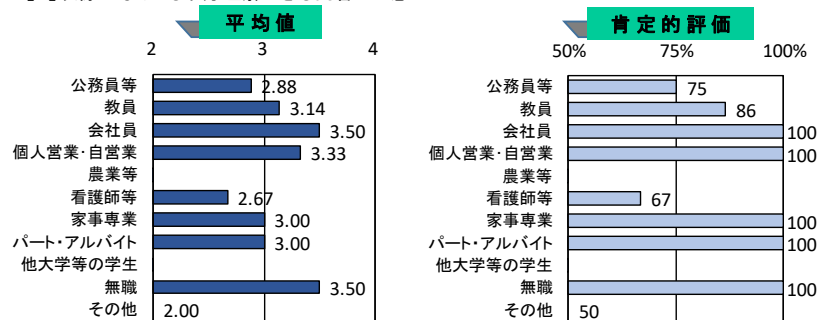
(B-5) 講師の説明はポイントをおさえ、分かりやすかった



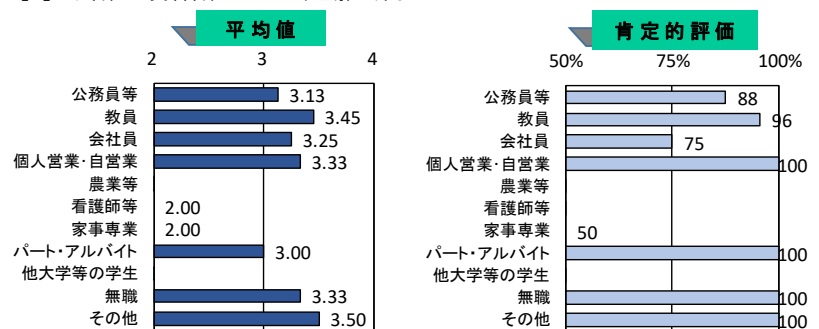
(B-6) 放送授業は教材としてよくできていると感じた



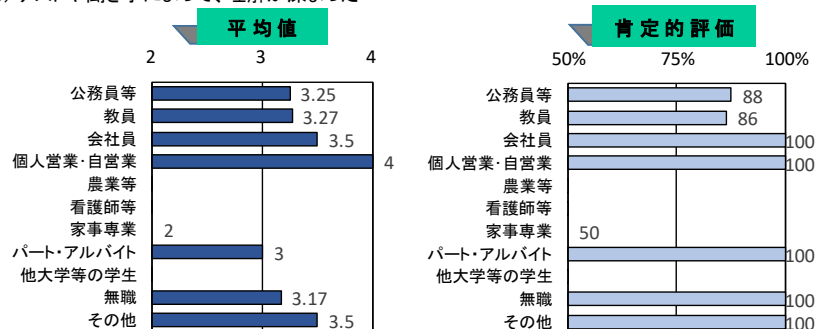
(B-7)【TV】テレビの特性が十分に生かされていると感じた
【R】映像がなくても十分理解できる内容だと感じた



(B-8)【TV】ロケ映像や資料映像によって、理解が深まった
【R】ロケ音声や資料音声によって、理解が深まった



(B-9) ゲストや聞き手によって、理解が深まった

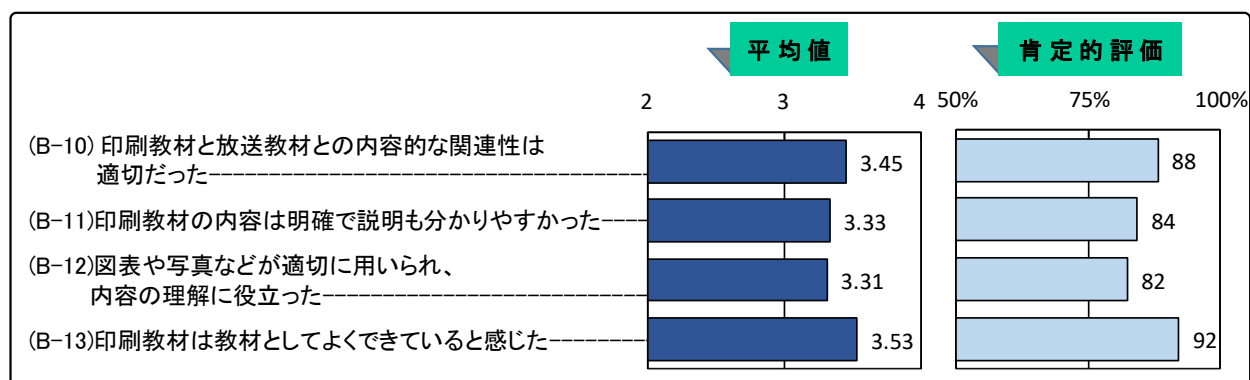


(4) 印刷教材

ここからは印刷教材について、評価項目ごとに見ていく。

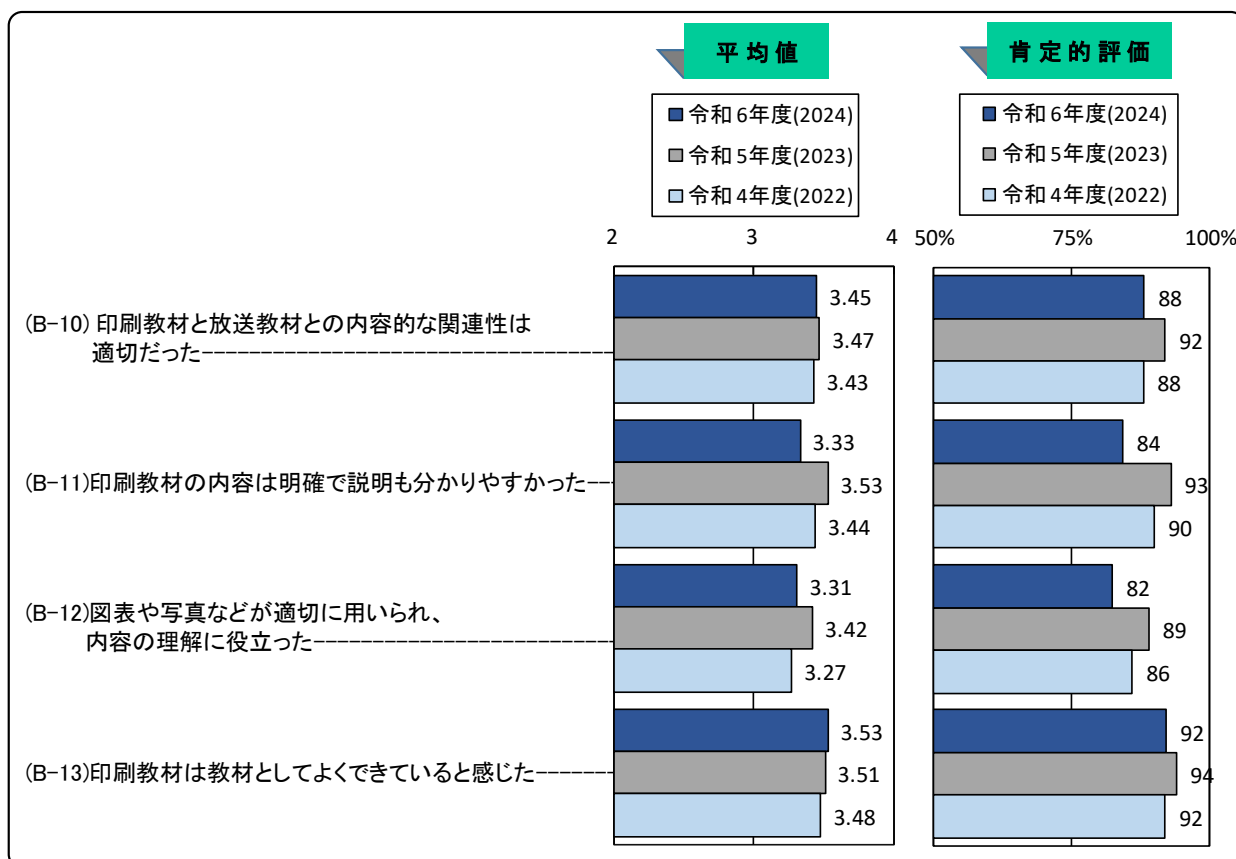
印刷教材の評価項目では(図2-80)、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が92%と最も評価が高く、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」が82%と低い評価であった。

図2-80【大学院】回答者全体の印刷教材の評価



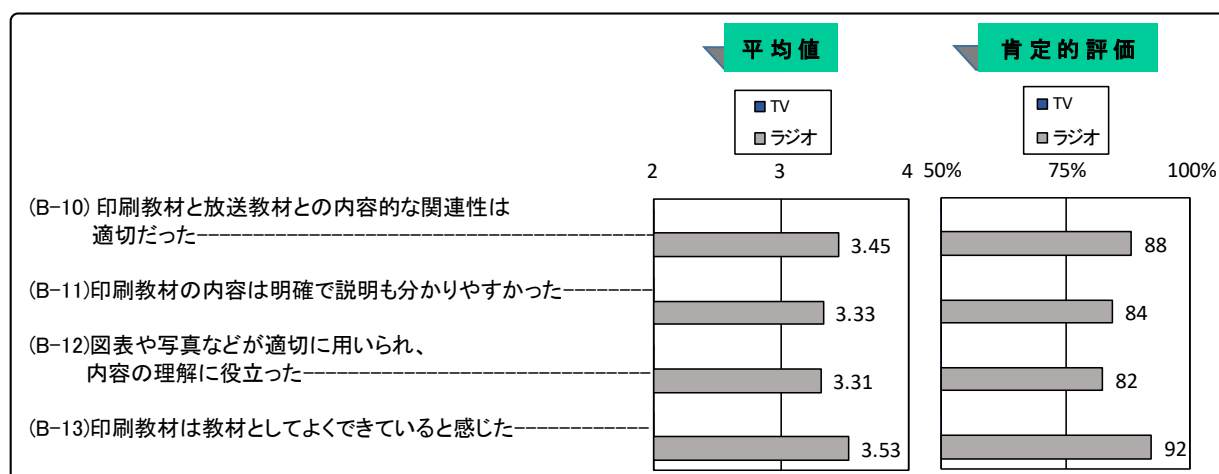
印刷教材の評価を時系列で見ると（図２－８１）、本年度は昨年度と比べ、すべての項目で昨年度を下回った。（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」については84%と、昨年度より9ポイント減と大幅に下落した。

図２－８１ 【大学院】回答者全体の印刷教材の評価（時系列）



ラジオ科目では、メディア別に印刷教材の評価を見ると（図２－８２）、(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」が 92%と最も評価が高く、(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」が 82%で最も評価が低かった。

図２－８２【大学院】メディア別の印刷教材の評価



年齢階層別の評価（図 2－8 3）は、30 歳代が全ての項目において 100%と最も評価が高かった。

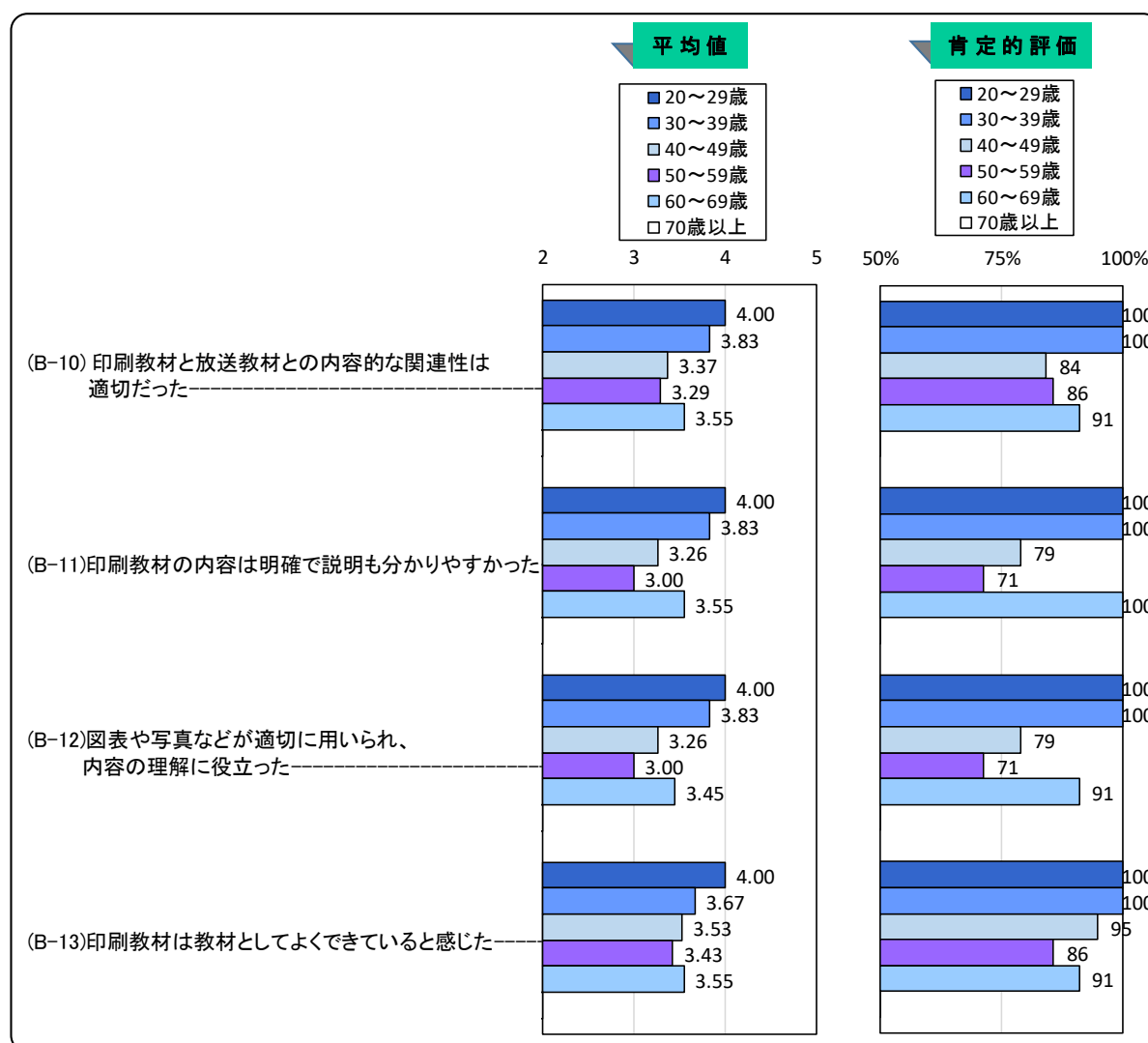
（B-10）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、40 歳代が 84%と最も低かった。

（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」、（B-12）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、50 歳代が 71%と低かった。

（B-13）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、50 歳代が 86%と低い評価であった。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2－8 3 【大学院】年齢階層別の印刷教材の評価



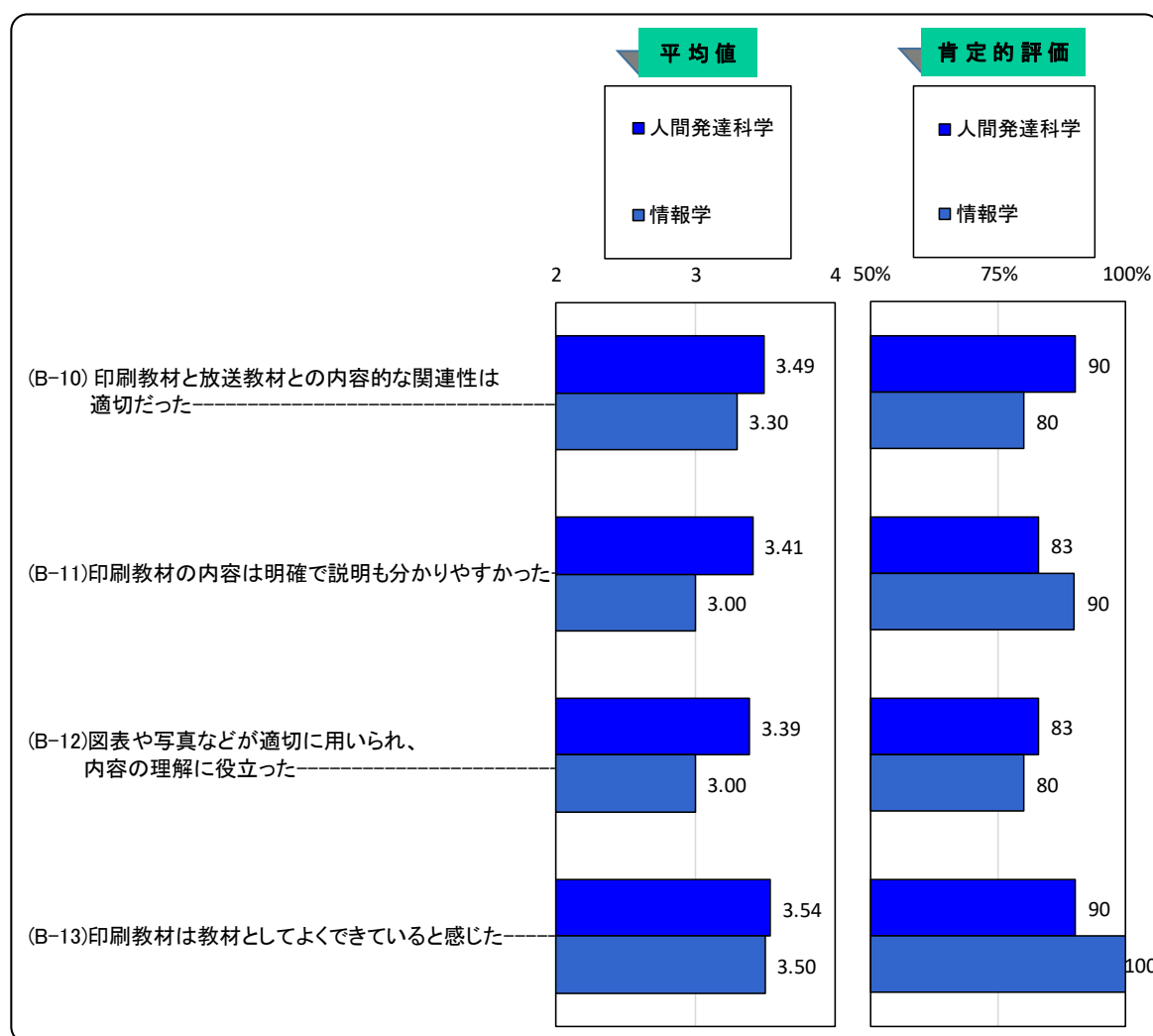
所属プログラム別の評価を見ると（図２－８４）、（B-10）「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」は、「人間発達科学」が 90%と高く、「情報学」の 80%を上回った。

（B-11）「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」では、「情報学」が 90%と高かった。逆に「人間発達科学」は 83%と低い評価であった。

（B-12）「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は、「人間発達科学」が 83%、「情報学」が 80%と横ばいであった。

（B-13）「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」は、「情報学」が 100%で高く、「人間発達科学」の 90%を上回った。

図２－８４ 【大学院】所属プログラム別の印刷教材の評価



職業別では（次頁図 2－85）、全項目で「個人営業・自営業」「家事専業」の評価が 100%で最も高くなっていた。

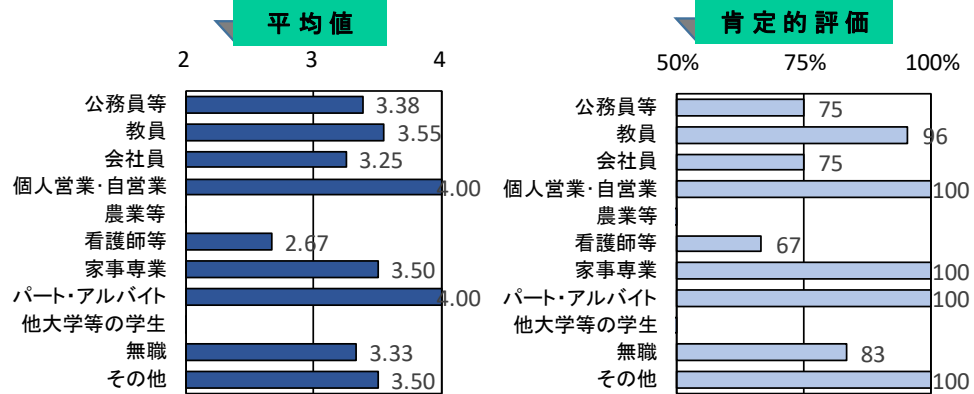
反対に評価が低かったのは、「看護師等」で、(B-10)「印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった」(B-11)「印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった」は 67%、(B-12)「図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った」は 33%と、顕著に低かった。

(B-13)「印刷教材は教材としてよくできていると感じた」では、「公務員等」の評価が 75%と最も低かった。

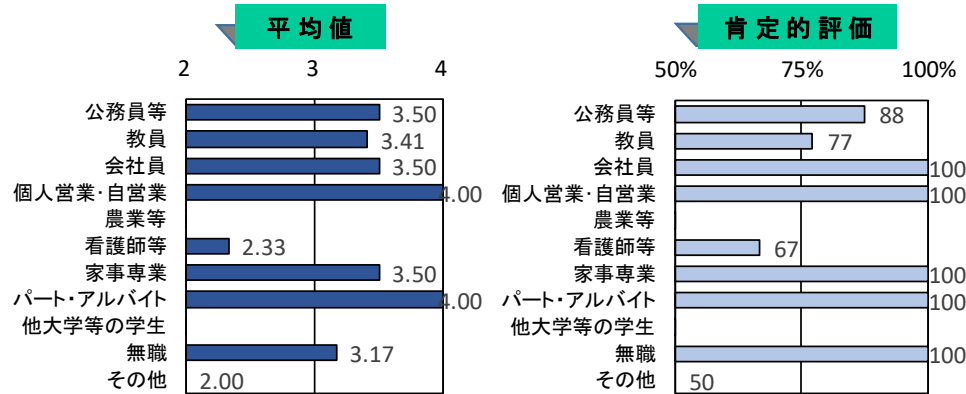
※「農業等」「他大学等の学生」は一人もおらず、「パート・アルバイト」(1 人)は回答者が少人数だった為、誤差が大きく極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2－85 【大学院】職業別の印刷教材の評価

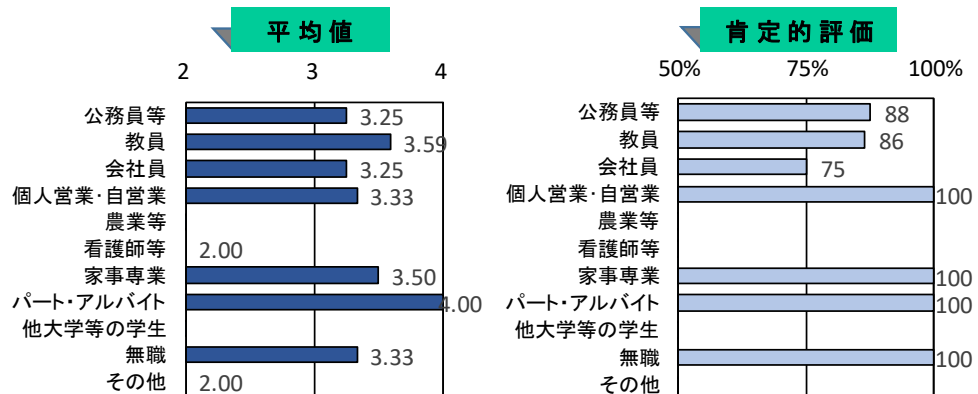
(B-10) 印刷教材と放送教材との内容的な関連性は適切だった



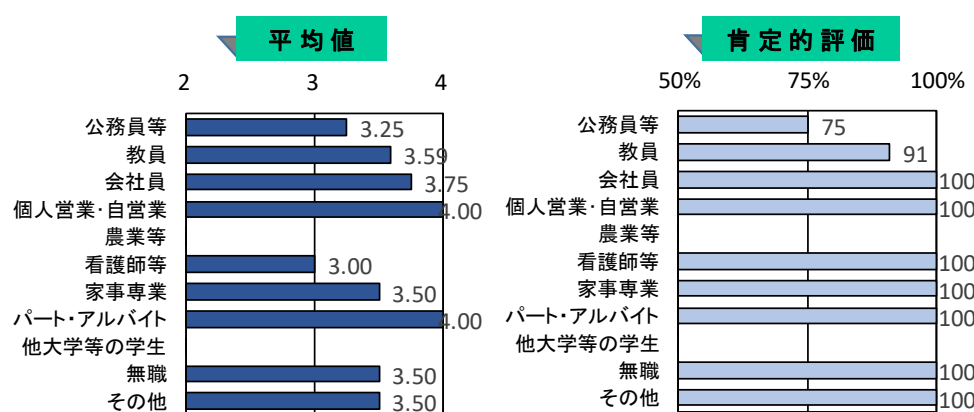
(B-11) 印刷教材の内容は明確で説明も分かりやすかった



(B-12) 図表や写真などが適切に用いられ、内容の理解に役立った



(B-13) 印刷教材は教材としてよくできていると感じた

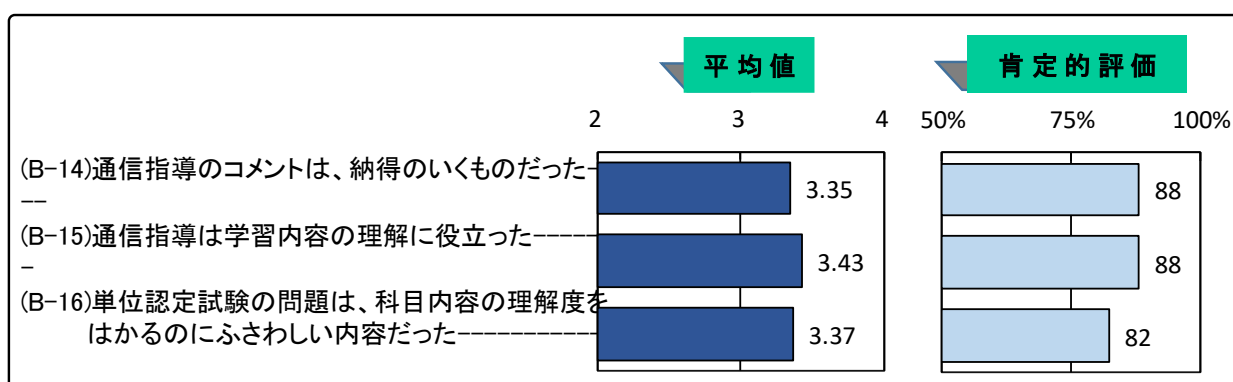


(5) 通信指導・単位認定試験

最後に通信指導・単位認定試験の評価について項目ごとに見ていくことにする。

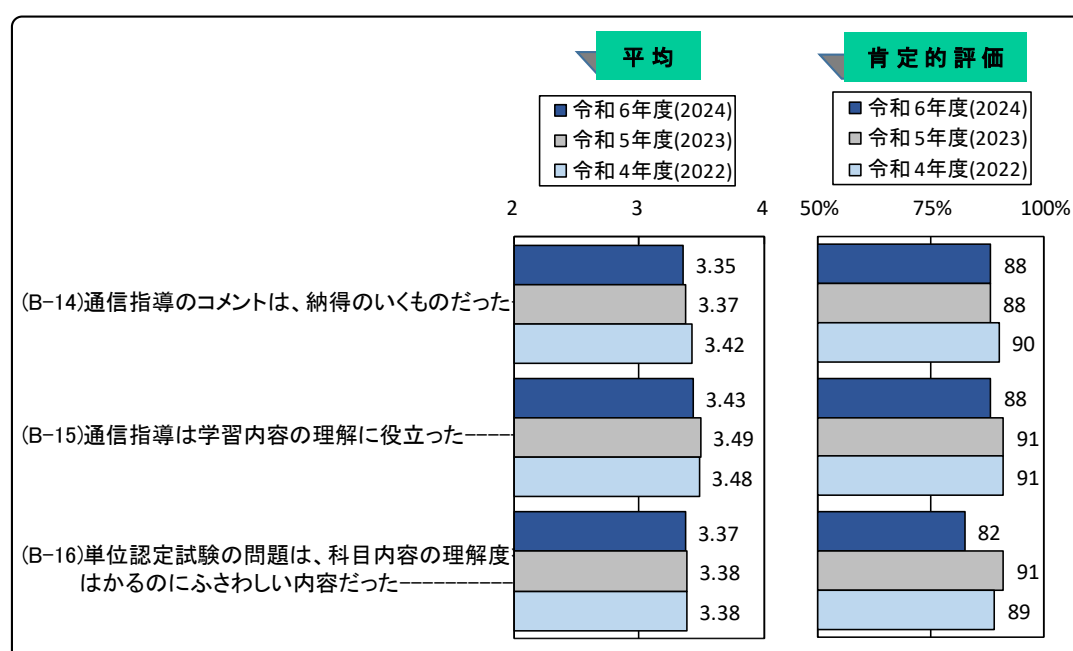
(図2-86)の通信指導については、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」と(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は88%と横並びであったが、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は82%と他項目より下回った。

図2-86【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価



通信指導・単位認定試験の評価を時系列で見ると(図2-87)、今年度は(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」が9ポイントと大きく下回っている。(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は横並び、(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」、は3ポイントの減少であった。

図2-87【大学院】回答者全体の通信指導・単位認定試験の評価(時系列)

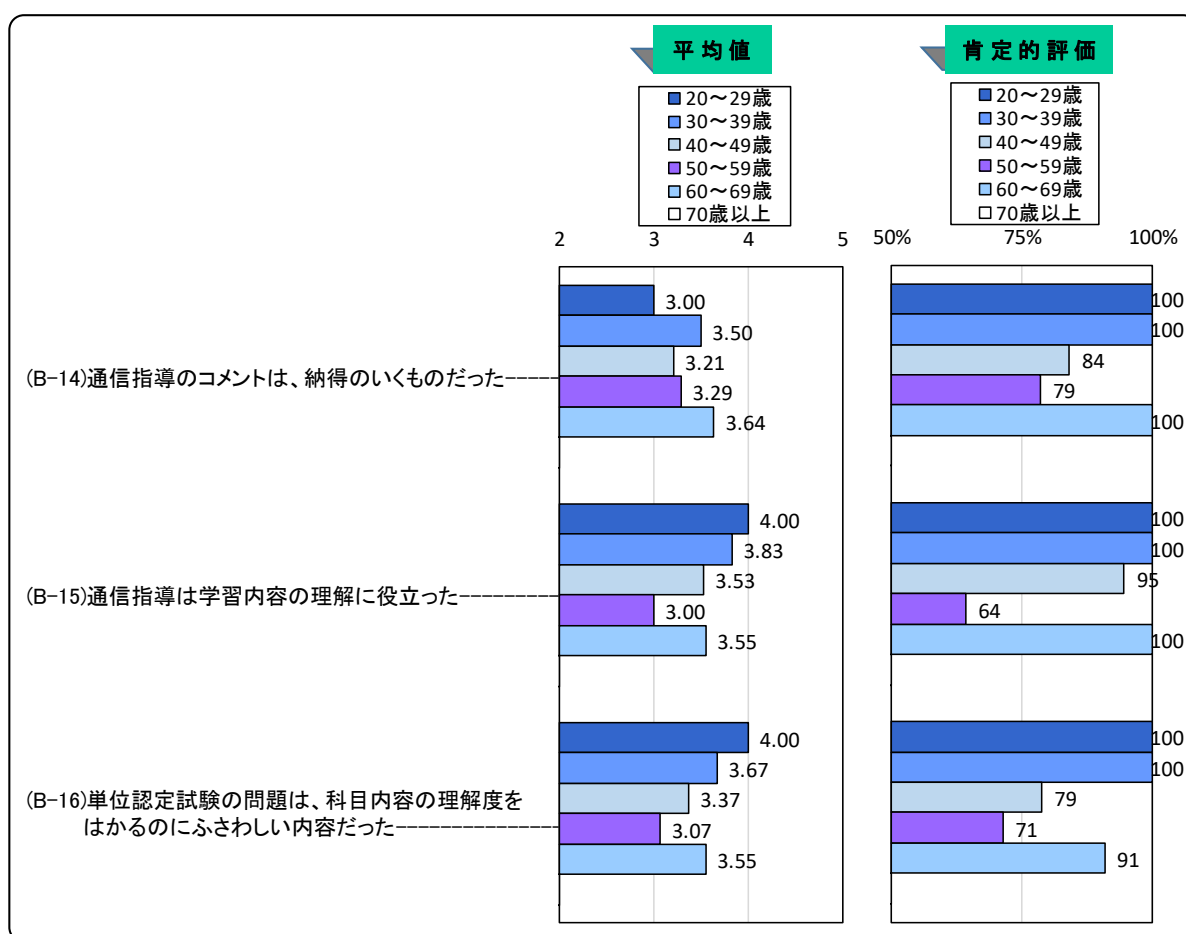


年齢階層別の評価（図 2－88）では、全項目で 30 歳代の評価が 100%と最も高かった。また、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は 60 歳代の評価も 100%と高かった。

反対に 50 歳代の評価が (B-14) が 79%、(B-15) が 64%、(B-16) が 71%と全項目で突出して低かった。

※「20～29 歳」は回答者数が 1 人と少人数で極端な値を取る場合がある為、コメントを割愛した。また、これ以降のページも同様とする。

図 2－88 【大学院】年齢階層別の通信指導・単位認定試験の評価

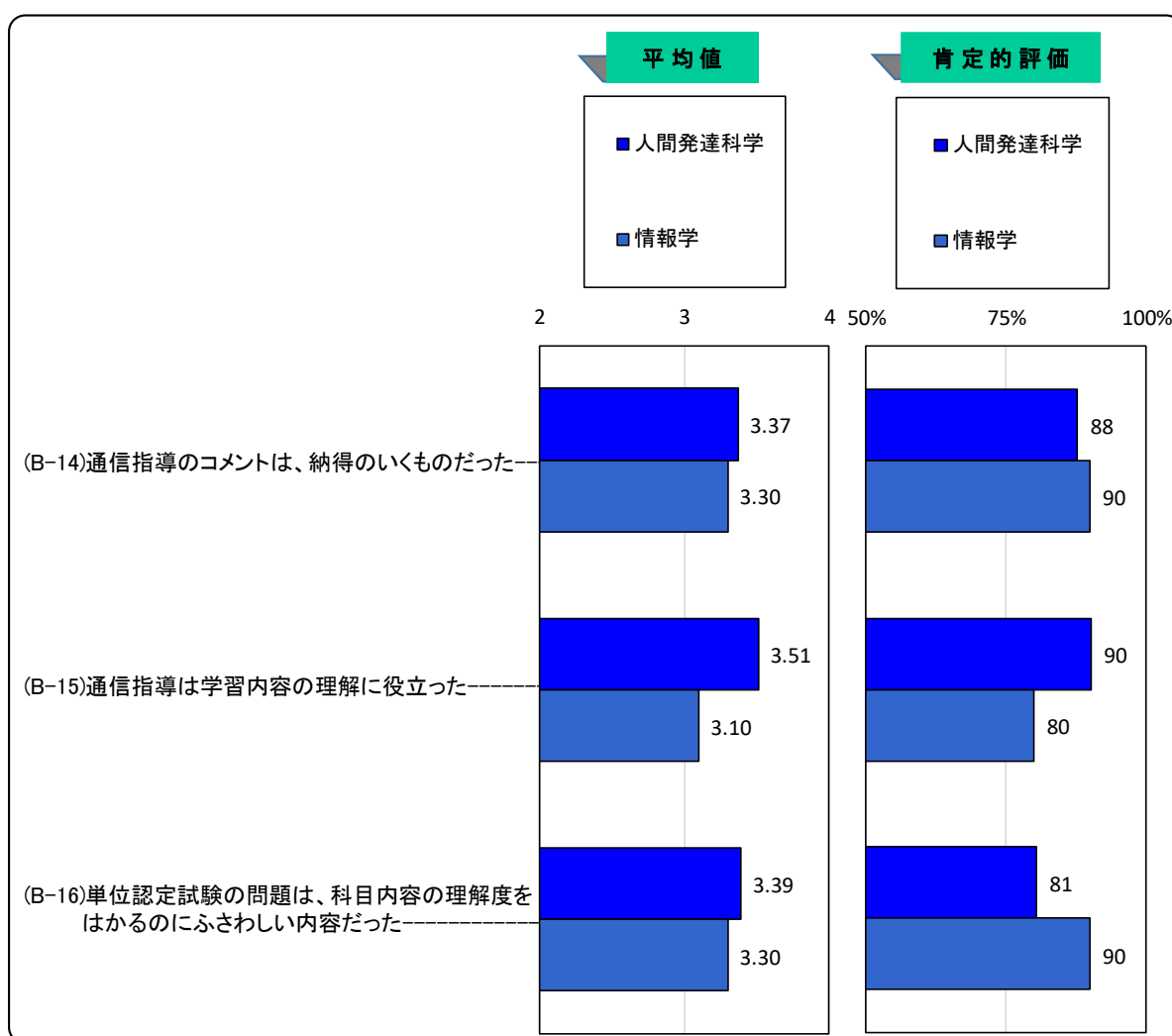


所属プログラム別では（図2-89）、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は「人間発達科学」が90%と「情報学」の88%を上回った。

(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「人間発達科学」が90%と最も高く、「情報学」は80%と大きく下回った。

(B-16)「単位認定試験の問題は科目内容の理解度ををはかるのにふさわしい内容だった」は、「情報学」が90%と最も高く、「人間発達科学」は81%と大きく下回った。

図2-89 【大学院】所属プログラム別の通信指導・単位認定試験の評価



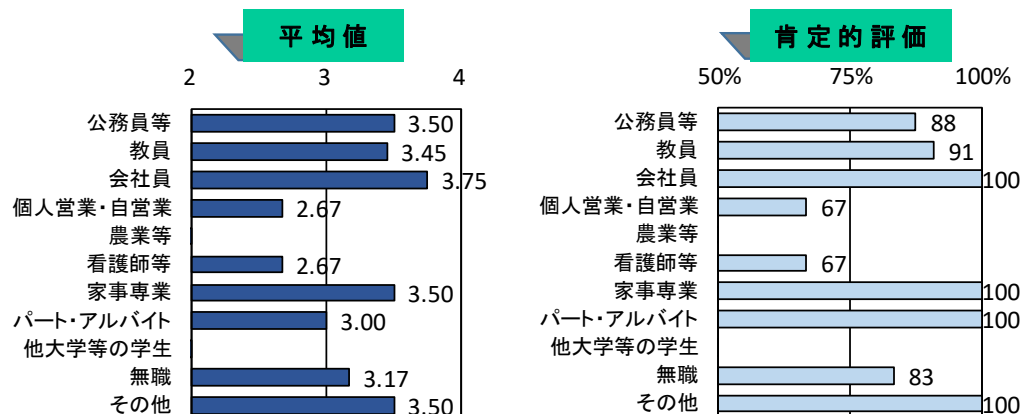
職業別では（図２－９０）、全項目で「家事専業」の評価が 100%で最も高くなっていた。

反対に評価が低かったのは、(B-14)「通信指導のコメントは、納得のいくものだった」は、「個人営業・自営業」「看護師等」がそれぞれ 67%と低かった。

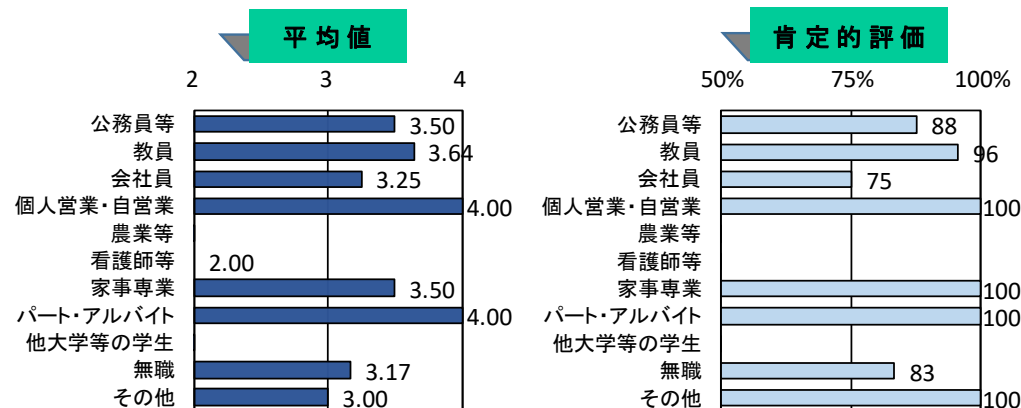
(B-15)「通信指導は学習内容の理解に役立った」は、「会社員」(75%)、(B-16)「単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった」は、「その他」(50%) が最も低かった。

図２－９０【大学院】職業別の通信指導・単位認定試験の評価

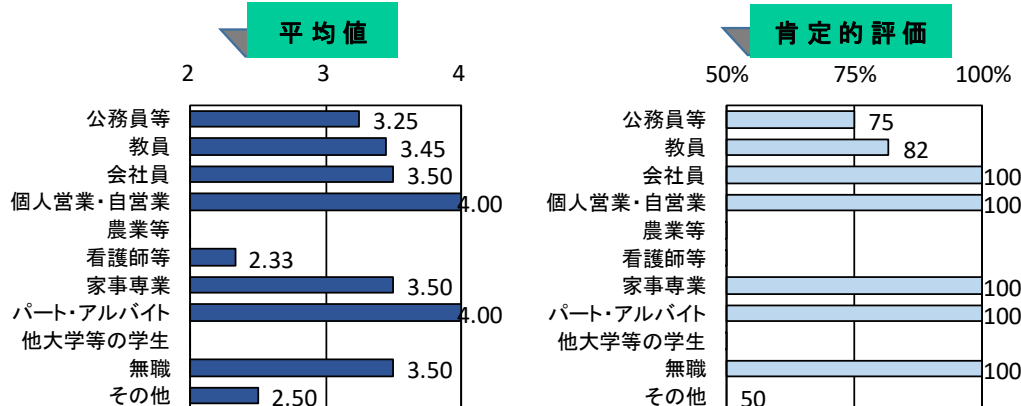
(B-14)通信指導のコメントは、納得のいくものだった



(B-15)通信指導は学習内容の理解に役立った



(B-16)単位認定試験の問題は、科目内容の理解度をはかるのにふさわしい内容だった



Ⅱ－２－４．大学院の重回帰分析

大学院でも学部同様、重回帰分析を試みた。

その重回帰分析とは、数量データである目的変数と説明変数の関係を調べ、重回帰式（モデル式）を導き出す解析手法である。

今回も、全体の満足度（B-21）「この科目の内容には全体として満足している」を目的変数とし、調査票Ⅰ.A「授業への取り組み姿勢」を除く B-1～B-20 の各項目を説明変数として分析を試みる。

本調査の選択肢はカテゴリーデータであるが、平均値の算出と同様『あてはまる→4』のように数値をポイント化する事で数量として扱い、重回帰分析を適用する。

最終的には「全体の満足度」に寄与する項目を明らかにすると共に、その影響力の強さを知る事を目的としている。

項目名	変数	対象
目的変数	y	全体の満足度：B-21
説明変数	$x_1, x_2, \dots$	各項目 B-1～B-20：全 20 問（項目）
係数	$a_1, a_2, \dots$	重回帰分析によって得られる偏回帰係数

重回帰式 $y = a_0 + a_1x_1 + a_2x_2 + \dots + a_{20}x_{20}$ （説明変数が全 20 問の場合）

分析には、IBM SPSS Statistics 25 を使用した。変数選択方法は、ステップワイズ法を採用した。変数の選択基準は、F 検定有意確率で、投入 $F \leq .05$ 、除去 $F \geq .10$ とした。VIF はすべて 10 未満で多重共線性がないことを確認したうえで重回帰分析を行った。

使用したデータは質問項目Ⅰ.B の全設問を全て回答した 51 人のローデータを使用した。

最終的に 17 変数が除去され、3 変数のモデルとなった。結果は以下の通りである。

■分析精度

自由度修正済み決定係数とは、得られた重回帰式が目的変数に対してどれだけ説明力（寄与度）があるかを示す指標で、「1」に近いほど良い結果で、この分析では 0.812 となった。

ダーヴィンワトソン比とは、残差同士の系列相関（自己相関）を示す指標で 0～4 までの値を示し、1 以下や 3 以上だと残差（誤差）に規則性があり、解析自体あるいはデータ自体に問題があり、「2」近辺の値ならよいとされるもので、その値は 1.748 となった。以上の結果から、問題のない結果が得られた事が示されている。

◆分析精度

決定係数	0.901
自由度修正済み決定係数	0.812
ダーヴィンワトソン比	1.748
残差の標準偏差	0.304

今回の重回帰分析は、分散分析表が示すとおり、有意水準 0.01 の判定で、かなりの精度で式の当てはまりの良さが確認できた。

(有意水準とは危険率と同義で 0.01 の場合、判定を誤る確率が 1%である事を表している。)

◆分散分析表

変動	偏差平方和	自由度	不偏分散	分散比	p値	判定
全体変動	24.627	50				
回帰による変動	20.001	3	6.667	67.722	0.000	[**]
回帰からの残差変動	4.627	47	0.098			

凡例	有意水準	凡例	有意水準
[**]	0.01	[*]	0.05

下表にある標準偏回帰係数とは説明変数の相互比較を可能にするためのもので、各説明変数の目的変数に対する影響力の度合いがこれで分かる。

その結果から「全体の満足度(B-21)」に寄与する項目で、その寄与度が最も高かったのは、B-2「放送授業の内容は適切な分量であった。」で 0.515、続いて B-18「放送授業の内容は適切な分量であった。」、(0.365)、B-13「印刷教材は教材としてよくできていると感じた。」(0.262)と続いていた。今後、「全体の満足度」(本年度の肯定的評価 92.2%)を上げるためには、この 3 項目の肯定的評価を上げる事が、効果的であると考えられる。

目的変数	標準 偏回帰 係数	説明変数	判定
B21-全体の満足度	0.515	B-2放送授業の内容は適切な分量であった。	[**]
	0.365	B-18学習意欲や興味・関心が高まる授業内容だった。	[**]
	0.262	B-13印刷教材は教材としてよくできていると感じた。	[*]
		定数項	[*]